ISSN　0918-3035

総社市埋蔵文化財調査年報　14

（平 成 15 年 度）

２００５年2月

総 社 市 教 育 委 員 会

総社市埋蔵文化財調査年報14（平成15年度）

ページ	位　　置	訂正前	訂正後
図版目次	第17図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
	第20図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
	第53図	(S=1/6,000)	(S=1/5,000)
	第102図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
	第105図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
	第111図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
	第125図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
13	第17図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
14	第20図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
26	第53図	(S=1/6,000)	(S=1/5,000)
31	２行目	72－１，	72－１
40	１行目	立会調音	立会調査
	７行目	「北方約１km……存在する」を削除	
41	13行目	得るこは	得ることは
42	第102図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
	第105図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
44	４行目	1995年	2003年
48	第111図	延東遺跡	延西遺跡
		延西遺跡	延東遺跡
		(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
50	第114図版	文末へ移動	
60	２行目	真壁遺跡群	三輪遺跡群
	第125図	(S=1/10,000)	(S=1/5,000)
62	２行目	総社市窪木薬師	総社市窪木
	第128図	平成15年度調査圧.	平成15年度調査区.
		平成16年度調査圧.	平成16年度調査区.
		浄化槽	浄化園
75	第145図	１m	２m

序

昭和29年，昭和の大合併により発足した総社市は，昭和47年に昭和町を編入したのち，平成16年３月31日，市制施行50周年という大きな節目を迎えました。そして平成17年３月22日，平成の大合併により，山手村・清音村とともに新たなる総社市として生まれ変わろうとしております。

総社の平野は，高梁川によって形成され，北に吉備の高原地帯・南に福山の山並みに包まれているように，総社市のみならず山手・清音両村にも広がっております。この肥沃な大地と豊かな高梁川の水に育まれ，古代より豊かな実りが与えられ，数多くの文化財がこの３市村内に残されてきました。これら文化財の中で重要なものについては，国・県・市・村により指定され，その保護に努めてまいりました。この指定重要文化財のうち史跡として，総社市には鬼城山・備中国分寺跡などで24件，山手村には福山城跡などで８件，清音村には峠１～３号墳ほかで２件となっております。

新たなる総社市の歴史的風土は，先人の残してきた足跡の上に育まれます。この足跡の証である文化財を伝え遺していくために，さまざまな努力が必要です。とくに先人の生活した跡を直接にたどれることのできる遺跡の保存と活用は最重要な課題となります。ここに刊行する『総社市埋蔵文化財調査年報』がそれら遺跡の理解を深める上で一助となれば幸いです。

関係各位におかれましては，今後ともより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年２月

総社市教育委員会

教育長　栗　田　交　三

例　　言

1．本書は，総社市教育委員会が平成15年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査および立会・確認調査等について，その概要もしくは報告をまとめたものである。

2．本書の作成は，各調査の担当者が分担・執筆し，それをまとめたもので，各文末に執筆担当者名を記し，文責とする。執筆は文化課職員，谷山雅彦・平井典子・武田恭彰・前角和夫・高橋進一・松尾洋平が行い，編集は前角が行なった。

3．本書に関する写真や図面，出土遺物等については，総社市埋蔵文化財学習の館で保管している。

目　　次

序　　文

例　　言

１．総社市埋蔵文化財行政の概要

平成15年度埋蔵文化財行政の概要 …… 1

２．立会および確認調査の概要

個人住宅改築に伴う立会調査（見延181）…… 9
個人住宅増築に伴う試掘調査（日羽877）……10
個人住宅建設に伴う立会調査（秦392-３）……12
個人住宅建設に伴う立会調査（秦1570-１）……13
個人住宅建設に伴う立会調査（総社1214-34）……14
遊戯場増築に伴う立会調査（中央4-2-104ほか）……15
個人住宅改築に伴う立会調査（久代326ほか）……16
農家住宅増築に伴う立会調査（南溝手108-３）……17
個人住宅建設に伴う試掘調査（総社2562ほか）……18
共同住宅建設に伴う立会調査（中央６-11-119）……20
個人住宅増築に伴う試掘調査（中央１-９-17）……21
共同住宅建設に伴う試掘調査（福井2021ほか）……23
個人住宅改築に伴う立会調査（窪木879-１）……25
個人住宅建設に伴う立会調査（新本4544-２）……26
個人住宅擁壁建設に伴う試掘調査（真壁855-２）……27
幼稚園建設に伴う立会調査（中央３-９-101）……29
秦幼稚園増築工事に伴う立会調査（秦2987）……30
分譲住宅地造成に伴う立会調査（門田70-７ほか）……31
個人住宅増築に伴う立会調査（久代3636ほか）……32
福祉施設建設に伴う試掘調査（真壁399）……33
個人住宅建設に伴う試掘調査（小寺38-10）……35
個人住宅建設に伴う立会調査（三須1609-33）……36
福祉施設増築に伴う試掘調査（久米36ほか）……37
個人住宅建設に伴う立会調査（新本7347-３）……38
個人住宅改築に伴う立会調査（新本7776）……39
個人住宅建設に伴う立会調査（西阿曽327-５）……40
貸店舗建設に伴う立会調査（小寺４-１ほか）……41

個人住宅建設に伴う立会調査（井手503-５ほか）……42
個人住宅建設に伴う立会調査（黒尾1851）……43
表面採集の石斧（槁1028）……44

３．発掘調査の概要

平成14・15年度　東総社中原本線改良事業に伴う発掘調査……47
「賀夜」等の墨書を出土した大溝の遺物について……51
鬼ノ城　角楼から西門周辺の発掘調査……56
駅南区画整理事業に伴う発掘調査……60
し尿処理場（浄化園）増築に伴う発掘調査（１）……62
マンション建設に伴う発掘調査概要……67
山田地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査（10）……69
駐輪場建設に伴う発掘調査……78

４．史跡整備事業の概要

鬼城山環境整備事業……81

図　版　目　次

ー総社市埋蔵文化財行政の概要ー
第１図　立会・確認調査位置図１……4
第２図　立会・確認調査位置図２……5
ー立会および確認調査の概要ー
個人住宅改築に伴う立会調査（見延181）
第３図版　土層断面（東から）……9
第４図　土層柱状図（S=1/60）……9
第５図　調査地位置図（S=1/5,000）……9
個人住宅増築に伴う立会調査（日羽877）
第６図　調査地位置図（S=1/6,000）……10
第７図　土層柱状図（S=1/50）……11
第８図　トレンチ配置図（S=1/500）……11
第９図版　T-１断面（南から）……11
第10図版　T-２断面（西から）……11
第11図版　T-３断面（南から）……11
個人住宅建設に伴う立会調査（秦392-3）
第12図版　土層断面……12
第13図　土層柱状図（S=1/50）……12
第14図　調査地位置図（S=1/6,000）……12
個人住宅建設に伴う立会調査（秦1570-1）
第15図版　調査区全景……13
第16図版　土層断面……13
第17図　調査区位置図（S=1/10,000）……13
個人住宅建設に伴う立会調査（総社1214-34）
第18図版　土層断面……14
第19図　土層柱状図（S=1/40）……14
第20図　調査地位置図（S=1/10,000）……14
遊戯場増築に伴う立会調査（中央4-2-104ほか）
第21図版　土層断面（東から）……15
第22図　土層柱状図（S=1/60）……15
第23図　調査地位置図（S=1/5,000）……15
個人住宅改築に伴う立会調査（久代326ほか）
第24図版　土層断面（南西から）……16
第25図　土層柱状図（S=1/60）……16
第26図　調査地位置図（S=1/5,000）……16
農家住宅増築に伴う立会調査（南溝手108-3）
第27図版　土層断面……17
第28図　土層柱状図（S=1/60）……17
第29図　調査地位置図（S=1/5,000）……17
個人住宅建設に伴う試掘調査（総社2562ほか）
第30図　調査地位置図（S=1/5,000）……18
第31図　トレンチ位置図（S=1/400）……19
第32図　土層柱状図（S=1/50）……19
第33図版　T-１土層断面（南から）……19
第34図版　T-２土層断面（南から）……19
共同住宅建設に伴う立会調査（中央6-11-119）
第35図版　土層断面（北から）……20
第36図　土層柱状図（S=1/50）……20
第37図　調査地位置図（S=1/5,000）……20
個人住宅増築に伴う試掘調査（中央1-9-17）

第38図　調査地位置図（S=1/5,000）……21
第39図　掘削部分位置図（S=1/400）……22
第40図　土層柱状図（S=1/50）……22
第41図版　土層断面（東から）……22
第42図版　地下室部分掘り下げ状況……22
共同住宅建設に伴う試掘調査（福井2021ほか）
第43図　調査地位置図（S=1/5,000）……23
第44図　トレンチ位置図（S=1/800）……24
第45図　土層柱状図（S=1/50）……24
第46図版　調査地遠景（北から）……24
第47図版　T-1土層断面……24
個人住宅改築に伴う立会調査（窪木879-1）
第48図版　土層断面……25
第49図　土層柱状図（S=1/50）……25
第50図　調査地位置図（S=1/5,000）……25
個人住宅建設に伴う立会調査（新本4544-2）
第51図版　土層断面……26
第52図　土層柱状図（S=1/50）……26
第53図　調査地位置図（S=1/6,000）……26
個人住宅擁壁建設に伴う試掘調査（真壁855-2）
第54図　調査地位置図（S=1/5,000）……27
第55図　トレンチ位置図（S=1/2500）……28
第56図　土層断面図（S=1/40）……28
第57図版　調査地遠景（北から）……28
第58図版　北壁土層断面（南から）……28
第59図版　東壁土層断面（西から）……28
第60図版　西壁土層断面（東から）……28
幼稚園建設に伴う立会調査（中央3-9-101）
第61図版　土層断面……29
第62図　土層柱状図（S=1/50）……29
第63図　調査地位置図（S=1/5,000）……29
秦幼稚園増築工事に伴う立会調査（秦2987）
第64図　調査地位置図（S=1/5,000）……30
第65図　トレンチ配置図（S=1/300）……30
第66図版　T３土層断面……30
第67図　土層断面図（S=1/80）……30
分譲住宅地造成に伴う立会調査（門田70-7ほか）
第68図版　調査地遠景……31
第69図　土層断面図（S=1/50）……31
第70図　調査地位置図（S=1/5,000）……31
個人住宅増築に伴う立会調査（久代3636ほか）
第71図版　土層断面……32
第72図　土層柱状図（S=1/60）……32
第73図　調査地位置図（S=1/5,000）……32
福祉施設建設に伴う試掘調査（真壁399）
第74図　調査地位置図（S=1/5,000）……33
第75図　トレンチ位置図（S=1/400）……34
第76図　土層断面図（S=1/40）……34
第77図版　調査地遠景（北東から）……34
第78図版　T-1土層断面（東から）……34
第79図版　T-2土層断面（東から）……34
第80図版　T-4土層断面（西から）……34
個人住宅建設に伴う試掘調査（小寺38-10）
第81図版　土層断面……35
第82図　土層断面図（S=1/50）……35
第83図　調査地位置図（S=1/5,000）……35
個人住宅建設に伴う立会調査（三須1609-33）
第84図版　土層断面（北から）……36
第85図　土層柱状図（S=1/50）……36
第86図　調査地位置図（S=1/6,000）……36
福祉施設増築に伴う立会調査（久米36ほか）
第87図版　調査地遠景……37
第88図　土層断面図（S=1/40）……37
第89図　調査地位置図（S=1/5,000）……37
個人住宅建設に伴う立会調査（新本7347-3）
第90図版　土層断面……38
第91図　土層柱状図（S=1/60）……38
第92図　調査地位置図（S=1/6,000）……38
個人住宅改築に伴う立会調査（新本7776）
第93図版　土層断面（東から）……39
第94図　土層柱状図（S=1/60）……39
第95図　調査地位置図（S=1/6,000）……39
個人住宅建設に伴う立会調査（西阿曽327-5）
第96図版　土層断面（東から）……40
第97図　土層柱状図（S=1/50）……40
第98図　調査地位置図（S=1/6,000）……40
貸店舗建設に伴う立会調査（小寺4-1ほか）
第99図　調査地位置図および土層模式図
（S=1/5,000・50）……41
個人住宅建設に伴う立会調査（井手503-5ほか）
第100図版　調査地遠景……42
第101図　土層柱状図（S=1/20）……42
第102図　調査地位置図（S=1/10,000）……42
個人住宅建設に伴う立会調査（黒尾1851）
第103図版　調査地遠景……43
第104図版　土層断面……43
第105図　調査地位置図（S=1/10,000）……43
表面採集の磨製石斧
第106図　採集地位置図（S=1/5,000）……44
第107図　石斧実測図（S=1/2）……45
第108図版　石斧　平面・側面……45
第109図版　石斧採集地点（南西から）……45
第110図版　石斧採集地遠景（南から）……45
ー発掘調査の概要ー
平成14・15年度　東総社中原本線改良事業に伴う発掘調査
第111図　調査地位置図（S=1/10,000）……48
第112図版　延西遺跡１～４区全景……49

第113図版　延東遺跡掘立柱建物群 ……49
第114図版　中所遺跡，大溝と遺物出土状況 ……50
「賀夜」等の墨書を出土した大溝の遺物について
第115図　出土遺物１（S=1/4）……52
第116図　出土遺物２（S=1/4）……53
第117図　出土遺物３（S=1/4）……54
鬼ノ城　角楼から西門周辺の発掘調査
第118図　鬼ノ城平面図（S=1/8,000）……56
第119図　角楼平面図（S=1/200）……57
第120図　西門平面図（S=1/300）……58
第121図版　角楼Ｐ１・Ｐ２と捨石（南西から）……59
第122図版　角楼Ｐ１・Ｐ２（北西から）……59
第123図版　西門　右掘形ライン ……59
第124図版　西門　左掘形ライン ……59
駅南区画整理事業に伴う発掘調査
第125図　調査地位置図（S=1/10,000）……60
第126図版　荒神ヶ市遺跡Ⅲ区 ……61
第127図版　荒神ヶ市遺跡Ⅲ区 ……61
し尿処理場（浄化園）増築に伴う発掘調査（１）
第128図　平成15年度調査区位置図（S=1/2,000）…62
第129図　窪木薬師遺跡遺構配置図（S=1/200）……63
第130図　SH04　平面図（S=1/60）……65
第131図　SH04　出土遺物（S=1/4）……65
第132図版　調査区全景（東から）……65
第133図版　調査区遠景（東から）……65
第134図　出土遺物（S=1/4）……66
マンション建設に伴う発掘調査
第135図　調査地位置図（S=1/5,000）……67
第136図　遺構配置図（S=1/200）……68
第137図版　遺構完掘状況（南西から）……68
第138図版　住居址完掘状況（南西から）……68
山田地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査（1）
第139図　八絋古墳群位置図（S=1/5,000）……69
第140図　八絋２・３号墳墳丘平面図（S=1/100）…70
第141図　八絋２号墳石室平・断面図（S=1/60）……72
第142図　八絋２号墳墳丘・石室断面図（S=1/60）…73
第143図版　八絋２号墳墳丘盛土断面（南から）……73
第144図　八絋２号墳出土遺物（S=1/4）……74
第145図　八絋３号墳墳丘・石室断面図（S=1/60）…75
第146図　八絋３号墳出土遺物（S=1/4）……76
第147図版　八絋古墳群遠景（西から）……77
第148図版　八絋２号墳全景 ……77
第149図版　八絋２・３号墳近景（西から）……77
駐輪場建設に伴う発掘調査
第150図　調査地位置図（S=1/6,000）……78
第151図　遺構配置図（S=1/200）……79
第152図版　完掘状況（南東から）……79
第153図版　調査区完掘状況（北から）……79
ー史跡整備事業の概要ー
鬼城山環境整備事業
第154図　鬼城山環境整備復元地区図（S=1/1,000）…83
第155図版　西門復元と高石垣･土塁遠景（学習広場から）…84
第156図版　角楼表示遠景（学習広場から）……84

表　目　次

ー総社市埋蔵文化財行政の概要ー
表１　発掘調査一覧表 …… 1
表２　立会・確認調査一覧表 …… 3
表３　事前審査一覧表（立会・確認調査分を除く） … 6

１．総社市埋蔵文化財行政の概要

平成15年度埋蔵文化財行政の概要

総社市内における埋蔵文化財に関しては，史跡整備事業をはじめ，開発行為にともなう記録保存を目的とする発掘調査，そのほかの埋蔵文化財保護行政，いずれも文化課文化財係で対応している。

〔組織〕

教育長　　桒田　交三
教育次長　丸山　光男
参　事　　平田　充宏
文化課長　加藤　信二
課長補佐　谷山　雅彦
主　査　　平井　典子
主　査　　武田　恭彰
主　任　　前角　和夫
主　事　　高橋　進一
主　事　　松尾　洋平
主　事　　笹田　健一
臨時職員　福田有美子（～平成15年９月）
〃　　吉村　瞳　（平成15年10月～）

（埋蔵文化財学習の館）
館　長　　村上　幸雄
臨時職員　近藤　雅子
〃　　田中　富子

〔埋蔵文化財の調査〕

平成15年度に実施した発掘調査は８件（表１）で，調査面積は約9,300㎡，発掘調査費用は約63,968千円である。調査件数のうち７件が公共事業関連で，残る１件が民間事業である。また，このうち２件は前年度からの継続事業である。

この発掘調査件数からみても，公共事業が主体であり，景気回復の兆しがまだ緩やかな傾向にあることから，大規模な民間開発はない。

表１　発掘調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査契機	調査期間	担当
1	延東遺跡･延西遺跡ほか	井手200－1ほか	公･市道新設事業	H14.11.26～H16.3.31	前角
2	鬼城山	奥坂1762－14ほか	公･史跡整備事業	H15.4.14～8.6 H16.2.　～3.	村上 松尾
3	真壁遺跡群	真壁650－1ほか	公･区画整理事業	H15.4.30～H16.3.31	平井 高橋
4	有市1号墳	山田830－1	公･ほ場整備事業	H15.6.1～6.30	武田
5	窪木薬師遺跡	窪木1476･1477ほか	公･し尿処理施設建設事業	H15.6.16～10.30 H16.3.18～3.31	武田
6	真壁遺跡切子田地区	中央5丁目9－107	民･分譲マンション建設事業	H15.8.19～9.5	平井 高橋
7	八絃古墳群	山田830－4	公･ほ場整備事業	H15.10.21～12.31	武田
8	真壁遺跡群	溝口370－54	公･駅前再開発事業	H16.2.14～2.20	平井 高橋

また，遺跡存在の有無などの協議や照会を経て立会や確認調査の実施にいたった件数は46件（表２）と，ここ２～３年のそれと比較して２倍以上の増となっている。これは個人住宅等における対応件数が増大していることに起因している。従来個人住宅においては３階建て以上を審査の基準としていたが，建築確認申請等のすべてついて対応を行なった結果（表３）である。このことは市街地周辺部における遺跡の保護に大きな進歩がみられた。

しかしながら，件数的にみて平成元～10年の長期で比較すると増減はまったくみとめられず，景気の浮き沈みがあったとしても個人対応を行なった分だけは増加するはずである。この疑問に回答を与えるのが，平成11年５月より施行された改正建築基準法である。民間の指定検査確認機関の存在により，平成15年度総社市内においては，建築確認申請（変更も含む）の総数373件のうち，114件が民間機関経由のものである。この民間経由の申請は総社市を経由せずに県へ報告されるため，従来の合議方式では表面にまったく出てこない。しかも個人住宅以外のものが多く民間機関に回る傾向である。これまで件数の多くを占めていた共同住宅がわずかに本年度３件と激減しているのもこれに関係するものと推測される。しかし平成17年４月よりは権限委譲により総社市での許可となるため，民間機関での許可状況について報告がなされる。しかし報告は，許可後となる。やはり早急に新たな方策を考える必要がある。

〔埋蔵文化財の保護・普及〕

平成15年10月４日に窪木薬師遺跡発掘調査現地説明会を開催した。

本年度における整理作業も例年どおり実施しているものの，報告書を刊行するまでにはいたっていない。

指定史跡の下刈り清掃は，例年どおり実施したが，市指定文化財の標柱については合併後の市名について協議中であったことから中止せざるをえなかった。

資料等の貸出は，32件あり，多くは写真掲載の許可である。展示にともなう遺物の貸出は，６件，

・岡山県立吉備路郷土館　　平成15年10月～11月
　　講座資料展示「早島式土器について」に「樋本遺跡出土土器14点」
・津山市教育委員会　　平成15年10月～11月
　　特別展「渡来人」に「法蓮37号墳・窪木薬師遺跡出土埴輪・土器・鉄製品等11点」
・下関市立考古博物館　　平成15年10月～11月
　　企画展「玉つくり－原石に輝きを求めて－」に「南溝手遺跡出土管玉未製品等13点」
・（財）松山市生涯学習振興財団　　平成15年10月～11月
　　特別展「渡来人の足跡」に「窪木薬師遺跡出土土器・石製品15点」
・島根県立八雲立つ風土記の丘　　平成15年10月～11月
　　企画展「組曲「顔」～考古学の顔たち～」に「一倉遺跡出土線刻土器」
・山陽町教育委員会　　平成15年10月～12月
　　企画展「正崎２号墳と甲冑展」に「隨庵古墳出土甲冑一式」

である。

講師・案内等の職員派遣は，20件あり，多くは史跡案内等であるが，講座・講演会への派遣もあり，

・鬼ノ城たたら倶楽部主催「古代吉備文化と鉄」
・全国風土記の丘協議会の「総会・研修会」

・総社市新本分館主催「教育講演会」

・岡山県立吉備路郷土館講座「古代人の技術ーガラス玉を作ってみようー」

・倉敷市玉島公民館「鬼ノ城の復元について」

・考古見聞会主催「講演・鼎談（対談）シリーズ北から南から（縄文～古代）」

・国立吉備少年自然の家主催「逆説　もも太郎伝説」

などがある。

埋蔵文化財学習の館において実施してきた親子文化財教室は参加者の減少から他の方策を探ることとし，本年度も実施していない。また，学習の館の入館者数は645名（大人395・子供250）である。

このほか他の機関より多くの受贈図書をいただいている。　（前角和夫）

表２　立会・確認調査一覧表

番号	種　別	所　在　地	調査契機	調査日	担　当	調　査　所　見	報告頁
1	立会	見延181	民・個人住宅	4/16	平井	遺構・遺物なし	P9
2	確認 立会	日羽877	民・個人住宅	4/17・5/13	平井	遺構・遺物なし	P10
3	立会	秦392－3	民・個人住宅	4/18	平井	低位部に該当	P12
4	立会	秦1570－1	民・個人住宅	4/19	高橋	近世包含層	P13
5	立会	門田1294	民・個人住宅	4/28	平井・高橋	遺構・遺物なし	
6	立会	総社1214－34	民・個人住宅	4/28	高橋	低位部に該当	P14
7	立会	中央四丁目2－104ほか	民・商業施設	5/1	平井	弥生～古墳の包含層	P15
8	立会	久代326ほか	民・個人住宅	5/14	平井	斜面堆積の包含層	P16
9	立会	南溝手108－3	民・個人住宅	5/20	平井	低位部に該当	P17
10	立会	久米362－1ほか	民・個人住宅	5/			
11	確認	総社2562ほか	民・個人住宅	6/5	平井	宮後遺跡内	P18
12	立会	中央六丁目11－119	民・共同住宅	6/12	平井	遺構（溝）	P20
13	立会	長良926－1ほか	民・個人住宅	6/23		浄化槽掘削造成土内	
14	確認 立会	中央一丁目9/17	民・個人住宅	6/24・25	平井	低位部に該当	P21
15	確認	福井2022ほか	民・共同住宅	7/4	平井	宮後遺跡内	P23
16	立会	窪木879－1	民・個人住宅	7/17	平井	遺構・遺物なし	P25
17	立会	新本4544－2	民・個人住宅	8/	平井	遺構・遺物なし	P26
18	確認	真壁855－2	民・個人住宅	8/11	平井・高橋	中・近世包含層	P27
19	立会	中央三丁目9－101	公・幼稚園	8/26・27	高橋	中世以前の水田層?	P29
20	立会	秦2987	公・幼稚園	9/1～9/5	谷山・松尾	掘削レベル内では遺構・遺物なし	P30
21	立会	門田70－7ほか	民・分譲住宅	9/4・15	平井	弥生～中世	P31
22	立会	久代3636	民・個人住宅	10/1	平井	遺構・遺物なし	P32
23	確認	真壁399	民・福祉施設	10/8	平井	真壁遺跡内　遺構・遺物なし	P33
24	確認	小寺38－10	民・個人住宅	10/16	平井	低位部に該当　遺構・遺物なし	P35
25	立会	三須1609－32	民・個人住宅	10/24	平井	低位部に該当　遺構・遺物なし	P36
26	立会	久米36ほか	民・福祉施設	10/	平井	遺構・遺物なし	P37
27	立会	新本7349－3ほか	民・個人住宅	11/5	高橋	坊ヶ内遺跡内	P38
28	立会	新本7776	民・個人住宅	11/13	高橋	低位部に該当	P39
29	立会	赤浜506－10	公・公会堂	11/13			
30	不時	真壁923－1	民・マンション	12/7	前角	円礫層が主体?	
31	立会	西阿曽327－5	民・個人住宅	12/9	高橋	遺構・遺物なし	P40
32	立会	小寺4－1ほか	民・商業施設	1/5	前角	近世水田層	P41
33	立会	井手503－5ほか	民・個人住宅	3/15	高橋	中・近世水田層	P42
34	立会	黒尾185－1	民・個人住宅	3/26	高橋	低位部に該当	P43
35	57条	下林280－4ほか	公・集会所	9/26	高橋	中林遺跡内　造成土内工事	
36	57条	福井56－16	民・個人住宅	2/24	高橋	明神遺跡内	
37	57条	上林1729－3ほか	民・墓地造成	10/	平井	稲荷山古墳群内	
38	57条	長良826－1	民・通信設備		谷山	長良山城跡内	
39	採集	槁1035	遺物採集	1995.10.17	平井	磨製石斧採集	P44
40	立会	中央6丁目12－106・107	民・福祉施設	6/9	平井	客土内で掘削終了	
41	立会	秦3315, 3324ほか	民・農業用倉庫	10/1	平井	造成土内工事	
42	立会	下原867－1	民・専用住宅	10/1	平井	真砂・粘土・砂の堆積　遺物なし	
43	立会	真壁908－1	民・共同住宅	10/14	平井		
44	立会	上林1046	民・寺院	12/10			
45	立会	門田959	公・児童福祉施設	12/10			
46	立会	黒尾1101－2・4ほか	公・ウォーキングセンター	9/（随時）	松尾	盛土内工事	

第１図　立会・確認調査位置図１（Ｓ＝1/75,000）

第２図　立会・確認調査位置図２（Ｓ＝1/15,000）

表３　　事前審査一覧表（立会・確認調査分を除く）

番号	受付日	主要用途	所　在　地	状　　況
1	4/2	一戸建て住宅	三輪661-1	設計変更
2	4/2	共同住宅	三輪767-4･5,1147-3	設計変更
3	4/2	専用住宅	秦3126-1･2	ベタ基礎･集落排水
4	4/2	一戸建て住宅	井手572-5	設計変更
5	4/8	一戸建て住宅	井尻野156	ベタ基礎･公共下水
6	4/8	店舗	富原1067-18	ベタ基礎･浄化槽なし
7	4/8	一戸建て住宅	福井･総社91-6,1219-3,1214-35,1650-6	ベタ基礎･公共下水
8	4/8	住宅	小寺44-7,51-2	掘削(-35cm)･公共下水
9	4/8	一戸建て住宅	東阿曽1511-29･32	ベタ基礎･浄化槽掘削時立会予定
10	4/8	一戸建て住宅	下原1067-2	ベタ基礎･公共下水
11	4/16	福祉施設	小寺990	計画変更
12	4/16	一戸建て住宅	総社1　780-1･7	ベタ基礎か布基礎･公共下水
13	4/16	一戸建て住宅	久代5393-1,5394-1	掘削造成土内･浄化槽なし
14	4/16	ホテル･旅館	三須825-1他43筆	計画変更
15	4/16	野球場	三輪1300他115筆	
16	4/16	一戸建て住宅	門田463-4	ベタ基礎･公共下水
17	4/16	農家住宅	秦55-1	ベタ基礎･浄化槽設置
18	4/16	一戸建て住宅	真壁1342-24	昨年度造成･擁壁掘削時立会済
19	4/16	一戸建て住宅	三須1376,1377	ベタ基礎･浄化槽既存
20	4/18	電信柱付替え	上林	掘削時立会予定
21	4/18	専用住宅	井尻野1471-20,1475-7	計画変更
22	4/18	一戸建て住宅	中央2-150-3	ベタ基礎･公共下水
23	4/18	専用住宅	中央4-17-115･116	2階部分のみ増築
24	4/22	専用住宅	泉3-56	泉団地内
25	4/24	専用住宅	三輪1106-1･4･5	ベタ基礎か布基礎･公共下水
26	4/28	一戸建て住宅	新本6974-7	ベタ基礎･浄化槽掘削時立会予定
27	4/28	一戸建て住宅	井尻野1658-7	布基礎･公共下水
28	4/30	農業用倉庫	井手436	ベタ基礎か布基礎･浄化槽なし
29	4/30	専用住宅	溝口314	ベタ基礎･公共下水
30	4/30	工場	久代1724-7	西団地内(発掘調査済)
31	4/30	寺院	井尻野1968-2	ベタ基礎･浄化槽なし
32	5/6	一戸建て住宅	門田933-13	ベタ基礎･公共下水
33	5/13	一戸建て住宅	窪木234-3	ベタ基礎･浄化槽既存
34	5/14	専用住宅	泉13-32	泉団地内
35	5/14	一戸建て住宅	新本6291,6289-2･3	計画変更･浄化槽設置済(砂地とのこと)
36	5/15	一戸建て住宅	刑部25-21	布基礎･浄化槽掘削時立会予定
37	5/19	専用住宅	中央2-150-1	ベタ基礎･公共下水
38	5/19	一戸建て住宅	富原77-17･40	周辺の調査成果より遺跡なし
39	5/20	一戸建て住宅	真壁1342-13	既に調査済　遺構･遺物なし
40	5/20	一戸建て住宅	真壁1342-5･6	既に調査済　遺構･遺物なし
41	5/20	一戸建て住宅	真壁1342-13	既に調査済　遺構･遺物なし
42	5/20	一戸建て住宅	下原979-2･3	ベタ基礎･集落排水
43	5/22	車庫	北溝手276-1	ベタ基礎
44	5/27	一戸建て住宅	中央1　780-1	計画変更
45	5/27	一戸建て住宅	泉6-5	計画変更
46	5/27	専用住宅	上林610	布基礎･集落排水
47	5/27	保育所	真壁737-3,1895-4	周辺の調査成果より遺跡なし
48	5/28	一戸建て住宅	泉4-10	計画変更
49		共同住宅	三輪969	周辺の調査成果より遺跡なし
50	5/27	共同住宅	井尻野793-1	氾濫原
51	6/1	車庫	三輪･真壁1114-1･4･5,588-3,590-7	掘削ほとんどなし
52	6/4	宅地造成	中原29-1,25-3,52-2	低位部に該当
53	6/5	一戸建て住宅	門田933-1	ベタ基礎･公共下水
54	6/5	農家住宅	三輪228-3	ベタ基礎･浄化槽掘削時立会予定
55	6/10	一戸建て住宅	上林250-1･2,251-4	ベタ基礎･浄化槽なし
56	6/10	専用住宅	三須640-8	桃山団地内
57	6/11	一戸建て住宅	久代5206-144	あおい団地内
58	6/11	一戸建て住宅	刑部25-1	計画変更･浄化槽掘削時立会予定
59	6/12	共同住宅	福井2021,2022	
60	6/12	遊技場ほか	中央4-2-104～109･11	計画変更･地下掘削なし
61	6/12	宅地造成	真壁1139-5,1140-1	
62	6/13	一戸建て住宅	福井2063-1	ベタ基礎･公共下水
63	6/13	一戸建て住宅	真壁194-6,194-2	
64	6/16	土取り	新本4450-2～8,4440-1	伐採終了後に分布調査予定
65	6/17	一戸建て住宅	長良277､284-2	ベタ基礎･掘削盛土内
66	6/19	専用住宅	溝口264-1･2	ベタ基礎･公共下水
67	6/23	一戸建て住宅	長良461-1･2･5	ベタ基礎･集落排水･掘削盛土内
68	6/23	一戸建て住宅	真壁1342-25	既に調査済　遺構･遺物なし
69	6/23	一戸建て住宅	真壁1342-22	既に調査済　遺構･遺物なし
70	6/23	工場	久代2211-5	西団地内(発掘調査済)
71	6/24	工場	真壁1490	鉄工団地内

番号	受付日	主要用途	所　在　地	状　　況
72	6/24	工場	久代1408-15･22,1424-39	西団地内（発掘調査済）
73	6/24	一戸建て住宅	溝口193	ベタ基礎･公共下水
74	6/30	住宅	三輪1138-1･3･4	ベタ基礎
75	6/30	公会堂･集会所	泉9-16･17	ベタ基礎
76	7/4	専用住宅		増築
77	7/7	農家住宅	金井戸41-1	計画変更･浄化槽掘削来年
78	7/9	一戸建て住宅	総社2-662-2	ベタ基礎
79	7/15	農家住宅	西阿曾1158	ベタ基礎･浄化槽掘削時立会予定
80	7/15	一戸建て住宅	溝口366-3,367-7	ベタ基礎･公共下水
81	7/15	専用住宅	三輪730-1,933	ベタ基礎･地盤改良なし
82	8/4	共同住宅	井尻野793-1	低位部に該当
83	8/4	共同住宅	井尻野793-1	低位部に該当
84	8/4	一戸建て住宅	福井1600-48	泉北ニュータウン内
85	8/4	一戸建て住宅	門田946-23･25	ベタ基礎
86	8/4	専用住宅	西阿曾1208-1	ベタ基礎･浄化槽掘削時立会予定
87	8/6	飲食店	井手1033-1	ベタ基礎
88	8/6	一戸建て住宅	真壁1340-8	公共下水･隣接調査結果から低位部
89	8/6	専用住宅	上原493-2	ベタ基礎
90	8/6	一戸建て住宅	井尻野156	ベタ基礎
91	8/7	ガソリンスタンド	三須1059	解体除去後立会予定
92	8/11	専用住宅	三輪650-1･3	ベタ基礎
93	8/11	事務所付き住宅	中央2-19-3	ベタ基礎
94	9/3	専用住宅	真壁570-2･3,572～574	ベタ基礎･公共下水
95	9/3	専用住宅	三輪1038-4	ベタ基礎･公共下水
96	9/3	公会堂･集会所	窪木908-2	ベタ基礎か布基礎･浄化槽掘削時立会予定
97	9/3	児童福祉施設	中原574	造成（+2m）･布基礎･公共下水
98	9/3	一戸建て住宅	中原418-2	掘削（-25cm）･公共下水
99	9/4	一戸建て住宅	窪木879	計画変更･既に調査済
100	9/4	共同住宅	井尻野784-3･10	低位部に該当
101	9/4	専用住宅	泉13-32	計画変更
102	9/4	倉庫	秦3270,3278,3279-3,3270-2	ベタ基礎･浄化槽なし
103	9/4	一戸建て住宅	井手484-15･16	ベタ基礎･公共下水
104	9/4	一戸建て住宅	真壁1342-31	既に調査済　遺構･遺物なし
105	9/4	一戸建て住宅	北溝手428-4	ベタ基礎･浄化槽掘削時立会予定
106	9/4	一戸建て住宅	三輪1230-60	ベタ基礎
107	9/12	一戸建て住宅	井手1147-13	ベタ基礎･公共下水
108	9/18	消防器具庫	新木8408	布基礎･貯水槽なし
109	9/19	事務所	真壁606-1	プレハブ
110	9/25	一戸建て住宅	下原376-2	浄化槽掘削時立会予定
111	9/25	専用住宅	見延1739	浄化槽掘削時立会（2004/6/9）
112	9/29	倉庫	三輪1044-2,1045-1	ベタ基礎･掘削造成土内
113	9/29	一戸建て住宅	門田942-3,944-3	基礎掘削時立会予定
114	10/6	農業用倉庫	三輪1122-1,1123,1124-1	ベタ基礎（-10cm）
115	10/6	一戸建て住宅	溝口366-3,367-7	ベタ基礎（-25cm）･公共下水
116	10/6	倉庫	東阿曾261他26筆	既に調査済　遺構･遺物なし
117	10/10	福祉施設	美袋619,628-2,629-2,631	ベタ基礎･浄化槽掘削時立会予定
118	10/14	一戸建て住宅	三輪1230-6	計画変更･ベタ基礎
119	10/14	専用住宅	門田767-3	改築
120	10/15	一戸建て住宅	門田70-7	ベタ基礎･公共下水
121	10/17	一戸建て住宅	総社1380-9	ベタ基礎
122	10/17	一戸建て住宅	中原841-55	ベタ基礎（-24cm）
123	10/17	一戸建て住宅	中原64-10･32･48	ベタ基礎･公共下水･地盤改良なし
124	10/17	一戸建て住宅	総社1-780-1	布基礎･地盤改良なし
125	10/20	倉庫	中央2-160-6･7	ベタ基礎（-35cm）
126	10/20	市民会館	中央3-1-101･102	ベタ基礎･公共下水
127	10/24	農家住宅	見延2110	浄化槽掘削時立会予定
128	10/24	工場	久代1724-7	西団地内（発掘調査済）
129	10/27	共同住宅	中原580-4･5,582-2･3	ベタ基礎･柱状改良･公共下水
130	11/4	専用住宅	三輪941-1･5･6,940-1･2,942-1･2外	周辺の調査成果より遺跡なし
131	11/4	共同住宅	福井2021,2022	計画変更･既に調査済
132	11/4	専用住宅	門田1383,1384	ベタ基礎･公共下水
133	11/4	専用住宅	三輪650-1･3	ベタ基礎･公共下水
134	11/4	専用住宅	真壁1109-4	2階の増築
135	11/4	工場	東阿曾261他21筆	既に調査済　遺構･遺物なし
136	11/4	農家住宅	三須1257-1	計画変更･浄化槽既存･掘削なし
137	11/5	店舗	駅前2-5-106	物置のみ･掘削ほとんどなし
138	11/5	一戸建て住宅	中原832-7	地盤改良の確定待ち
139	11/11	農家住宅	窪木226-1	掘削（-30cm）･浄化槽既存
140	11/11	一戸建て住宅	中原884-13	ベタ基礎
141	11/12	公会堂･集会所	総社2-544-1	ベタ基礎
142	11/18	消防器具庫	赤浜806-3	ベタ基礎（-30cm）
143	11/18	一戸建て住宅	刑部25-21	計画変更･　浄化槽掘削時立会予定
144	11/18	専用住宅	小寺790-1	掘削（-20cm）

番号	受付日	主要用途	所　在　地	状　　況
145	11/18	長屋兼住宅	中央6-11-119	計画変更・既に調査済
146	11/18	長屋兼住宅	中央6-11-119	計画変更・既に調査済
147	11/19	倉庫	井尻野1091-7	基礎掘削(-80cm)・掘削時立会予定
148	11/21	一戸建て住宅	秦443-1,443-3	ベタ基礎・浄化槽掘削時立会予定
149	11/21	一戸建て住宅	泉14-70	泉団地内
150	11/25	一戸建て住宅	三輪1141-1・3・4	盛土(+40cm)・ベタ基礎
151	11/25	専用住宅	門田316-1	地下掘削なし
152	11/27	専用住宅	三輪1053-12	ベタ基礎・浄化槽既存
153	12/1	専用住宅	赤浜823-2	掘削(-40cm)・浄化槽掘削時立会予定
154	12/1	専用住宅	久代649-1	ベタ基礎・浄化槽掘削時立会(2004/6/23)
155	12/4	工場	真壁1490	氾濫原
156	12/4	一戸建て住宅	門田70-15	ベタ基礎・地盤改良なし
157	12/15	農家住宅	福井1077	ベタ基礎・浄化槽既存
158	12/16	専用住宅	真壁1235-8	ベタ基礎・公共下水
159	12/16	一戸建て住宅	福井2031,2032	ベタ基礎・浄化槽なし・地盤改良の確定待ち
160	12/19	一戸建て住宅	小寺2058	ベタ基礎・地盤改良なし
161	12/26	一戸建て住宅	久代5212-131	あおい団地内
162	12/26	専用住宅	小寺852-2	ベタ基礎・浄化槽既存
163	12/26	そうじゃ水辺の楽校	富原1191-1地先	掘削なし
164	1/8	専用住宅	新本7776	計画変更・既に調査済　遺構遺物なし
165	1/8	宅地造成	井尻野1641-1・21,1648-1,1649-1	7区画
166	1/15	一戸建て住宅	溝口370-54	基礎掘削(-60cm)・杭打ちなし
167	1/15	公会堂・集会所	長良468	基礎掘削(-20cm)・集落排水
168	1/15	寺院	上林250-1・2,251-4,324,250-1	ベタ基礎(-30cm)・浄化槽なし
169	1/15	一戸建て住宅	久代96	ベタ基礎(-30cm)・浄化槽既存
170	1/20	一戸建て住宅	泉10-17	泉団地内
171	1/20	農家住宅	宍粟439	ベタ基礎・浄化槽掘削時立会予定
172	1/20	一戸建て住宅	中央2-147-8	ベタ基礎
173	1/27	専用住宅	井尻野1581-4,1582,1584-3	ベタ基礎・浄化槽既存
174	1/27	一戸建て住宅	福井1600-155	泉北ニュータウン内
175	1/30	農業用倉庫	上原224	掘削浅い
176	1/30	倉庫	三輪727-4,729,730-1・4,933-2	ベタ基礎
177	1/30	農家住宅	久代3431	ベタ基礎(-20cm)・浄化槽既存
178	1/30	倉庫	三輪749,978-1,982-1	ベタ基礎(-20cm)
179	1/30	車庫	久代1050他286筆	スズキ納整センター内
180	1/30	一戸建て住宅	井手1024-14・17	ベタ基礎(-20cm)・公共下水・地盤改良なし
181	2/2	一戸建て住宅	富原713	57条2提出依頼
182	2/2	宅地造成	三輪883-2,889-1	低位部に該当・擁壁掘削時立会予定
183	2/2	宅地造成	真壁	擁壁掘削時立会予定
184	2/3	児童福祉施設	門田959	計画変更・既に調査済
185	2/3	公会堂・集会所	下林820・7	布基礎(-1m)・掘削時立会予定
186	2/10	一戸建て住宅	下原1042-6	ベタ基礎(-20cm)・集落排水
187	2/10	一戸建て住宅	総社1359-14	ベタ基礎(-20cm)・公共下水
188	2/10	一戸建て住宅	富原789	布基礎(-30cm)・浄化槽既存
189	2/13	児童福祉施設	中原574	氾濫原
190	2/19	農家住宅	新本7333	基礎掘削(-45cm)・浄化槽既存
191	2/19	一戸建て住宅	槇谷3234,3235-3,3945	槇谷川の河川敷
192	2/19	一戸建て住宅	溝口・井尻野628-15・16,1391-1・9・10・11,2978-20	ベタ基礎・掘削浅い
193	2/19	一戸建て住宅	中原854-17	ベタ基礎
194	2/23	一戸建て住宅	井手267-9,268-1	浄化槽掘削時立会予定
195	2/24	公会堂・集会所	中央3-1-101・102	地下に影響なし
196	2/24	一戸建て住宅	三輪944-3	低位部に該当
197	3/2	銀行	駅前1　4-20	改修・掘削浅い
198	3/2	長屋兼住宅	泉15-7	泉団地内
199	3/2	専用住宅	真壁1242-2・3,1243-1	ベタ基礎
200	3/2	一戸建て住宅	槇谷3068-2,3070-2,3072-3・4,3075-4・8,3902	槇谷川の氾濫原内
201	3/2	農業用倉庫	上林1440-1・4	ベタ基礎
202	3/2	専用住宅	真壁607-7	杭か表層改良かの工法確定待ち
203	3/9	長屋兼住宅	三須1227-12	低位部に該当
204	3/9	一戸建て住宅	南溝手295-2・5	掘削(-50cm)・公共下水・掘削時立会予定
205	3/9	車庫	中央1-10-102	ベタ基礎
206	3/9	一戸建て住宅	真壁606-1,607-9,608-2	盛土内・公共下水
207	3/12	公会堂・集会所	秦3470	ベタ基礎
208	3/12		下原1077-2	
209	3/17	専用住宅	三輪733-1・4.730-4,734,937	盛土(+50cm)
210	3/17	工場	下林1000-2・3・5・6,1027-2・3	ベタ基礎
211	3/19	専用住宅	北溝手438-4	ベタ基礎・浄化槽の確定待ち
212	3/19	一戸建て住宅	中原854-17	布基礎(-40cm)・公共下水
213	3/24	専用住宅	久代5212-154	あおい団地内
214	3/24	専用住宅	溝口314	設計変更
215	3/24	工場	窪木613-3	ベタ基礎・集落排水
216	3/24	専用住宅	総社1239-5・7,1240-1・7	増築
217	3/25	農家住宅	山田387,390-3	浄化槽掘削時立会予定
218	3/25	一戸建て住宅	泉7-32	泉団地内

２．立会および確認調査の概要

個人住宅改築に伴う立会調査

所 在 地　見延字本村181

調査期間　2003年４月16日

調査面積　約３㎡

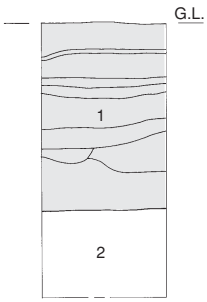
調査概要

調査地は，総社市の北部，中国横断道見延橋脚の南に位置する山裾の集落に所在する。住居の改築はベタ基礎工法で掘削は浅いが，改築に併せて浄化槽を設置するため，２m程度掘削する予定であった。当該地は，地形から見て遺跡の存在する可能性は少ないものと考えられたが，この付近の遺跡の存在や堆積層の状況等が明らかとなっていないことから，浄化槽掘削時に立会調査を実施することとした。

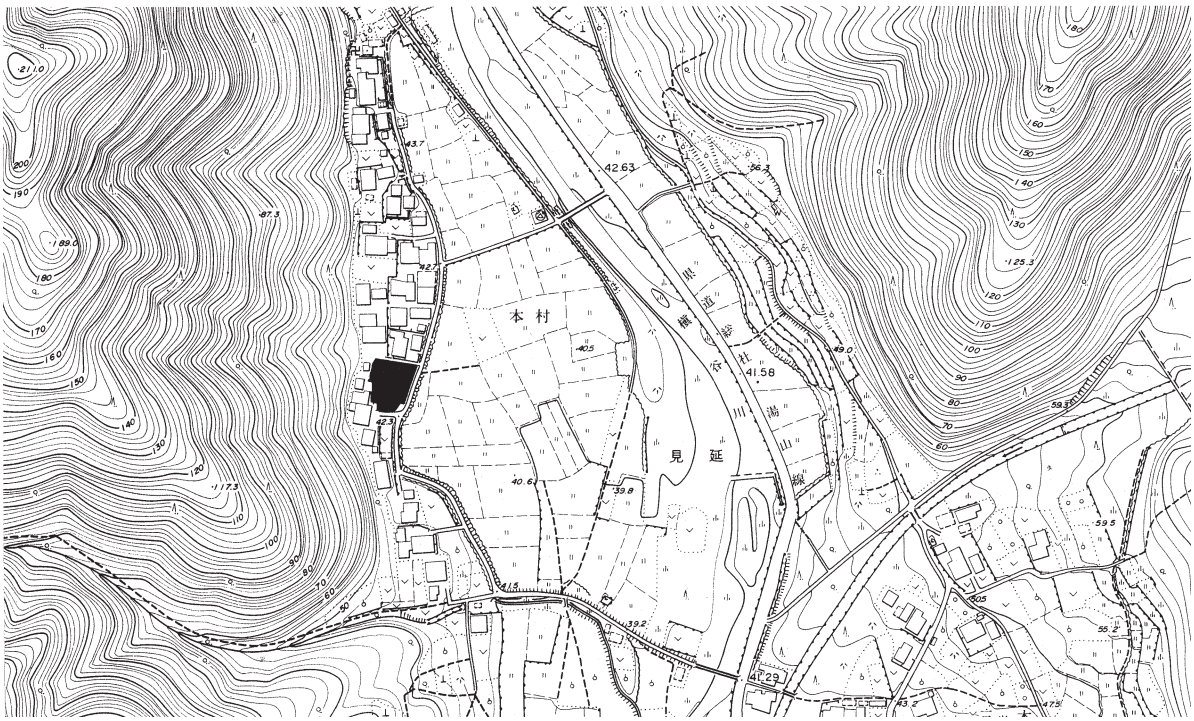
掘削中，敷地に隣接する水路から水が流入したため，詳細な調査はしえなかったものの，地表面から150cm付近までは造成土が厚く盛られており，その下層は西側の山塊からの流土と考えられる花崗岩のバイ乱土が堆積していることが判明した。

遺構・遺物は認められず，堆積状況からも付近に遺跡は存在しないものと考えられる。（平井典子）

第３図版　土層断面（東から）



第４図　土層柱状図（Ｓ＝1/60）



第５図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅増築に伴う試掘調査

所 在 地　日羽877

調査期間　平成15（2003）年４月17日・５月13日

調査面積　約８㎡

調査概要

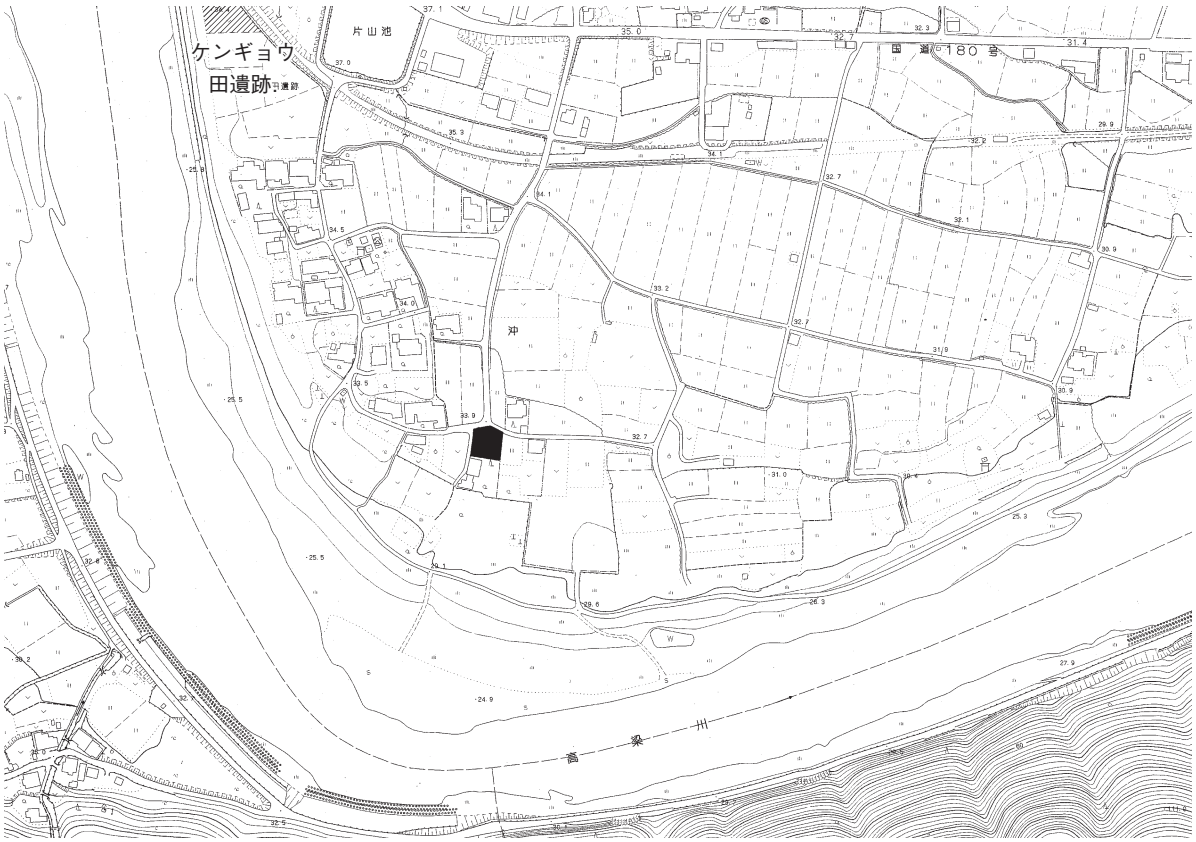
増築予定地は高梁川が形成した河岸段丘上に立地し，縄文時代後期の遺跡として知られるケンギョウ田遺跡[註]の南東約300mの地点に位置する。付近の水田には土器の小片が散見されることから，当該地にも遺跡が存在する可能性が高いものと考えられた。

増築部分は地中梁を行なう予定で，現在の地表面から約110～120cm掘削することから，遺跡が存在した場合破壊は免れないため試掘調査を実施した。

調査は，トレンチを４箇所設定し重機による掘削を行なった。１層が造成土，２～４層が高梁川によって形成された砂質の強い自然堆積層という層序であるが，T－１，T－３では後世の撹乱を受け２層が削平されている。２～４層いずれのトレンチも，中世以前と考えられる遺構の掘り込みはなく，遺物も全く検出されなかった。

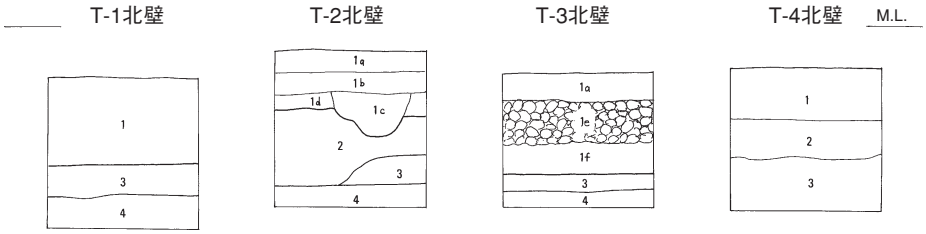
以上，増築予定地の地層は河岸段丘が形成される過程で堆積した自然層によるものと判明した。しかしながら，流されてきた可能性は高いものの，周囲の水田耕土中に小片ながら土器が認められることから，基礎掘削時に立会したが，ここでも遺構・遺物は確認できなかった。

当該地は，ケンギョウ田遺跡に比べ低い位置にあることから，この付近にまでは遺跡はひろがらなかったものと考えられる。（平井）



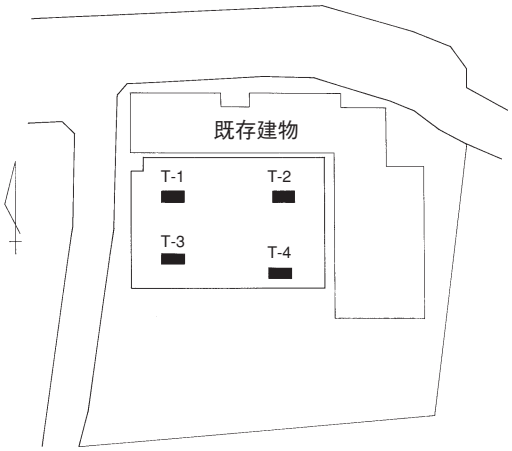
第６図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

註　間壁忠彦・間壁葭子「岡山県昭和町ケンギョウ田遺跡」吉備郡昭和町教育委員会　1967



1．（1a～1f）造成土，2．茶灰褐色砂色土　3．黄灰褐色砂　4．茶灰色砂質土

第７図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）



第８図　トレンチ配置図（Ｓ＝1/500）

第９図版　Ｔ-１断面（南から）

第10図版　Ｔ-２断面（西から）

第11図版　Ｔ-３断面（南から）

個人住宅建設に伴う立会調査

所 在 地　総社市秦字古池392－３

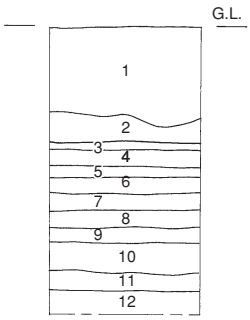
調査期間　2003年４月18日

調査概要

高梁川右岸から西へ約300m，全長約38mの前方後円墳・秦茶臼山古墳が所在する丘陵の西側平野部に個人住宅の建設が計画された。建物の基礎工法はベタ基礎のため，掘削は20～30cm程度となっていた。建築予定地周辺は既に造成されていることから，掘削は造成土中で収まり，仮に遺跡が存在した場合でも影響はないものと考えられた。しかしながら下水道が敷設されていないため，浄化槽を設置することから，浄化槽埋設壙を掘削する際に立会調査を行うこととした。

調査の結果，約60cm程度の造成土直下には旧耕作土が認められた。さらに下層の３～８層は粘質土，９層～12層は砂層と粘土層の互層となっていた。以上のような土層の堆積状況から見て，当該地が低位部であったことが判明した。なお，遺物もまったく検出されなかった。　（平井）

第12図版　土層断面



1．真砂土（造成土）
2．暗青灰色土（耕作土）
3．灰青色土　微・細砂混
4．青灰色粘質土　細砂混
5．暗青灰色粘質土　細・粗砂混
6．青灰色粘質土　細砂混
7．紫灰色粘土　粗砂ブロック含
8．茶色粘質土　粗砂混　鉄分多
9．灰色粗砂
10．茶色粘土　鉄分多
11．褐灰色粗砂
12．暗灰色粘土

第13図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）

第14図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

個人住宅地建設に伴う立会調査

所 在 地　総社市秦1570－1

調査期間　2003年4月19日

調査概要

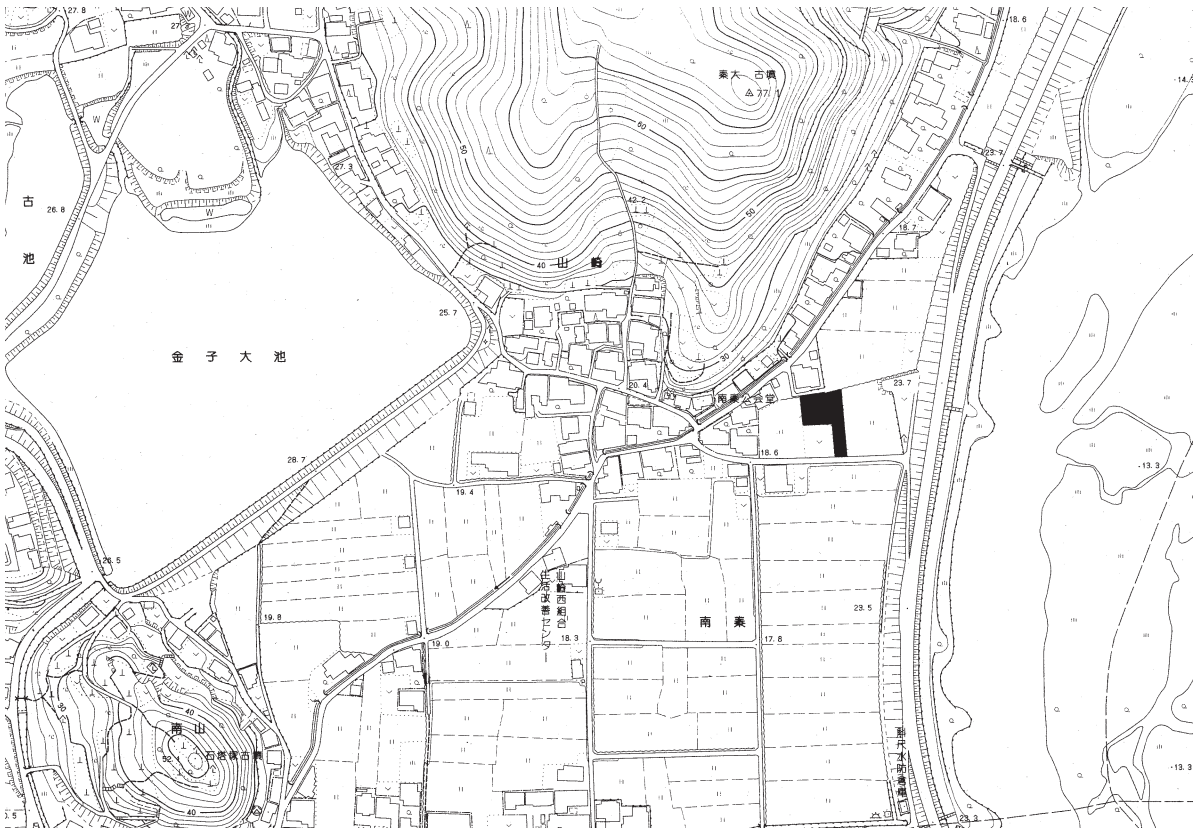
本調査は，個人住宅の浄化槽掘削の立会調査として実施した。

調査地の現況は，水田上に客土をした宅地である。調査地の北には秦大坑古墳・上沼古墳などの古墳群が立地する標高70～100mの舌状丘陵が存在する。

調査地の基本的な層序は，真砂土の客土の下に湿地の堆積層があり，さらにその下は客土層～近世包含層の順で堆積しており，その下層は淡灰褐色～淡茶灰褐色の自然層となっており，遺構・遺物ともに検出できなかった。（高橋）

第15図版　調査地区全景

第16図版　土層断面



第17図　調査地区位置図（S＝1/10,000）

個人住宅建設に伴う立会調査

所 在 地　総社市総社字高畑1214－34

調査期間　2003年4月28日

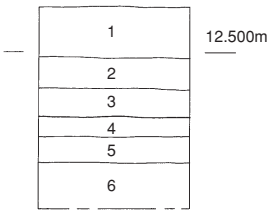
調査概要

本調査は，個人住宅の浄化槽掘削の立会調査として実施した。

調査地は，1993年度に簡単な調査がおこなわれた小寺東遺跡の東端に位置している。また，1998年度に調査を実施した総社小学校プール建設に伴う発掘調査の結果，古代～中世にかけての溝・柱穴・土壙等が検出されている。

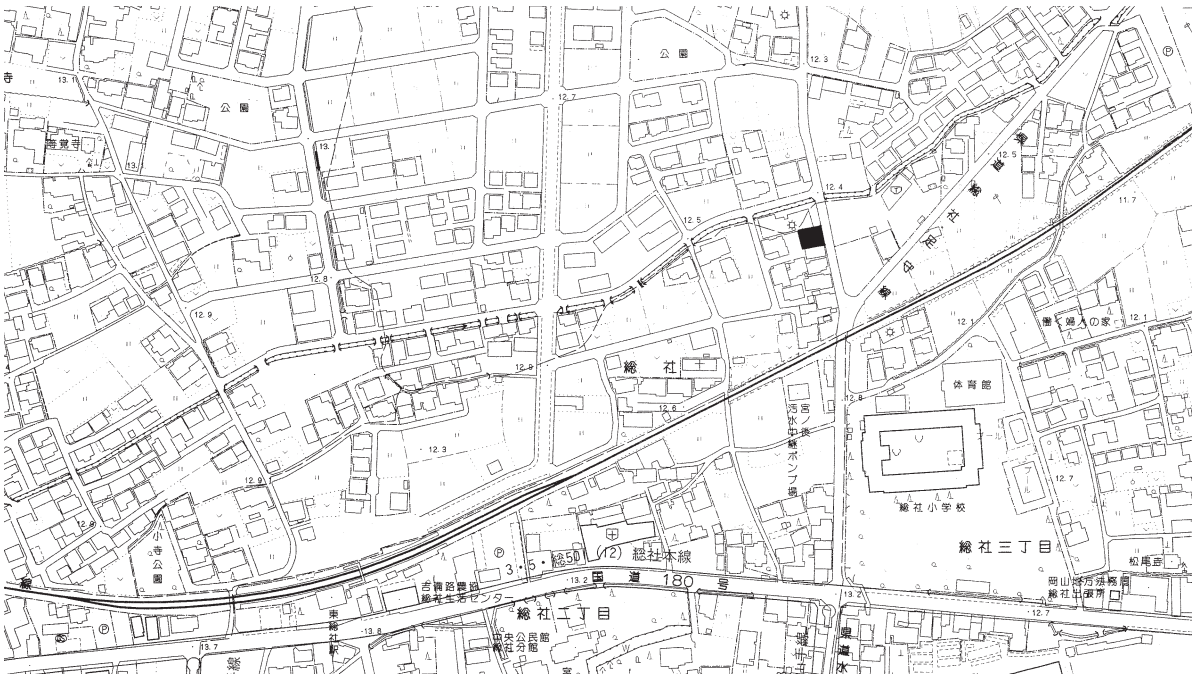
重機によって１×３m程度のトレンチを掘削した。その結果，約70cmの厚さの造成土の下は，暗青灰色～褐色の砂層が堆積しており，低湿地と推定された。（高橋）

第18図版　土層断面



1．真砂土（造成土）
2．暗（黒）灰色細・粗砂層（造成土）
3．暗灰色粘土（造成土）
4．暗青灰色細・粗砂層
5．青灰色微（細）砂層
6．褐色細・粗砂

第19図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）



第20図　調査地位置図（Ｓ＝1/10,000）

遊技場増築に伴う立会調査

所 在 地　中央４丁目２－104・106～113

調査期間　2003年５月１日

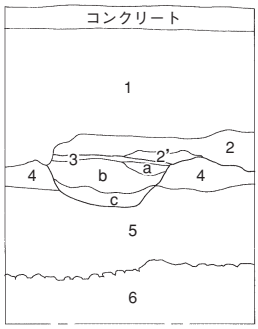
調査概要

総社駅から東へ約1.3km，一般市道中央井手本線に南面するパチンコ店にエレベーターを取り付けることになり，エレベーターピットを約1.5m程度掘削することとなった。

市道を挟んで北西には，立会によって確認された鎌倉～室町時代の中村遺跡が所在しており，当該地まで遺跡が広がる可能性は高いものと思われたが，面積も狭く旧建物の基礎等で大きく破壊されていると考えられたため立会調査とした。

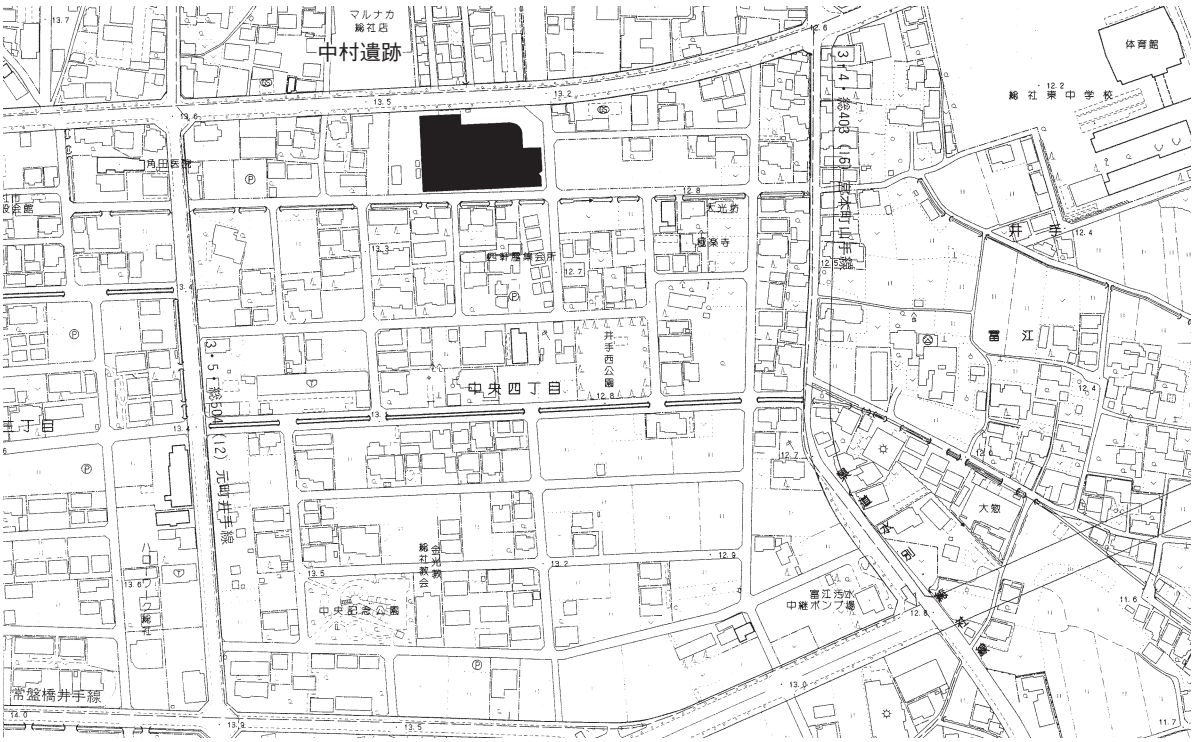
エレベーターピット内は，大きく撹乱を受けていたが，地表下１mで旧表土が検出され，その下層には薄い包含層が確認された。遺構は土壙が１基，４層上面から切り込まれていた。土器は出土したものの小片のため時期は確定できないが，弥生時代後期～古墳時代の所産と推定される。遺構密度は高くないが，今後の周辺の開発に留意したい。　（平井）

第21図版　土層断面（東から）



１．造成土
２．暗青灰色土（耕作土）
２’．灰色土
３．褐灰色微砂粘質土
４．茶灰色微砂粘質土
５．灰茶色粘質土
６．礫層
土壙
　ａ褐灰色砂質土
　ｂ暗褐灰色砂質土　炭少・土器含
　ｃ暗褐灰色砂質土　灰茶色粘質土のブロック含

第22図　土層柱状図（Ｓ＝1/60）



第23図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅改築に伴う立会調査

所 在 地　久代326，327，328－１・２

調査期間　2003年５月14日

調査概要

調査地は，高梁川右岸，新本川の南に位置する山塊の北斜面裾部付近に立地する。

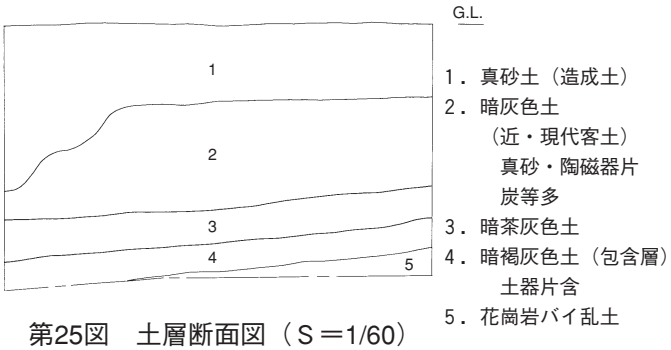
改築箇所はベタ基礎のため掘削は浅いが，浄化槽を設置することから掘削時立会調査を実施した。

浄化槽の掘削は，幅1.2m，長さ3.4m，深さ２mを測る。１層は真砂土による造成土，２層は陶磁器片や炭等を多く含む客土，３層は軟質の斜面堆積層，４層は弥生時代末～古墳時代前半と思われる土器小片を含む斜面堆積層，５層は花崗岩バイ乱土の堆積がみられる。

土器は２cm以下の小片で図示し得なかったが，背後の山からの流れ込みと考えられ，弥生時代後期末の土墳墓群か前期古墳が存在したものと考えられる。東方約200mには久代大塚古墳が築かれており，西にも古母池古墳群が所在するが，当該地においては古墳が破壊された形跡は認められなかった。

（平井）

第24図版　土層断面（南西から）



第25図　土層断面図（Ｓ＝1/60）

第26図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

農家住宅増築に伴う立会調査

所 在 地　南溝手字天原108－３

調査期間　2003年5月20日

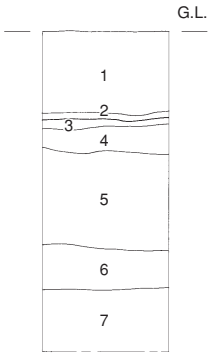
調査概要

調査地は総社市東部，岡山市との境界に近い岡山県立大学の南約60mに位置する。岡山県立大学建設に伴う発掘調査では，南溝手遺跡[註1]，窪木遺跡[註2]など縄文時代後期～中世に亘る複合遺跡が発見されており，当該地にも遺跡が広がる可能性が考えられた。増築による掘削は浅いものの，併せて浄化槽を設置することから立会調査を実施した。

調査の結果，造成土の下には旧表土と床土がみられ，その下層は粘質土から粘土に変わっていく堆積状況が認められた。遺構・遺物も皆無であったことから，南溝手遺跡・窪木遺跡が立地する微高地は南に下がっていき，当該地付近では低位部となっていたことが判明した。　（平井）

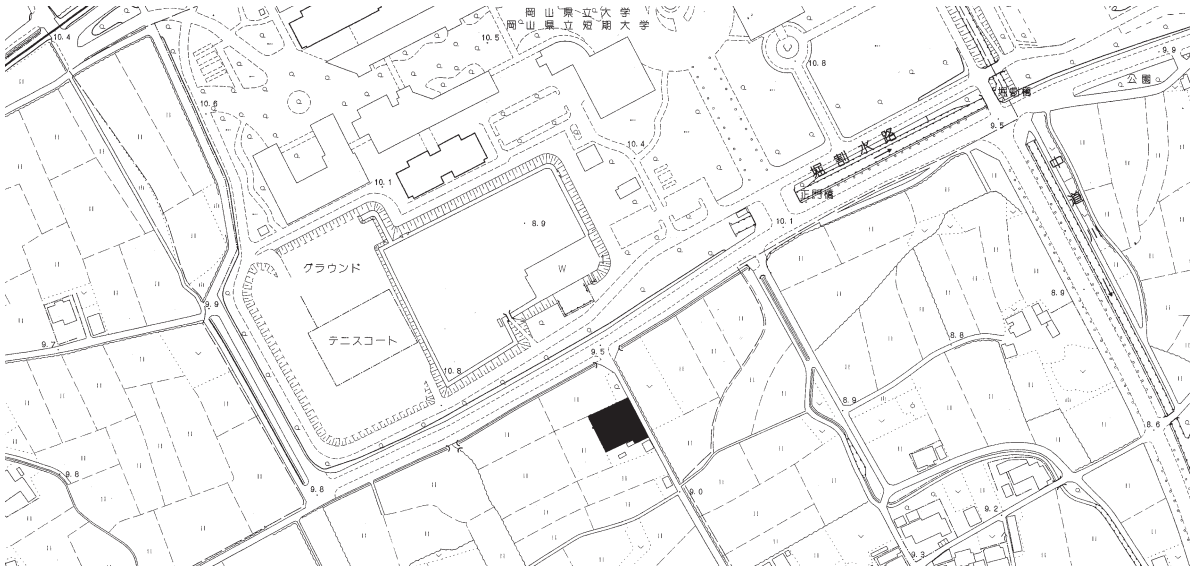
註１　「南溝手遺跡１」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』100岡山県教育委員会　1995
　　「南溝手遺跡２」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』107岡山県教育委員会　1996
註２　「窪木遺跡１」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』120岡山県教育委員会　1997
　　「窪木遺跡２」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』124岡山県教育委員会　1998

第27図版　土層断面



1．造成土
2．青灰色粘質土（耕作土）
3．明茶褐色粘質土　鉄分集積（床土）
4．暗灰褐色粘質土
5．茶褐色粘質土
6．暗灰褐色粘質土
7．暗褐灰色粘土

第28図　土層柱状図（Ｓ＝1/60）



第29図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅新築工事に伴う試掘調査

遺 跡 名　宮後遺跡

所 在 地　総社2562・2563

調査期間　平成15（2003）年６月５日

調査面積　約４㎡

調査概要

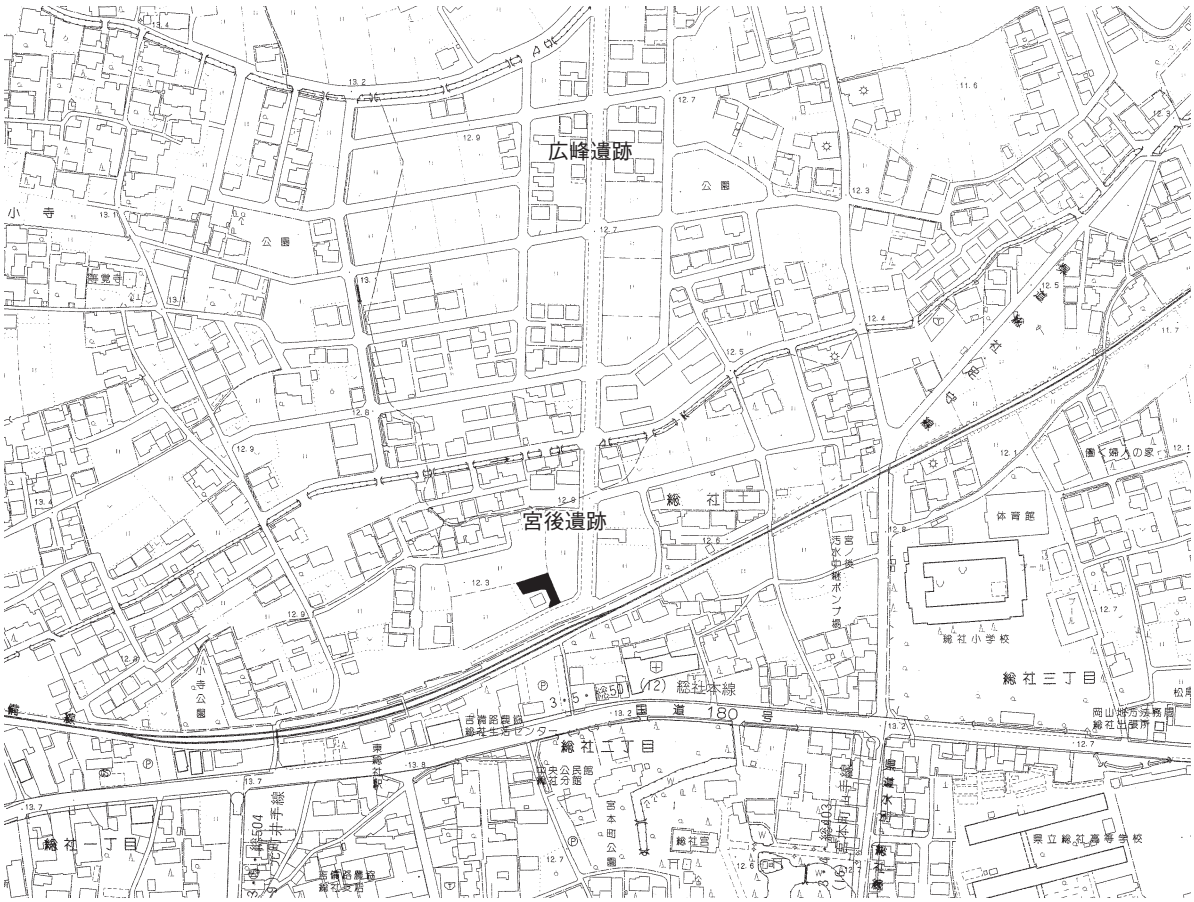
建設予定地は，JR東総社駅から東へ約150m，小寺東区画整理事業に伴う発掘調査[註]で官衙跡の可能性を想起させる遺物が検出された宮後遺跡の範囲に含まれる。

基礎工事はベタ基礎工法で，掘削は遺構面まで及ばないが，地盤が弱いことから柱状改良を行ない，７×９m四方内に30本の杭打ちを行なう予定になっていた。協議の結果杭数は18本に減少したが，重要な遺跡である可能性が高いため試掘調査を実施し，遺構密度が高い場合は発掘調査を実施することとした。

調査は２ヶ所のトレンチを設定し，重機による掘削を行なった。

T－１

地表面から約80cmの厚さで造成土が堆積する。造成土の直下は旧水田層で，上層に２～３cm，下層に３～４cmの厚さで鉄分が沈着する。５層は古代～中世にかけての包含層である。６層は無遺物層で，遺構はこの層を切り込んで存在し，ここでは溝と思われる遺構が検出されたが，他の遺構は確認



第30図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

できなかった。

T―2

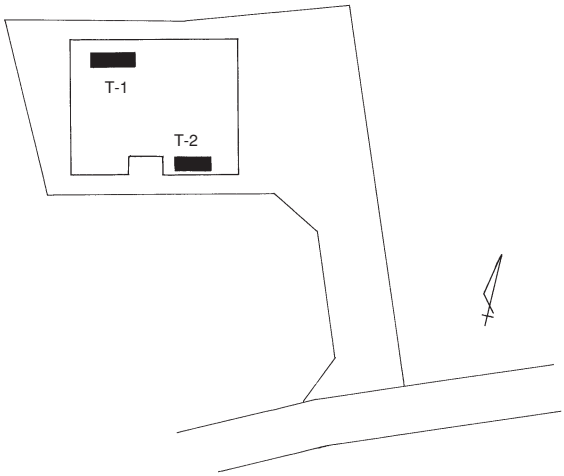
T－１とほぼ同様の堆積状況で，造成土の直下には，近世以降と考えられる旧水田層が２層（３・４層）認められる。

５層は古代～中世の包含層，６層は無遺物層である。６層上面で，径12cmと径７cmの杭痕跡が検出された以外遺構は確認できなかった。

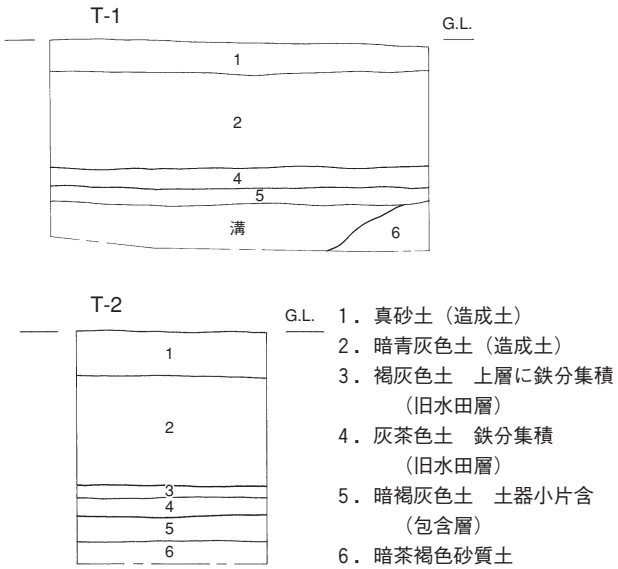
以上のことから，当該地は宮後遺跡のはずれにあたる可能性が高く，溝以外の遺構は少ないもの考えられる。

遺構密度は低く，杭の本数も18に減少したため遺構に与える影響は少ないものと考えられること，また個人住宅であり工期も迫っていることから，発掘調査は実施せず，慎重工事を行うよう指導した。　（平井）

註　高田明人「小寺東区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』4　1994



第31図　トレンチ位置図（Ｓ＝1/400）



第32図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）

第33図版　T－１土層断面（南から）

第34図版　T－２土層断面（南から）

共同住宅建設に伴う立会調査

遺 跡 名　真壁遺跡

所 在 地　中央六丁目11－119の一部

調査期間　2003年６月12日

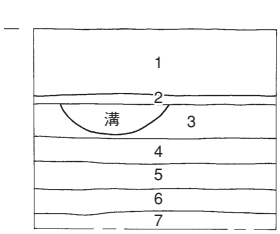
調査概要

JR総社駅から約1.3km南東の地点に共同住宅の建設が予定され，建物部分145㎡の一部を地盤改良する予定となっていた。当該地は中央区画整理事業に伴う発掘調査によって明らかになった真壁遺跡[註]の南西にあたり，遺構密度は低いものの，遺跡が広がる可能性は高かった。事前に試掘調査を実施する予定で，状況が整った段階での連絡を要請していたが，地盤改良を行っている最中に連絡が入った。急遽現場に向かったが既に大部分の地盤改良は終了していたため，調査の必要性を伝え次回からの適切な対応を要請した。

掘削された断面からは，微高地上の堆積状況が認められ，床土の直下にみられる基盤層を切り込んで遺構が存在した。遺構密度は低いものの溝等が確認でき，今後周辺での開発には，調査が必要と考えられる。（平井）

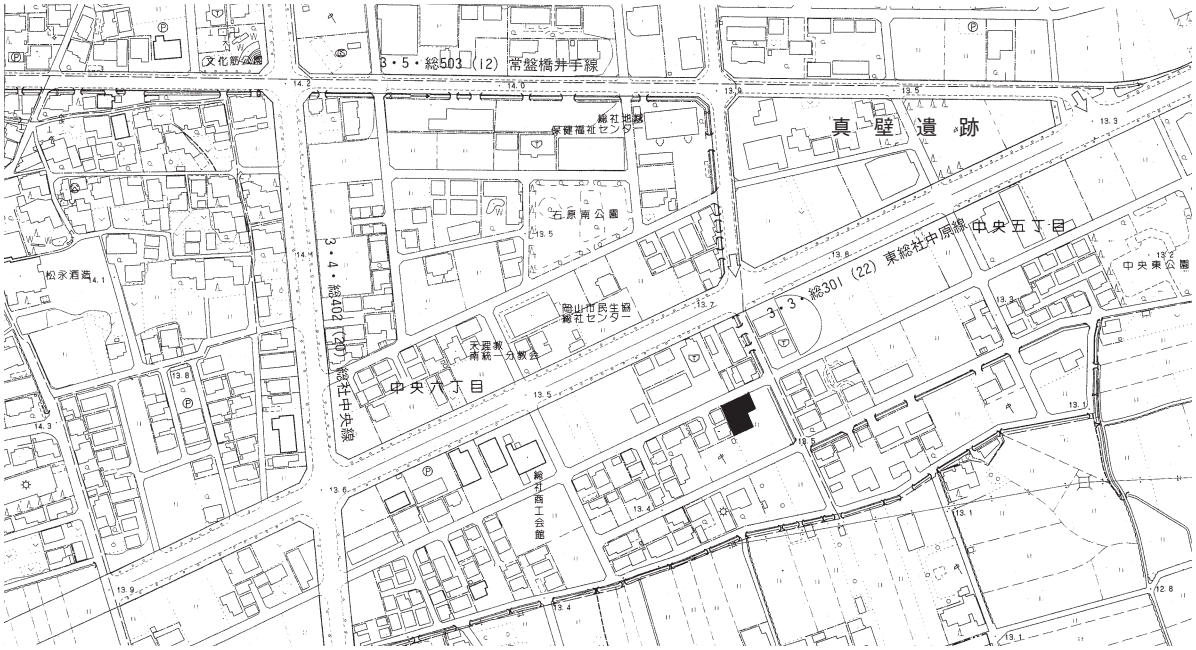
註　村上幸雄・谷山雅彦・高田明人「真壁遺跡　真壁字切子田ほか」『総社市史　考古資料編』1987

第35図版　土層断面（北から）



1．造成土
2．淡青灰色砂質土（床土）
3．淡茶褐色砂質土
4．茶褐色砂質土
5．暗褐灰色粘質土
6．暗黒褐色粘質土
7．暗灰茶色粘質土

第36図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）



第37図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅増築に伴う試掘調査

所 在 地　中央一丁目９－17

調査期間　平成15（2003）年６月24・25日

調査面積　約42㎡

調査概要

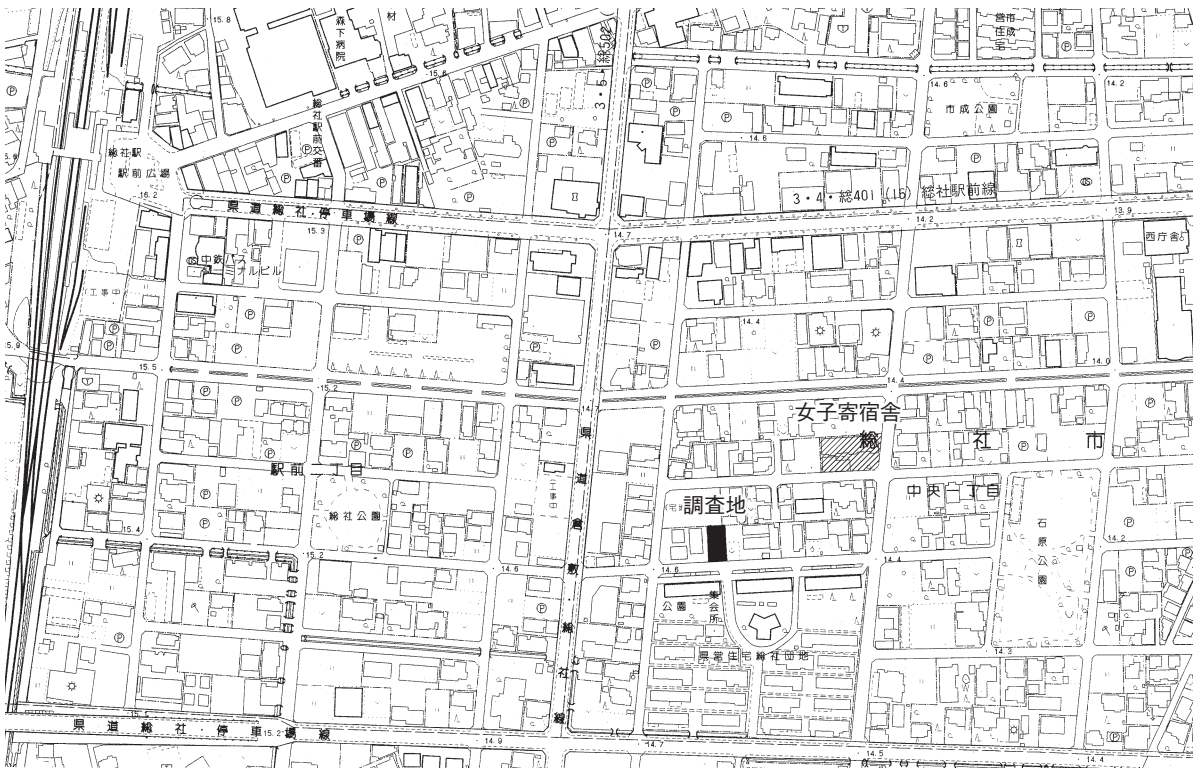
総社市街地中心部，総社駅から東南約500mの地点に，個人住宅増築工事で地下室を構築する計画があがった。

近年の住宅建設等に伴う試掘・立会調査でこの付近の遺跡分布状況は明らかになりつつあり，建築予定地の約100m北東では，東西コーポレーション女子寄宿舎新築工事に伴う立会調査で，古墳時代後期の集落跡が発見され[註]，当該地は遺跡が立地する微高地の南端付近にあたるものと考えられた。

工事では，3.82m×4.775mの地下室を構築するため，約６m×７mの範囲を地下1.5mまで掘削する予定となっており，遺跡が存在した場合は確実に破壊されることから試掘調査を実施した。

試掘調査では，まず１箇所にトレンチを設定し堆積状況を確認した。約70cmの造成土下には，粘質土と砂質土が互層になっていた。４層はいわゆる基盤と考えられる層で，東西コーポレーション女子寄宿舎では旧水田層直下に基盤層がみられることから，当該地は地形が相当下がってきているものと考えられた。また，遺構や遺物は一切確認できなかった。

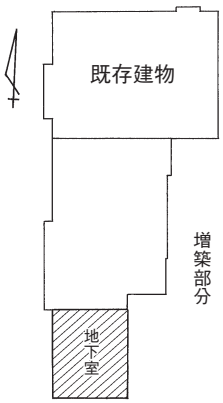
堆積状況や，遺構・遺物が確認できなかったことから，遺跡が存在しない可能性が高かったため，試掘後掘削工事に入った。しかし，微高地の下がり付近に溝等が存在する可能性もあり，立会して掘削範囲内に遺構・遺物が存在するか否かの確認を行なった。立会調査の結果，掘削範囲内の土層は試



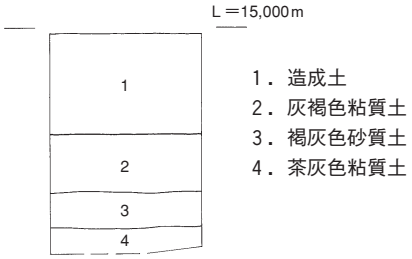
第38図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

掘箇所とほぼ同様の状況で，遺構・遺物も皆無であった。　　（平井）

註　高橋進一「トーザイコーポレーション女子寄宿舎新築工事に伴う調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』1　1991



第39図　掘削部分位置図（S＝1/400）



第40図　土層柱状図（S＝1/50）

第41図版　土層断面（東から）

第42図版　地下室部分掘り下げ状況

共同住宅建設に伴う試掘調査

所 在 地　福井字中畑2022，2021の一部

調査期間　2003年７月４日

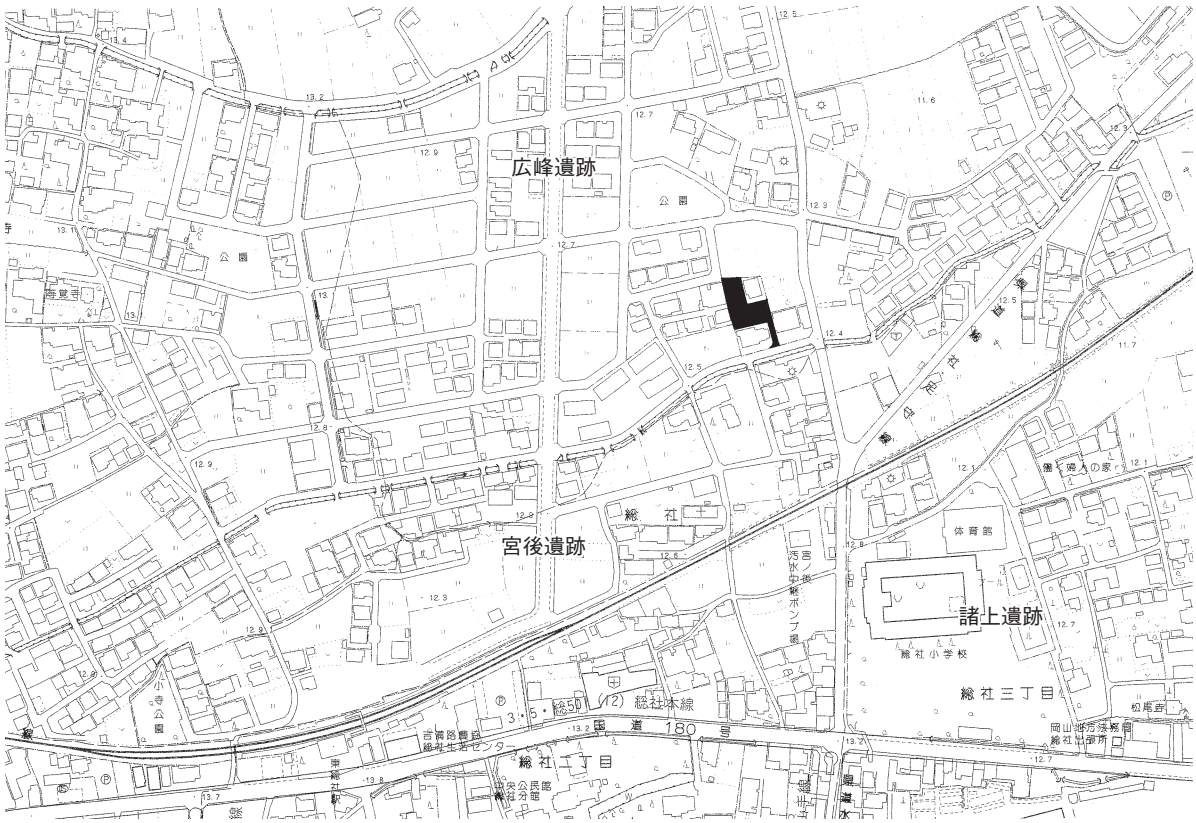
調査面積　４㎡

調査概要

JR東総社駅から北東へ約400mの地点に，共同住宅の建設が予定された。基礎部分は，地盤が脆弱なこともあり，172㎡の中に38箇所のコンクリート柱状改良を行う予定であった。

建設予定地の約100m西には，小寺東区画整理事業に伴う発掘調査によって発見された広峰遺跡・宮後遺跡[註1]が，また南南東約200mには，総社小学校プール建設に伴う発掘調査[註2]，共同住宅建設に伴う発掘調査[註3]で明らかになった諸上遺跡が所在することから，当該地にも遺跡が広がる可能性は高いものと考えられた。遺跡が存在するなら，柱状改良による破壊は免れないことから，事前に試掘調査を実施することとした。

南北に細長い建物部分の両端にトレンチを設定し，重機によって掘削を行った。北側のトレンチ１は，掘削した場所が畑地となっており，その耕作土の下に真砂土による造成土がみられる。造成土の直下には，造成前に使用されていた水田耕作土と床土が，さらに下層には灰茶色の砂質土が堆積する。トレンチ２は，造成土の下にトレンチ１同様水田耕作土と床土が存在するが，その下層は灰褐色の粘質土となる。最下層は砂質土と粘質土の違いはあれ，いずれも微高地上の堆積状況にはなく低位部と判明したが，中世以前の水田層は確認できなかった。また，遺構，遺物も検出されなかったことから，

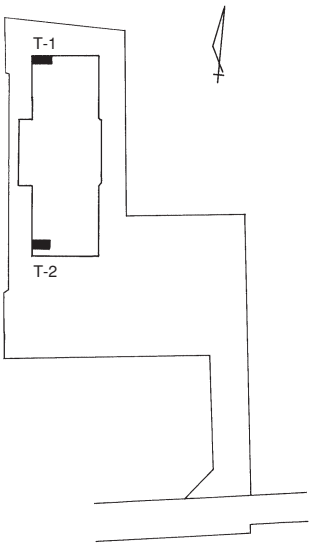


第43図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

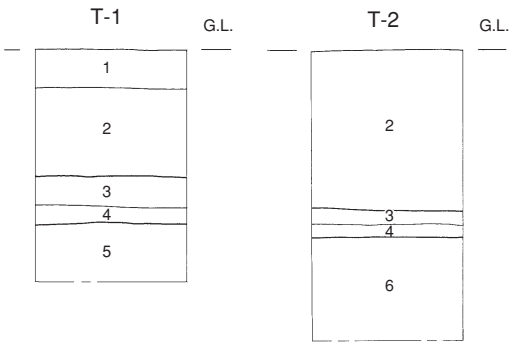
当該地が集落からやや離れた地点に位置するものと考えられる。

以上の結果から，当該地周辺には低位部が広がるものと考えられ，諸上遺跡と広峰遺跡・宮後遺跡の間にも，低位部が存在する可能性は高いものと思われる。今後，周辺の開発に留意して，微高地と低位部の境を明らかにしていく必要がある。（平井）

註１　高田明人「小寺東区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』４　1994
註２　武田泰彰「総社小学校プール建設に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』９　1999
註３　前角和夫「共同住宅建設に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』12　2003



第44図　トレンチ位置図（Ｓ＝1/800）



１．耕作土（畑）　２．真砂土（造成土）
３．暗灰色土（水田耕作土）　４．淡茶灰色粘質土（床土）
５．灰茶色砂質土　６．灰褐色粘質土

第45図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）

第46図版　調査地遠景（北から）

第47図版　Ｔ－１土層断面

個人住宅改築に伴う立会調査

所 在 地　窪木879－1

調査期間　2003年７月17日

調査概要

改築予定地は，JR服部駅から約700m南に位置する。建物部分の改築はベタ基礎工法を用いるため，掘削は地表面から20～30cm程度にとどまり造成土中でおさまる。しかしながら，改築に伴い浄化槽を設置することから，浄化槽埋設壙は深さ約２mまで掘削される予定であった。

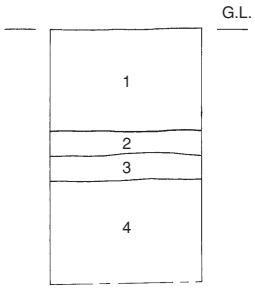
西南約200mの地点に所在する総社市埋蔵文化財学習の館の擁壁部分から，弥生時代後期の住居址等が検出されている[註]ことから，当該地にも遺跡が存在する可能性があり，浄化槽設置時に立会調査を実施した。

調査の結果，60cm近い造成土の直下には，約15cm程度の砂質土が堆積し，さらに下層は砂層，砂礫層へと続いていく。旧河道の氾濫原を想起させる堆積状況を示し，遺構・遺物は検出されなかった。

（平井）

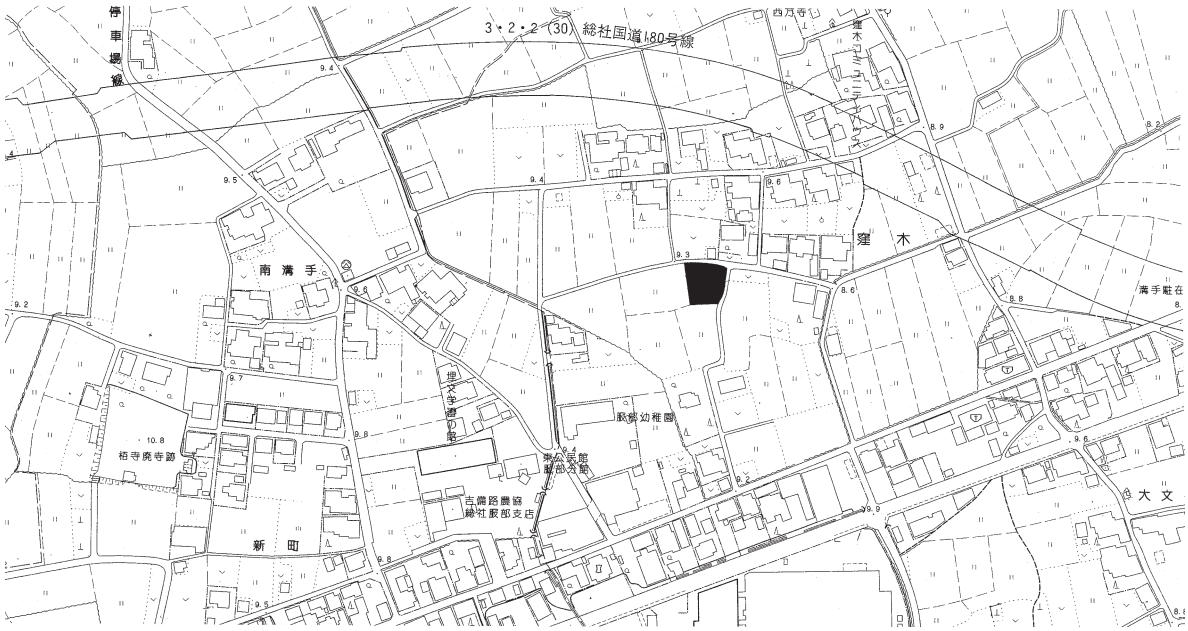
註　高橋進一「（仮称）埋蔵文化財学習の館造成工事に伴う立会調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』３　1994

第48図版　土層断面



1．造成土
2．茶灰色砂質土
3．茶褐色砂
4．砂礫層

第49図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）



第50図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅建設に伴う立会調査

所 在 地　新本4544－２

調査期間　2003年８月６日

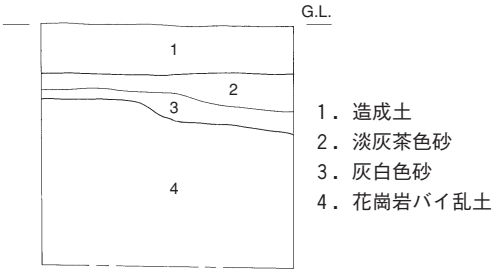
調査概要

建設予定地は，総社市西部，矢掛町との境に近い新本川南岸の高台に立地する。建物の基礎工法はベタ基礎で掘削は20～30cmと浅いが，浄化槽を設置するため深さ約２mに及ぶ掘削が予定されていた。約１km東では新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査が実施され，弥生時代から中世にいたる遺跡が発見されている[註]が，当該地周辺では古墳以外の遺跡の有無は明らかでないため，浄化槽掘削時に立会調査を実施することとした。

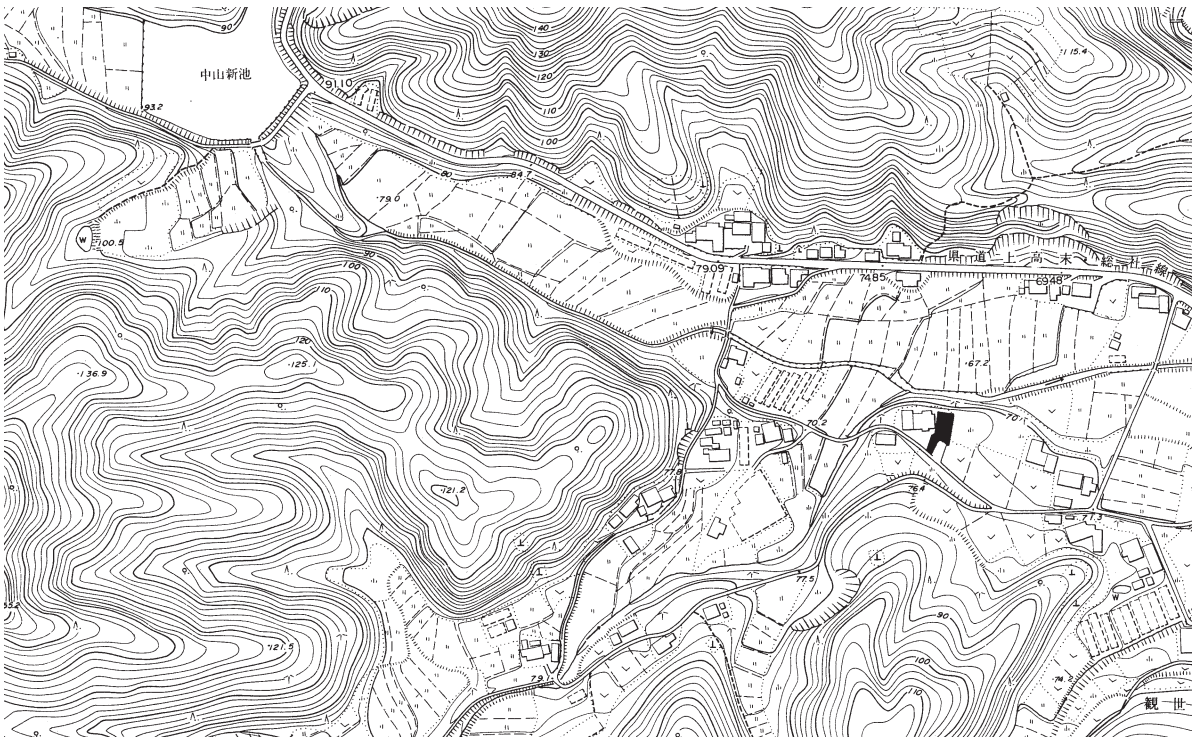
調査の結果，40cmの造成土直下には２層の砂層が認められ，その下層には花崗岩のバイ乱土が厚く堆積していた。遺跡が存在し得る堆積状況にはなく，遺構・遺物は皆無であった。　（平井）

註　武田泰彰「新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』３～６　1993～1996

第51図版　土層断面



第52図　土層断面図（Ｓ＝1/60）



第53図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

個人住宅宅地造成に伴う試掘調査

所 在 地　真壁855－2

調査期間　2003年８月11日

調査概要

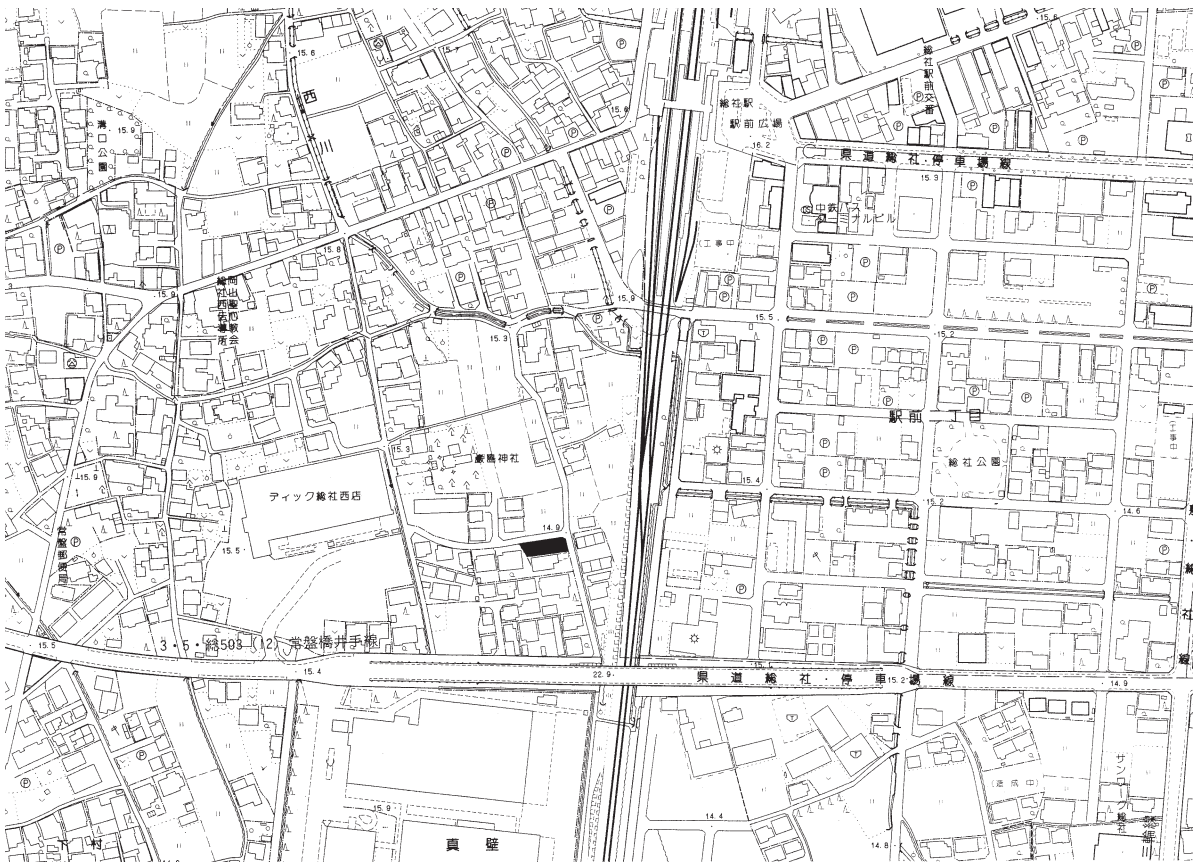
総社駅から南南西に約300m，個人住宅北側に位置する水田を宅地造成する計画が上がった。造成時に擁壁を築く予定であったが掘削は浅く，造成後もすぐに建築物を構築する予定にはなっていなかった。そのため，現時点では調査をする必要もなかったが，この付近の遺跡の状況が明らかでなかったことから，所有者の好意によって調査を実施することができた。

調査にあたっては，擁壁工事を行っていた業者の重機によりトレンチを掘削した。その結果，遺構の存在が明らかになったことから，必要以上の調査による破壊を避けるため，トレンチ掘削は１箇所にとどめた。

土層の堆積状況をみると，15cm程度の耕作土直下には5cm前後の床土が存在し，その下層にはそれぞれ10～20cm程度の厚さをもつ灰色系の土層が２層認められた。さらに下層は，基盤層と考えられる黄茶褐色土層，暗灰褐色土層，暗褐灰色砂質土層と漸移的に砂質の強い土層に変化していき，最下層は砂礫層となる。

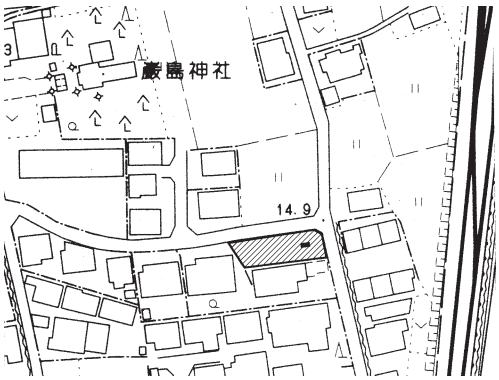
遺構は，密度は低いもののピットが検出され，これらのピットは３層あるいは４層から切り込まれている。埋土中からは中世の土師器椀が出土しているが，いずれも小片で図示し得なかった。

今回の調査結果から，当該地が微高地上に位置し，古代以前の遺構は発見できなかったものの，中

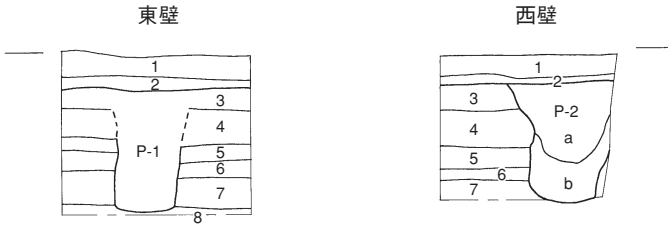


第54図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

世以降は生活の場として利用されていたことが判明した。今後この周辺の開発については調査を実施し，微高地の広がりなども捉えていきたい。（平井）



第55図　トレンチ位置図（Ｓ＝1/2,500）



1．褐灰色土（耕作土）　2．黄茶褐色粘質土（床土）
3．褐灰色土（包含層）　4．灰褐色土
5．黄茶褐色土　6．暗灰褐色土
7．暗褐灰色砂質土　8．礫層
P-1　灰茶色粘質土　P-2　a 灰色土　炭・焼土多　b 灰茶色土

第56図　土層断面図（Ｓ＝1/40）

第57図版　調査地遠景（北から）

第58図版　北壁土層断面（南から）

第59図版　東壁土層断面（西から）

第60図版　西壁土層断面（東から）

幼稚園建設に伴う立会調査

所 在 地　総社市中央三丁目９－101

調査期間　2003年８月26～29日

調査概要

本調査は，総社南幼稚園の園舎増築に伴う確認調査として実施した。

調査地の周辺では，中央区画整理事業や総社駅南地区区画整理事業に伴う発掘調査等によって徐々に市街地内の遺跡の状況が明らかになってきている。

調査地の現状は，水田上に客土をした幼稚園の運動場である。重機によって１×２m程度のトレンチを掘削した。その結果，約80cmの厚さの造成土の下は，旧水田の耕作土層があり，その下は床土層である淡灰青色土層，中・近世の水田層と考えられる淡灰茶色粘土が堆積しており，さらにその下は暗灰褐色粘質土～褐灰色シルト～淡灰褐色砂層の順で堆積していた。全体として低位部の様相を呈しているが，6層の暗灰褐色粘質土までは，水田層の可能性が高いと判断された。　（高橋）

第61図版　土層断面

第62図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）

第63図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

秦幼稚園増築工事に伴う立会調査

所 在 地　総社市秦2987

調査期間　平成15年９月１～５日（随時）

調査概要

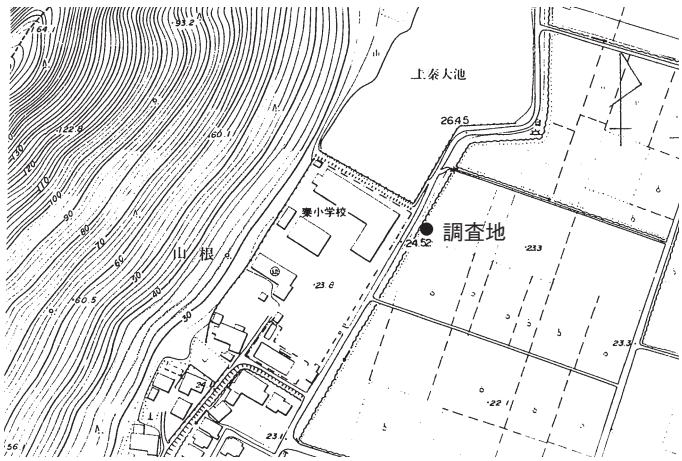
秦幼稚園は高梁川右岸の秦に所在する。園舎の西側には標高約190mの城山を最高点として，北東方向へと分岐した主峰列が迫り，段丘状となる山裾には現在秦小学校が所在しているが，これより以東の沖積地には水田が広がり標高も漸次下降している。また，秦地区に限っては調査地周辺から南西へ850mの地点に飛鳥時代の創建として著名な秦原廃寺や，同寺の瓦窯が周知されているものの，総体的に発掘データーが少ない状況にある。

今回の調査は秦幼稚園の東側に隣接して園舎の増築が計画され，地下構造は地中梁工法に基づき合計６箇所の杭打ちと，各杭を連結させた梁を埋設するため，地下掘削を伴う工事期間中に立会調査を実施したものである。

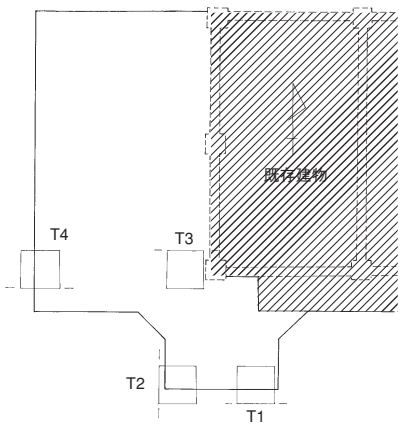
調査結果は，まず梁部分の掘削が近現代水田層中（２層）で停止しており，地下に影響はないと判断した。次に杭打ち箇所はGL-150cm前後で掘削停止のため，４ケ所において土層観察することにした。

１層は園舎の造成土，２～３層は近現代造成層である。４層は硬く締まった砂質土であり，４層以下にはT１とT３に５・６層を認めたにすぎず，遺構・遺物共に検出できなかった。

しかし，地下掘削が遺物包含層や遺跡の形成された基盤層に達していない可能性も十分に考えられ，遺跡の有無を判断できるには至らなかった。　（松尾洋平）

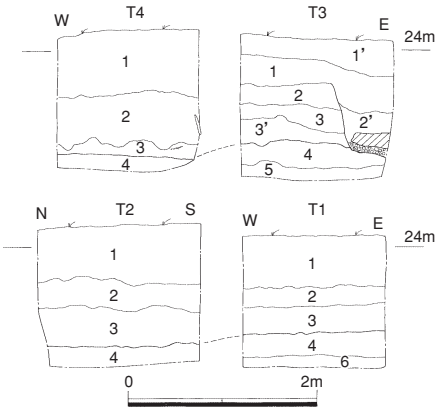


第64図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）



第65図　トレンチ配置図（Ｓ＝1/300）

第66図版　Ｔ３土層断面



1．浅黄橙色砂質土(造成土)
1'．褐灰色土(造成土),10YR5/1
2．褐灰色粘質土(耕土),7.5YR5/1
2'．２の埋土(造成土)
3．浅黄色砂質土(水田造成土),2.5Y7/3
3'．灰色粘質土,一部グライ化,7.5YR5/1
4．灰黄褐色砂質土,硬い,10YR5/2
5，にぶい黄橙色砂質土,10YR7/4
6，黄褐色砂質土,2.5Y5/4

第67図　土層断面図（Ｓ＝1/80）

分譲住宅造成に伴う立会調査

所 在 地　門田字東裏70－７・８，71－１，72－１，

調査期間　2003年９月４・15日

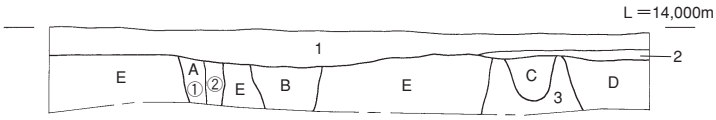
調査概要

総社駅から北東約800mの地点に広がる荒地に，７区画の分譲宅地を造成する計画があがった。造成予定地から約500m離れた東方及び北方に，宮野後遺跡・広峰遺跡，小寺御崎神社前遺跡が知られるが，当該地付近では現在まで遺跡は確認されていない。今回の造成では擁壁の掘削等が行なわれるが，幅が約１mと狭いため，掘削時に立会調査を実施することとした。

表土中でおさまる箇所もあったが，その多くは50～60cm程度まで掘削が及んだ。約20cmの表土下には７～８cmの旧水田層が存在し，一部にはこの層が削平されている箇所もあった。これらの層を除去すると，基盤と考えられる自然堆積層が確認され，この層の上面から遺構が切り込まれていた。調査地の中央西より付近では，第69図のように特に遺構密度が高い。遺物は少量で小片のみであったが，埋土の色調や質を考え併せ弥生時代～中世までの遺構が存在するものと想定された。

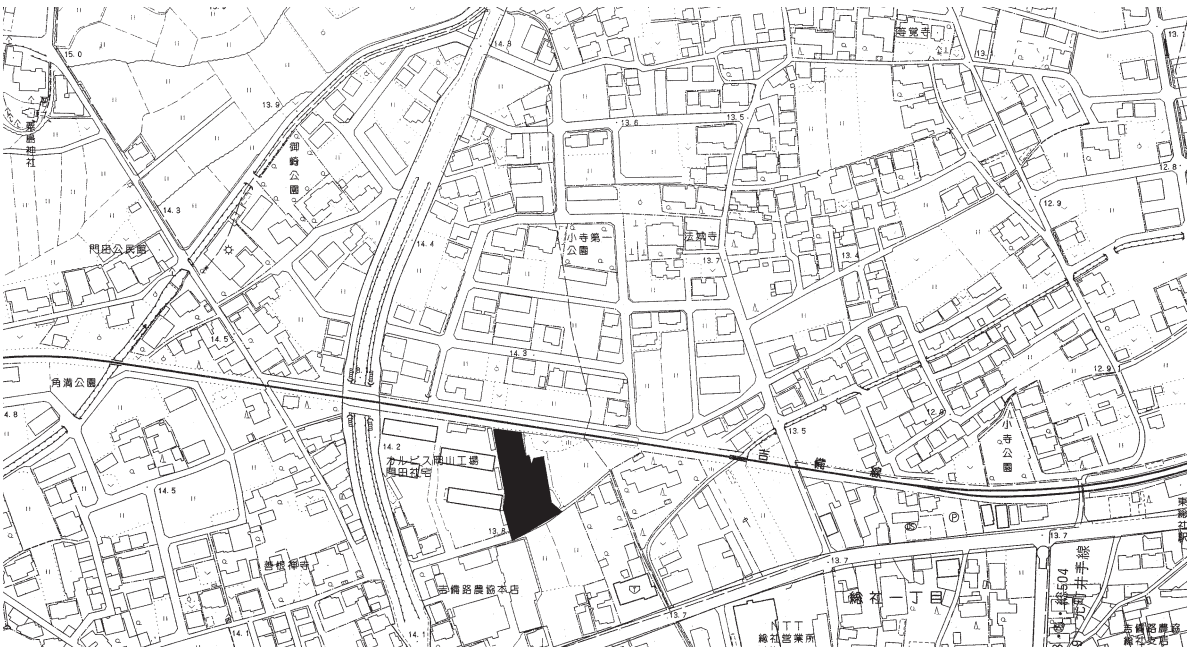
地盤は比較的堅くしまっているため，地盤改良を実施する可能性は低いものと考えられるが，今後住宅が建設される際には注意を払っていきたい。　（平井）

第68図版　調査地遠景



1．灰色土（表土）　2．淡灰色砂質土（床土）　3．灰茶褐色砂質土（基盤層）
A.(Pit) ①暗褐灰色砂質土（柱痕）　B.(Pit) 褐灰色砂質土
②褐灰色砂質土（掘方）
C.(Pit) 淡茶褐色砂質土　D.(土壙？) 灰褐色砂質土
E.(住居址) 茶灰褐色砂質土

第69図　土層断面図（Ｓ＝1/50）



第70図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅増築に伴う立会調査

所 在 地　久代字横田3636

調査期間　2003年10月１日

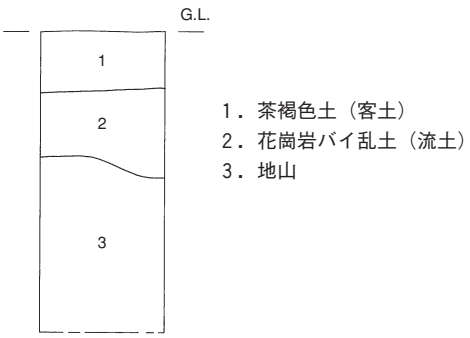
調査概要

増築予定地は，高梁川西岸から約３km西にあたり，正木山南麓に位置する。東方約100m付近の丘陵南斜面には古墳時代～室町時代の遺物が散見されるが，当該地における遺跡の有無等は不明であった。増築部分の基礎はベタ基礎工法で掘削は深くおよばないが，浄化槽を設置することから，浄化槽掘削時には遺跡の有無と堆積状況を確認するため立会調査を実施することとした。

調査の結果，地表面から約50cmまでは造成土が認められ，その下層には山塊から流入した花崗岩バイ乱土が50cm程度堆積していた。さらに下層は地山の岩盤となっており，遺構の掘り込みはなく，遺物も確認できなかった。

しかしながら，当該地は，斜面を切断して居住域としていることから，遺構が仮に存在していたとしても，造成時に消失している可能性もあり，今後周辺で開発が行われる際には，立会・確認等の調査を行う必要はあるものと考える。（平井）

第71図版　土層断面



第72図　土層柱状図（Ｓ＝1/60）

第73図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

福祉施設建設に伴う試掘調査

所 在 地　真壁字八神399

調査期間　2003年10月８日

調査面積　約５㎡

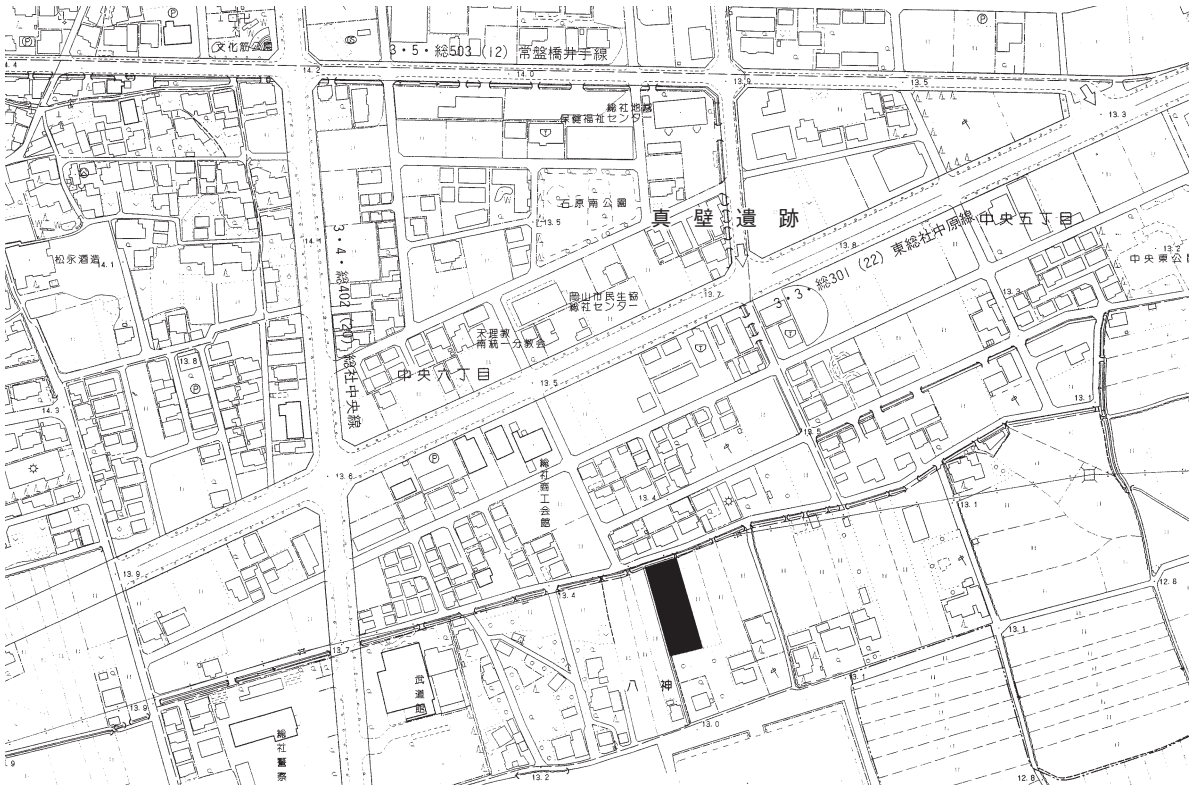
調査概要

JR総社駅から南東へ約1.4km，真壁遺跡の包蔵地内にあたる水田に，老人福祉施設の建設が計画された。基礎伏図によると，155㎡の建築面積内に，セメントミルク工法による径35cmの杭を２本，径45cmの杭を７本，径50cmの杭を２本，地表面から10.8mまで打ち込む予定であった。

先に触れたように，建設予定地は中央区画整理事業による発掘調査で発見された縄文時代～中世に亘る複合遺跡である真壁遺跡[註]の包蔵地であるが，当該地の位置する東総社中原本線より南においては，次第に地形が下がっていき，それに呼応して遺構密度も低くなっていく。建設予定地周辺には古い集落もなく水田が多いことから，真壁遺跡の南端付近にあたり遺構が存在しない可能性も考えられたが，杭打ち箇所に試掘トレンチを設け，遺構密度が高い場合は全面発掘調査を，遺構がほとんど認められない場合には，杭打ち箇所のみ調査することとした。

試掘調査は手掘りによって実施し，まず建造物の４隅にあたる杭打ち箇所にトレンチを掘削した。20cm程度の現代水田層の下層には，２層の中・近世水田層（２・３層）が認められた。４層は，粘質土で微・細砂のブロックを含む。さらに下層の５・６層は粘土層となり，特に６層はグライ化し青みを帯びる。以上の堆積状況から，当該地は低位部と思われ，遺構・遺物等も検出できなかった。

しかしながら，微高地の下がり付近には溝などが存在する可能性もあるため，他の杭打ち箇所も調

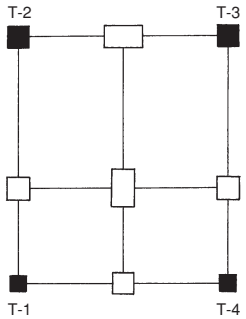


第74図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

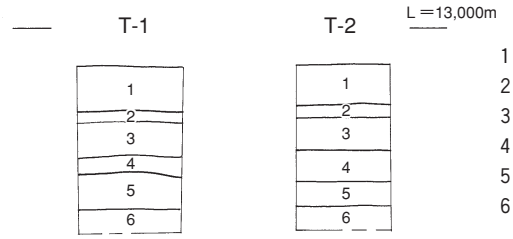
査を試みたが，いずれもT－１～T－４と同様の堆積状況で，遺構・遺物は確認できなかった。

（平井）

註　村上幸雄・谷山雅彦・高田明人「真壁遺跡　真壁字切子田ほか」『総社市史　考古資料編』1987



第75図　トレンチ位置図（Ｓ＝1/400）



1．耕作土
2．淡灰黄色粘質土（旧水田層）
3．淡黄灰色粘質土（旧水田層）
4．褐灰色土　微・細砂ブロック含
5．灰褐色粘土
6．暗青灰色粘土

第76図　土層断面図（Ｓ＝1/40）

第77図版　調査地遠景（北東から）

第78図版　T－１土層断面（東から）

第79図版　T－２土層断面（東から）

第80図版　T－４土層断面（西から）

個人住宅建設に伴う試掘調査

所 在 地　小寺字天王38－10

調査期間　2003年10月16日

調査概要

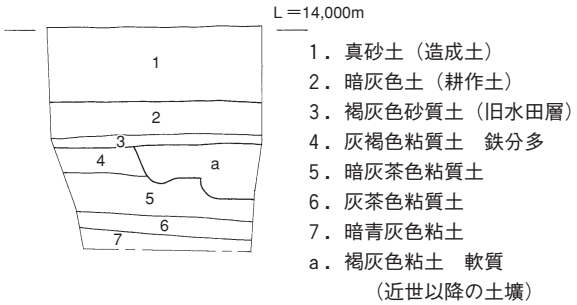
JR東総社駅から北北西へ約250m，閑静な住宅街の一画に個人住宅の建設が計画された。建物の基礎はベタ基礎であるが，地盤が脆弱であることから杭打ちを行う予定となった。建設予定地は，小寺東区画整理事業に伴う発掘調査で発見された広峰遺跡・宮後遺跡[註]の西方約300mに位置する。そのため当該地にまで遺跡が広がるおそれもあることから，事前に試掘調査を実施することとした。

調査は，重機を用いてトレンチの掘削を行った。真砂土による造成土の直下には，耕作土，近世以降の水田層が順に堆積し，その下層には灰茶色系の粘質土が３層認められた。さらに下層はグライ化した粘土層となる。なお，４層を切り込んだ近世以降の土壙が検出されたが，その他の遺構は確認できなかった。また，遺物も小片すら発見できなかった。

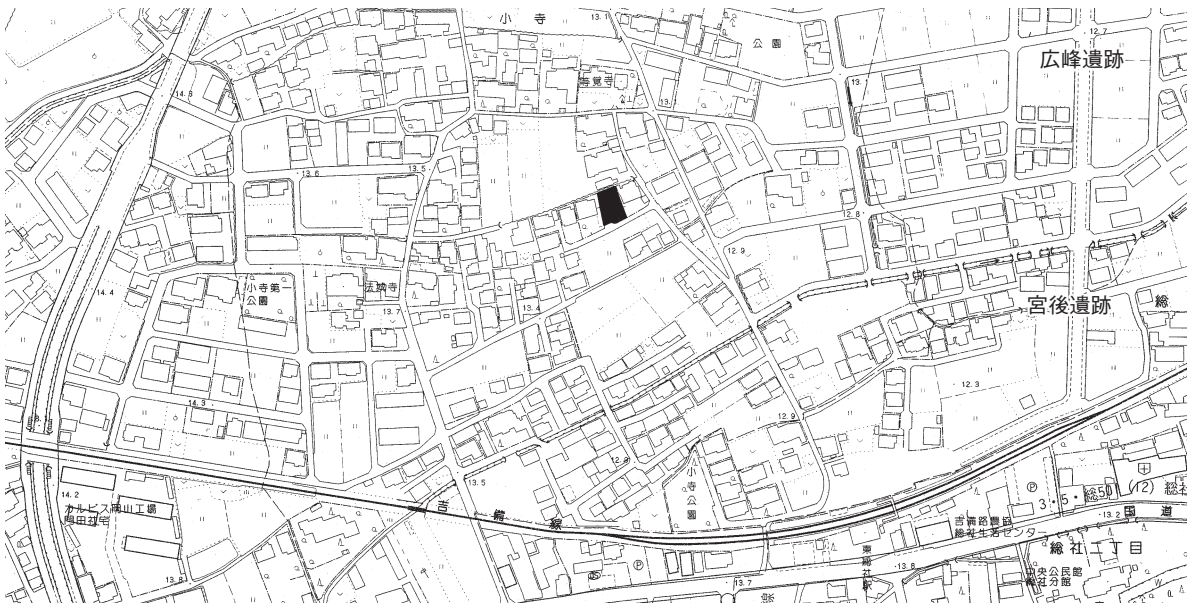
調査の結果，微高地と考えられる土層の堆積は認められず，調査地が低位部であることが判明したが，中世以前の水田と思われる層は確認できなかった。（平井）

註　高田明人「小寺東区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』４　1994

第81図版　土層断面



第82図　土層断面図（Ｓ＝1/50）



第83図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅新築に伴う立会調査

所 在 地　三須字城ノ越1609－33

調査期間　2003年10月24日

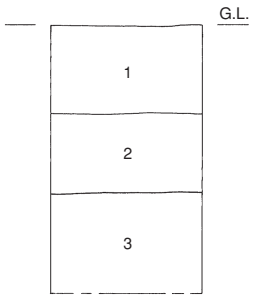
調査概要

調査地は，総社駅から東南に約2.3km，山手村との境界に近い丘陵西側平野部に立地する。東側の丘陵裾部には弥生～古墳時代の遺物がみられるが，当該地は地形からみて旧河道上に立地すると想定され，遺跡は存在しないものと考えられた。

地盤が弱いため柱状改良を行なう予定であったが，遺跡が存在しない可能性が高いことから，浄化槽掘削時のみ立会調査を実施することとした。

調査の結果，約60cmの真砂土による造成土の下は全体にグライ化しており，陶磁器など廃棄物を多く含む客土が厚く堆積していた。さらに下層には自然堆積層であるシルト層が認められ，当初の予想どおり，この地が河道など低位な場所にあたることが判明した。　（平井）

第84図版　土層断面（北から）



1．真砂土（造成土）
2．暗青灰色粘質土（造成土）
　　廃棄物含
3．暗青灰色シルト（自然堆積層）

第85図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）

第86図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

福祉施設増築に伴う試掘調査

所 在 地　久米字三の坪

調査期間　2003年10月28日

調査面積　３㎡

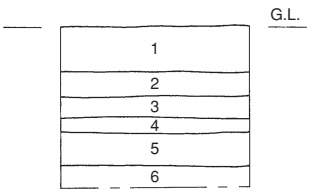
調査概要

総社市北東部にあたる久米の砂川南岸に，老人福祉施設の増築が計画された。基礎工法は，156本の杭打ちを行ない，地中梁で繋ぐというものである。1993年の施設建設時に試掘調査を行っており，その際には，上層に河川による砂の堆積，下層にはグライ化した粘質土層がみられ，付近一帯が低湿地であったことが確認されている。

このことから，今回の増築予定地でも，遺跡は存在しないものと考えられたが，増築部分は砂川から離れて南に長く延びるため，工事開始時に重機の協力を得て南端にのみトレンチを掘削し，土層の堆積状況を確認した。

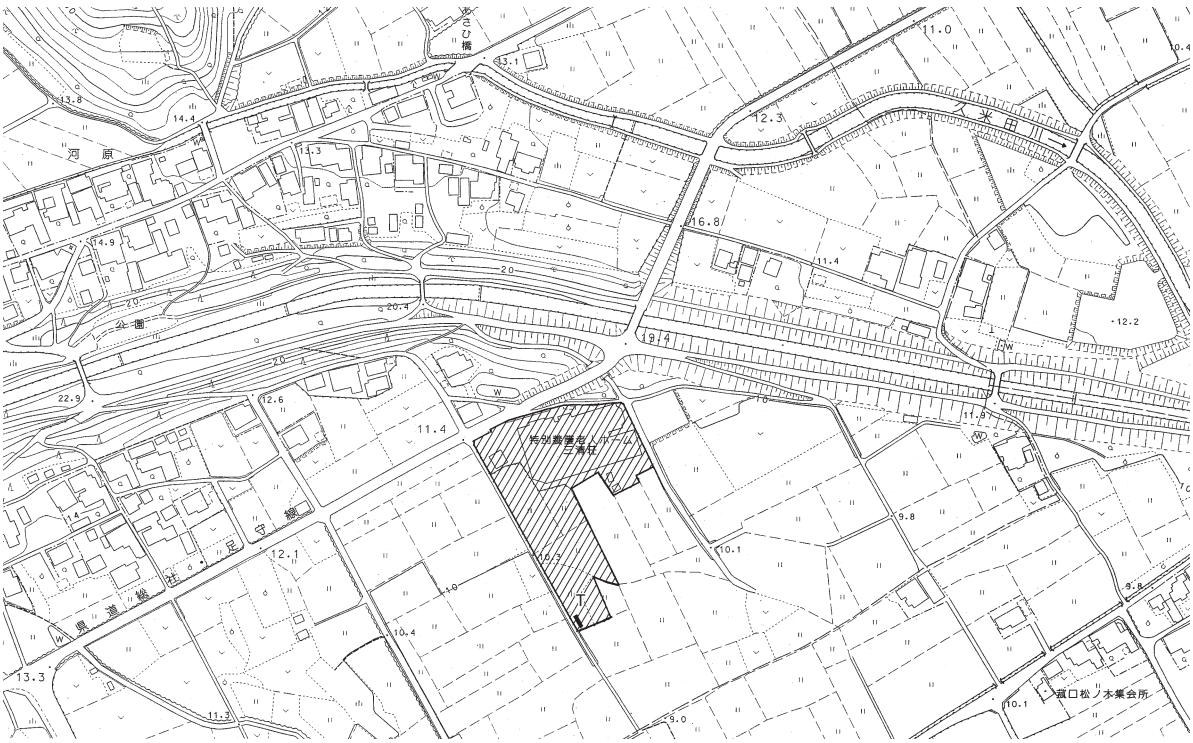
調査の結果，真砂土を多く含む砂質土が堆積しており，遺構・遺物は確認できなかった。　（平井）

第87図版　調査地遠景



1．暗灰色土（表土）
2．乳褐色粘質土
3．灰色砂質土
4．暗褐色砂質土
　上層にMn・Fe集積
5．黄茶褐色砂質土
　鉄分線状に３層堆積
1～5層真砂多く混入
6．白灰色粗砂

第88図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）



第89図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

個人住宅地建設に伴う立会調査

遺 跡 名　坊ヶ内遺跡

所 在 地　新本字坊ケ内7347－３，9420－１

調査期間　2003年11月５日

調査概要

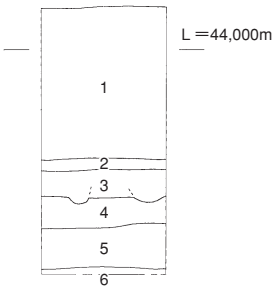
本調査は，個人住宅の浄化槽掘削の立会調査として実施した。

調査地の周辺では，1998年度から2002年度にかけて県営農業基盤整備事業に伴う発掘調査が行われており，弥生時代から中世にかけての大規模な集落跡・古墳群・製鉄遺跡・官衙関連遺構が検出されている。また東方約３kmでは，水島機械金属工業団地西団地建設に伴う発掘調査が1986年から実施され，弥生時代から奈良・平安時代にかけての大規模な集落遺跡・古墳群・製鉄遺跡の存在が明らかになっている。

調査地の現状は水田上に客土をした造成地である。重機によって１×４ｍ程度のトレンチを掘削した。その結果，約120cmの厚さの造成土の下には，中・近世の水田層と考えられる淡黄灰色の粘質土が堆積しており，さらにその下は暗茶褐色粘質土～灰青色粘土～花崗岩バイラン土（流土）～青灰色粘土の順で堆積しており，北側の山塊からの崩落土と低湿地の堆積土とが混在している状況が認められた。

（高橋）

第90図版　土層断面



1．造成土
2．淡黄灰色粘質土
3．暗茶褐色粘質土
4．灰青色粘土
5．花崗岩バイ乱土（流土）
6．青白色粘土

第91図　土層柱状図（Ｓ＝1/60）

第92図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

個人住宅地建設に伴う立会調査

所 在 地　新本7776

調査期間　2003年11月13日

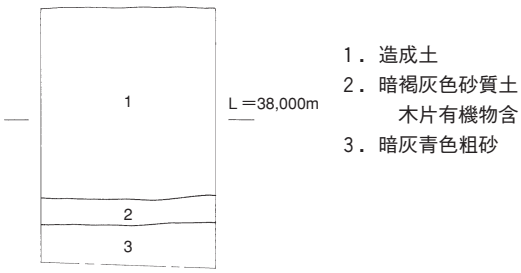
調査概要

本調査は，個人住宅の浄化槽掘削の立会調査として実施した。

調査地の周辺では，1998年度から2002年度にかけて県営農業基盤整備事業に伴う発掘調査が行われており，弥生時代から中世にかけての大規模な集落跡・古墳群・製鉄遺跡・官衙関連遺構が検出されている。また東方約２kmでは，水島機械金属工業団地西団地建設に伴う発掘調査が1986年から実施され，弥生時代から奈良・平安時代にかけての大規模な集落遺跡・古墳群・製鉄遺跡の存在が明らかになっている。

調査地の現状は，水田上に客土をした造成地である。重機によって１×３ｍ程度のトレンチを掘削した。その結果，約70cmの厚さの造成土の下は，暗灰褐色～暗灰青色の砂質の強い土層が堆積しており，低湿地と推定された。（高橋）

第93図版　土層断面（東から）



第94図　土層柱状図（Ｓ＝1/60）

第95図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

個人住宅地建設に伴う立会調音

所 在 地　西阿曽327－５

調査期間　2003年12月９日

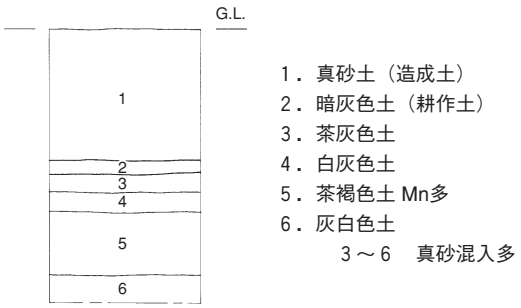
調査概要

本調査は，個人住宅の浄化槽掘削の立会調査として実施した。

調査地の現況は，水田上に客土をした宅地である。調査地の北方約３kmには古代山城である鬼ノ城があり，北方約１kmには秦大坑古墳･上沼古墳などの古墳群が立地する標高70～100ｍの舌状丘陵が存在する。また，南東約１kmには岡山県立大学の建設に伴って岡山県教委によって発掘調査が行われた，南溝手遺跡・窪木遺跡が位置している。

調査地の基本的な層序は，真砂土の客土の下に水田の耕作土があり，その下には茶灰色土層が堆積しており，旧水田層と考えられる。さらにその下層は，白灰色土・茶褐色土が堆積しており，これらの土層には花崗岩バイラン土が多く含まれており，山土起源の堆積土層であると推定された。遺構・遺物ともに検出できなかった。（高橋）

第96図版　土層断面（南から）



第97図　土層柱状図（Ｓ＝1/50）

第98図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

貸店舗建設に伴う立会調査

所 在 地　小寺４－１，５－１ほか

調査期間　2004年１月15日

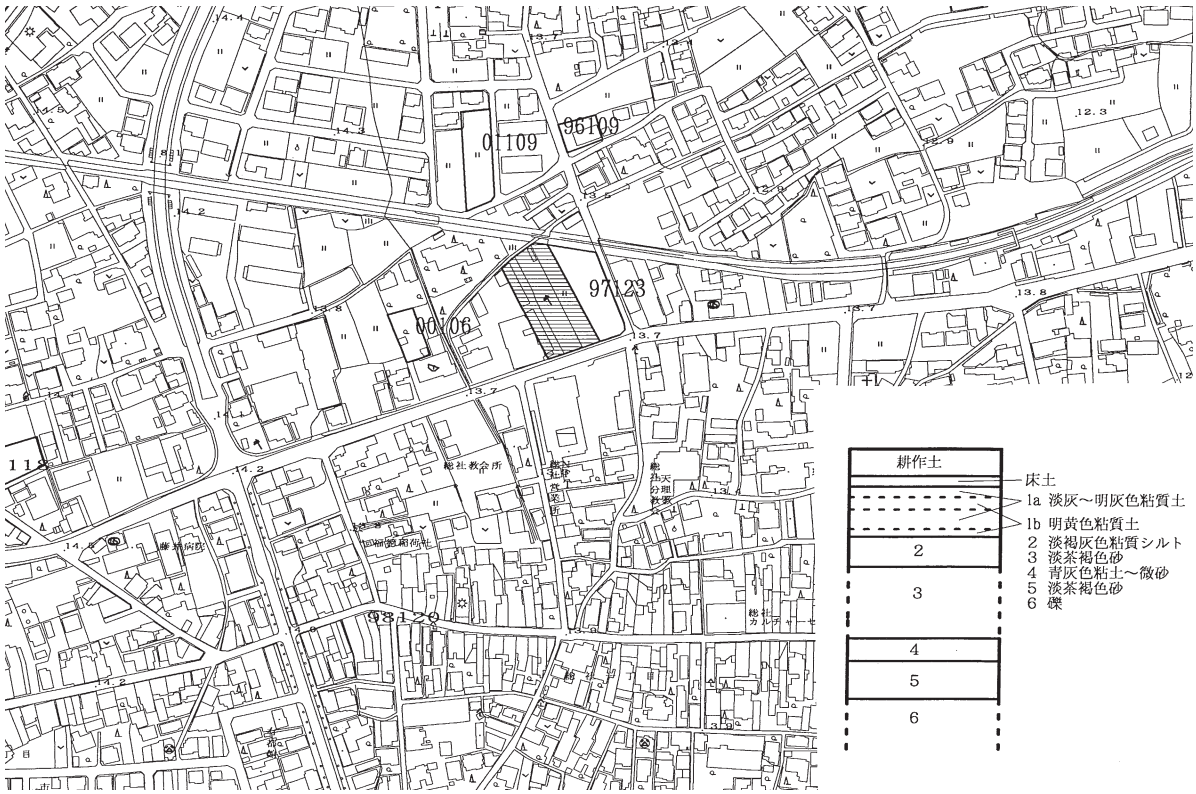
調査概要

調査地は，市街地の北部，JR吉備線沿い。開発行為許可申請にともなう事前審査で，地下に影響のある工事（擁壁・防火水槽・建物基礎）のうち，防火水槽掘削時点の立会調査である。

工事は７～10mの範囲を鋼矢板で仕切って，地下３mまで掘削し，防火水槽を設置するもので，すでに上層の土層は搬出され，わずかに下層と基盤層が確認できたにすぎない。調査地南に接する国道180号線と，調査地との高低差は１m。その現面より－1.65mで基盤層の礫層となる。30cm大の円礫であり，おびただしい湧水が生じていた。この基盤層の上に25cm厚の砂，15cm厚の粘土～微砂の堆積を確認した。遺構・遺物は確認されず，搬出された上層内にも遺物は含まれていなかった。

周辺の調査は半径100m以内で４ヵ所実施されている[註]が，いずれも遺跡の存在する可能性についての判断材料を得るこはできていない。そこで，調査地内に盛土造成されていなかった部分が存在していたことと，上層の土層確認のため，急きょトレンチを設定した。耕土・床土の下に第１層が土色で分層され互層となり，水田形成層と判断した。第２層が遺構面と推測されるが，安定した土層ではない。またこれ以下の層も粘土や砂。遺物は１層中より土師器微片が出土しているが，混入と判断される。水田層の形成は近世か。西に地形が下降しているようである。　（前角和夫）

註　平成８年度立会・確認調査一覧表の９（『総社市埋蔵文化財調査年報７』1997），平成９年度立会・確認調査一覧表の23（『総社市埋蔵文化財調査年報８』19981），平成12年度立会・確認調査一覧表の６・９（『総社市埋蔵文化財調査年報11』2001）



第99図　調査地位置図・土層断面模式図（Ｓ＝1/5,000・1/50）

個人住宅建設に伴う立会調査

所 在 地　総社市井手503－５ほか

調査期間　2004年３月15日

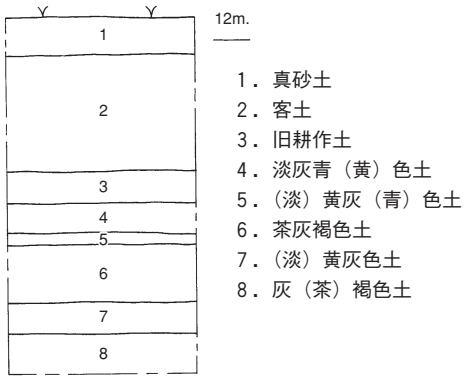
調査概要

本調査は，個人住宅の浄化槽掘削の立会調査として実施した。

調査地の現況は，水田上に客土をした宅地である。近隣では，平成４年度に北西約300mに位置する総社東中学校の校舎増築工事と体育館新築工事に伴って発掘調査を実施している。その際には溝・土壙等が検出され，弥生時代後期から古墳時代の土器が出土している。

調査地の基本的な層序は，旧耕作土の下に約25cmの厚さで中・近世水田層と考えれる淡灰青色～淡黄灰色の粘質土層が堆積しており，その下からは（淡）黄灰色土の基盤層となっている。遺構・遺物ともに検出できなかった。（高橋）

第100図版　調査地遠景



第101図　土層柱状図（Ｓ＝1/40）

第102図　調査地位置図（Ｓ＝1/10,000）

個人住宅建設に伴う立会調査

所 在 地　総社市黒尾1851

調査期間　2004年３月26日

調査概要

本調査は，個人住宅の浄化槽掘削の立会調査として実施した。

調査地の現況は，水田である。南方約500ｍの丘陵上には西山周辺古墳群が立地している。

重機によって旧耕作土下約１ｍ20cmの深さまで掘削を実施したが，水田耕作土の下は淡灰（黄）色～（暗）灰色の砂質土層が堆積しており，低湿地の堆積層と考えられた。遺構・遺物ともに検出できなかった。（高橋）

第103図版　調査地遠景

第104図版　土層断面

第105図　調査地位置図（Ｓ＝1/10,000）

表面採集の磨製石斧

遺 跡 名　槁・横畝遺跡

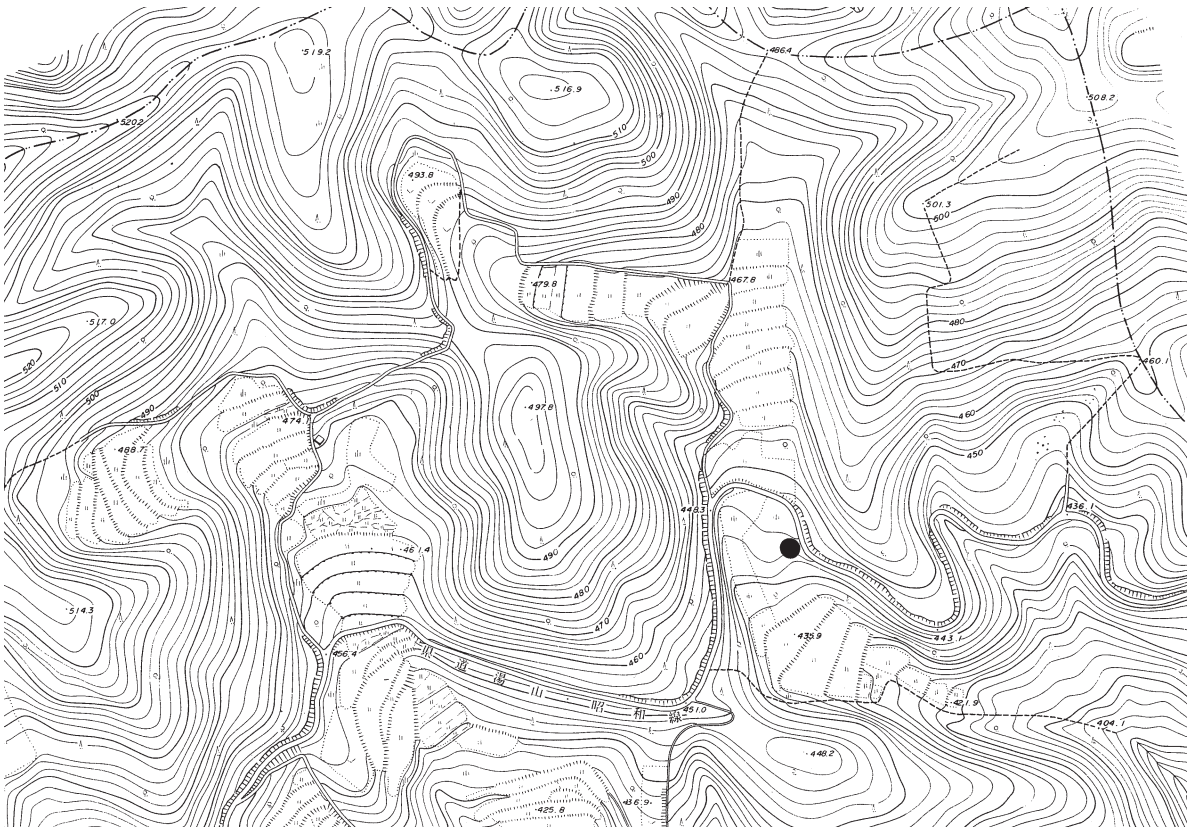
所 在 地　槁字横畝1028番地

踏 査 日　1995年10月17日

調査概要

2003年８月22日，市内在住の加藤保博氏が，１点の石を文化課に持参された。その石は縄文時代の磨製石斧で，市内においてこの時期の石斧の出土例はほとんど知られていなかった。また石斧には，採集された地点および年月日も注記してあることから，出土地点のわかる良好な資料で，総社市の遺跡のあり方を考える上で貴重な資料になり得ると考えられた。そのため，採集された槁の井田静一氏に，加藤氏を介して寄贈のお願いをしたところ，快く承諾して下さった。

後日，井田静一氏にお願いし，採集地点を案内していただいた。採集地は総社市の北西部，賀陽町との境に近い山間部に位置し，標高約440ｍを測る。現況は谷筋を切り開いた棚田となっており，磨製石斧は，棚田を切り開く際に切断された東側山裾崖面の上面から約１ｍ下がった付近で採集されたとのことであった。関連する他の遺物が存在する可能性もあることから，採集地点周辺の切り土面やその下に位置する水田面など精査したが，土器片など他の遺物を発見することは出来なかった。また，切り土面からは，包含層や遺構らしきものも確認できなかったことから，伐採作業時等に紛失した可能性が高く，単独で遺存していたものと思われる。しかしながら，磨製石斧の性格から集落から遠く離れた地点で使用されていたとは考えにくく，近隣に集落が存在したものと推定される。



第106図　採集地位置図（Ｓ＝1/5,000）

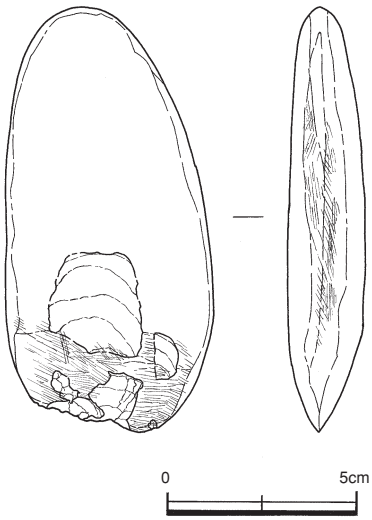
採集された石斧は，流紋岩製註で，長さ11.3cm，幅5.5cm，厚さ2.0cmを測る。刃部は使用時に破損したものと思われるが，欠損後再度研磨し刃部を作出している。そのため現状では，長軸に対し刃部は直行せずやや斜めになる。刃部付近は再生時における横方向の粗い研磨痕がみられ，研磨が及ばず一部欠損時の剥離痕が残存する箇所もあるが，それ以外は精緻な研磨が施され，製作時には非常に丁寧に作られたものと考えられる。なお側面には，研磨によりゆるやかな稜が形成されている。

以上，採集された磨製石斧は，市内北西山間部における縄文遺跡の存在を新たに知らしめるとともに，当時の遺跡の分布および平野部の遺跡との有機的な関係を考える上で重要な資料といえよう。

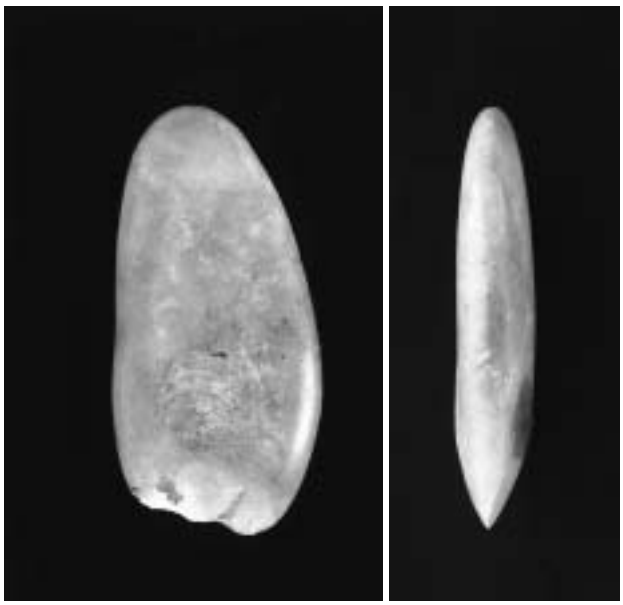
末筆ながら，貴重な資料をご寄贈くださいました井田静一氏および仲介の労をとってくださいました加藤保博氏に心より感謝の意を表します。

（平井）

註　倉敷市立自然史博物館　武智泰史氏の教示による



第107図　石斧実測図（S＝1/2）



第108図版　石斧平面，側面

第109図版　石斧採集地点（南西から）

第110図版　石斧採集地点遠景（南から）

３．発掘調査の概要

平成14・15年度　東総社中原本線改良事業に伴う発掘調査

遺 跡 名　延東遺跡，延西遺跡，三須中所遺跡

調査期間　平成14年11月26日～平成16年３月31日

調査面積　2,000㎡

調査概要

（調査経緯）

平成10年度からの継続事業である東総社中原本線改良事業に伴う発掘調査は，平成15年度をもって完了した。調査は，平成14年11月より開始したが年度をまたいでの調査であったことから，平成15年度の調査分とあわせてここに概要を報告する。

調査区は，大きく４地区である。工事の進捗あるいは土地の買収状況により，幾度かの小調査区をまたいで実施している。

延西遺跡地区

現況の土地畦畔あるいは工事状況により，１～６区にわたり順次調査を行った。

１区の西側に接して農道と用排水路があり，その西側に５・６区，さらにその西側が平成13年度調査の井手・袋ノ内遺跡である。また１区から東側へは小用水路や畦畔により順次２～４区となり，西端の市道で区切っている。そして市道の東側が延東遺跡地区の７区である。

現況が水田であり，これまで北西より大きく旧河道が南西方向へ存在しているものと推定されていた地区である。しかしこの調査によって，狭い範囲ではあるが，集落居住区が発見された。

真壁・井手地区

平成13年度調査の真壁遺跡出之向地区の東側，市道を挟んだ地点に１調査区を置く。これより東は平成13年度の試掘トレンチにより現井手川に向かって低湿地が広がっていることや，地割りに明瞭な段が南東方向に認められ，この低い部分がかつてのザブ田であったということから，一部トレンチを設定したほかは工事工程内での立会対応とした。

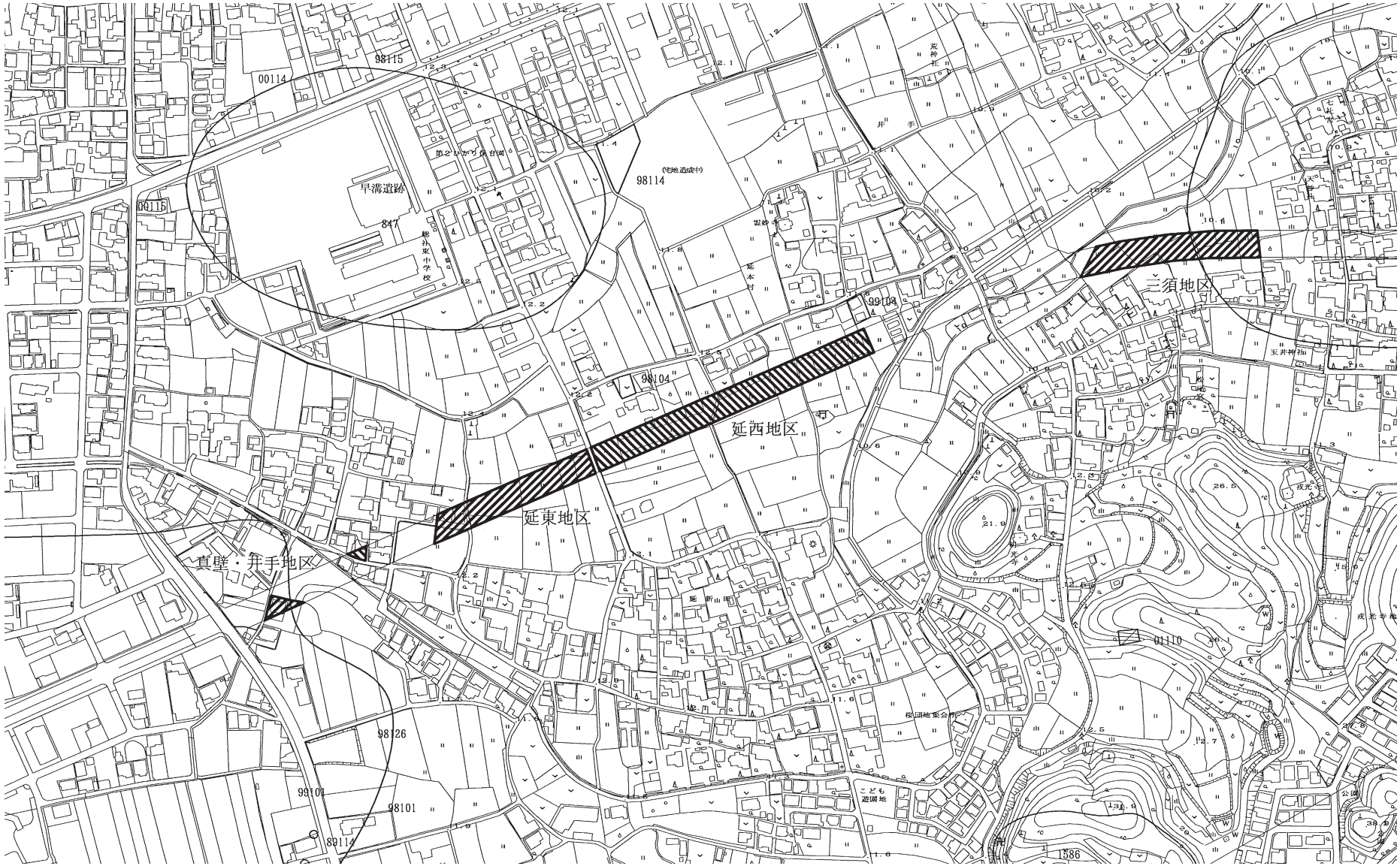
また，井手川の北側に広がる井手・袋ノ内遺跡のうち，買収の関係で調査ができていなかった１調査区を調査した。この調査区の状況から，南の市道を挟んだ井手川との間については地形の下降が予測されることから工事立会とした。

延東遺跡地区

延西遺跡の東端調査区（６区）と市道を挟んで７区を設定し，順次東に向かって８～10区と農道・畦畔・小水路による小調査区割りを行なった。途中９区においては地形的に低かったことから試掘トレンチを設定し，遺構の検出状況をみて一部拡張という方式を取った。10区より東は礫層がすぐに認められ，井手川にも接近しているおり一部トレンチを設定したが遺構・遺物は認められなかったため調査区を設定していない。

三須地区

延東遺跡10区の東側，井手川を挟み，平成13年度調査の中所遺跡２区までの間に，１～５区の調査区を設定した。東に高く，西に低い地形であり，井手川のすぐ東側は現況の水田自体が強湿田であり，試掘トレンチにおいても低湿地となる状況であった。この部分は降雨が多い場合すぐに冠水する範囲であり，その東側に認められる段丘状の高まりより東側が三須中所遺跡になる。



第111図　調査地位置図（S＝1/10,000）

（遺構・遺物）

延西遺跡地区

１区は居住区域であり，竪穴住居が18軒のほか，数多くの土坑が検出された。住居は円形のものと方形のものとがあり，カマド付きの住居が多く検出された。また，住居の掘り込みが浅く，カマドのみの検出も認められることから，土坑の中には住居の主柱穴が多く含まれているものと推測される。

第112図版　延西遺跡１～４区全景

２～４区へは遺構の密度が低くなるとともに，本遺跡の北側にある早溝遺跡との境と推測される旧河道的な溝群が北西から南東に向かって検出された。溝群のほかには弥生前期の土器を出土した土坑などがわずかながら検出されている。

５・６区は１区の西側，農道と用排水路を挟んだ位置になる。この調査区は西側が井手・袋ノ内遺跡となり，延西遺跡との境を示すかのように旧河道が存在していた。この河道内からは弥生土器を含むものの，須恵器の完形品が出土しており，古墳時代に埋まったものと推測される。埋没後には中世のピット群がわずかに検出されたほかは，近世の土壙墓群が形成されており，一時期墓地として利用され，その後畑地・水田へとなったものである。

真壁・井手地区

真壁地区は，平成13年度の調査区の東側になるものの，地形的には大きく下降していた。水田の畦畔のほか，おそらく集落はずれに該当するカマド付き竪穴住居が１軒検出された。この調査区より東側は，更に地形は下降し，現井手川の低湿地になっていく。

井手地区は，平成13年度調査区の西側にあたる。現井手川に接近しており，その地形的な下がりが検出されたほかは，近世の水溜め遺構などがわずかに検出されたにすぎない。

延東遺跡地区

西側と東側に礫層が露呈し，中央はやや低い地形である。東側の７・８区では，延西遺跡６区からの溝群が検出されたほか，礫層を掘り込んだ２条の溝が平行しており，道路の側溝の可能性がある。この側溝は幅２・深さ0.8m。また，礫層をはずしたシルト層で４×７間の小柱穴による掘立柱建物２軒が東西に平行して検出された。SB801の規模は8.3×14.8mで，SB802が（8.7）×13.2mである。遺構に伴う遺物の出土は少なく，弥生期の溝，古代にさかのぼるかもしれない側溝，中世の建物群と推測されることから居住は中世以降となろうか。

第113図版　延東遺跡掘立柱建物群

９区は柵列ないし掘立柱建物が２軒のほかは，ピットが少し検出されたのみである。10区は９区との間に旧河道ないし溝状の落ち込み状があり，その北東に礫層が大きく露呈している。礫層を掘り込んだ直径１×深さ１mを越える土坑

や溝が検出された。

三須地区

東に高く，西に低い地形であり，現地形で３つの段差が認められる。西側の最下段は低湿地であった。中央の中段は竪穴住居１軒のほか，土壙墓や数多くの柱穴群が検出され，柱材が残っていた柱穴もある。東側の上段は礫層が大きく露呈しており，あまり遺構は検出されていない。竪穴住居と土坑と，礫層を掘削した南北溝である。上段の東端には用排水路があり，この溝の東側，平成13年度調査の中所２区内に，三須知行所跡が推定されている。この用排水路の古い掘り込みが認められたが，近世前期までさかのぼるかどうかは不明。

第114図版　中所遺跡，大溝と遺物出土状況

（まとめ）

延西遺跡は，今回の調査により新たに発見された遺跡である。調査の結果，西に大溝，北西から南西に溝群，南に現井手川と，狭い範囲に居住した弥生から古墳時代の遺跡であることが判明した。

真壁遺跡出之向地区は，現井手川に向かって下降しており，その縁辺に住居から水田へと移った土地利用の変化がとらえられた。

井手・袋ノ内遺跡は，本線道路内を南東端として，北西方向に遺跡が広がっているものであろう。

延東遺跡は，竪穴住居は検出されず，掘立柱建物や道路の側溝など中世の建物群のほかは，居住区以外の土地利用の状況がうかがえる。

三須中所遺跡は，竪穴住居が２軒のほかは柱穴群と土壙墓，そして大溝～溝である。礫層の露呈している部分には居住区の利用は認められない。

出土遺物に関しては，その洗浄を現地調査内で実施したにすぎない。しかしながら，延西遺跡では弥生前期の土器がかなり出土しており，真壁遺跡以外にも弥生前期の集落が形成されていたという状況がわかった。

また，新聞で報道されたように，三須中所遺跡より「賀夜」をはじめとした墨書土器が出土している。出土したのは，三須地区調査区の中ほどの，地形的には下段の低湿地帯に落ちてゆく，中段との境目であり，地形に沿って南西から北東へ流れる大溝（幅約３・深さ約1.5m）である。おそらく下段の低湿地帯全体がかつての井手川であり，その流路変更や流路埋没の過程の中でこの大溝が形成されたのではないだろうか。この大溝の出土遺物については以下に報告する。　（前角）

「賀夜」等の墨書を出土した大溝の遺物について

今回の発掘調査で出土した土器の種類には須恵器と土師器があり，その用途でみると大半が供膳具で煮炊具や貯蔵具は非常に少ない。その供膳具のなかでも土師器と須恵器の比率は２：１で土師器が主体を占めるのが特徴である。

須恵器の供膳具（第115図）には坏B・皿B蓋（１～８），坏B（９～18），皿B（19），坏A（20～38），皿A（39～45）があり，この他に文房具として円面硯（46）がある。

坏Bは口径で大小に大別され，さらに大型（９～10）のものは器高で法量が分かれるが，小型（12～18）のものには明確な法量分化はみられない。

坏Aは形態の特徴でみると新旧の型式差と捉えられる体部に未だ丸みを帯びる一群と，箱形のものが供伴しているが，底部は（29）以外は何れもヘラ切りである。（29）は底部の外周をヘラで切り離した後に中央部に押圧を加える「底部押圧技法」で成形されており，前段階からの古相の器形である「椀形坏」の系譜に上記の技法がみられる初現の須恵器資料として注目される。

皿Aは形態で大別すると，底部が平坦ではなく外反する口縁部のもの（39～43）と，平坦な底部で口縁部が直線的に屈曲するもの（44・45）があり，前者がより古相とみられる。また，その中にも底部が全面ヘラ切り未調整のもの（39），「底部押圧技法」にヘラ削りを加えたもの（41・42），ヘラ削りを省略したもの（40・43）があり，技法的に過渡期的な様相を呈している。

土師器供膳具（第116・117図）の器形の種類としては，坏B蓋（47），坏B（48～54），坏A（55～98），皿A（99～118），高杯（119），鉢（120・121）がある。

坏Ｂは未だ椀形態の段階にはなく，須恵器の代替品的な直線的な形態を呈し，口径の大小と深さで法量分化がみられるが，（50）のみは在地産ながらも口縁部の形態や，体部にヘラ削りを加えた後に分割したミガキを施す点に８世紀末葉の畿内の土師器坏Bの影響がみられる。

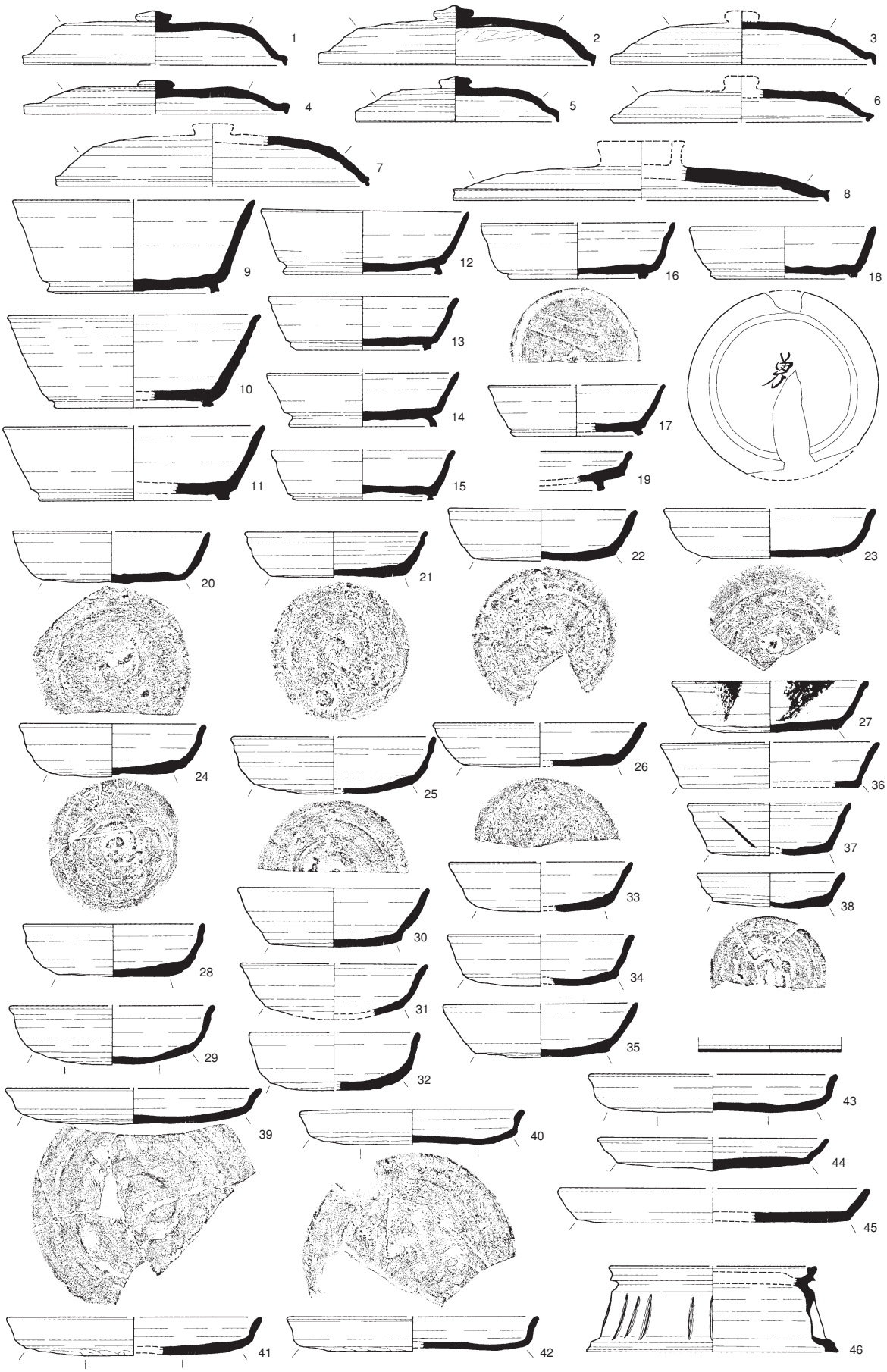
坏Aは口径で大小に大別できるが，その形態と細かいヘラ削り等の古相を呈する（59・73）以外は全て「底部押圧技法」で成形されている。さらに調整技法や口縁部の形態で細分すると，口縁端部が肥厚し内面に凹線が巡るものや，「底部押圧技法」で成形された後に底部にヘラ削りを加えるものがより古相であるとみられるが，その差異は形態や法量に影響がみられないことから，連続した短い時期幅内での調整や形態の省略化と理解したい。

また土師器坏（94・98）は須恵器坏（29）と非常に形態・成形技法が類似しており，須恵器生産の減退に呼応した新たな生産体制の成形技法「底部押圧技法」が，須恵器・土師器に同時に採用されている点は，その出現背景を考えるうえで重要な資料である。皿Aは口径により大小に大別できるが，その分化はあまり明確ではなく，ヘラ削りが加えられたものもあるが全て「底部押圧技法」で成形されている。高杯は図示した短脚のものの他に六角形に面取りした長脚の細片も存在する。

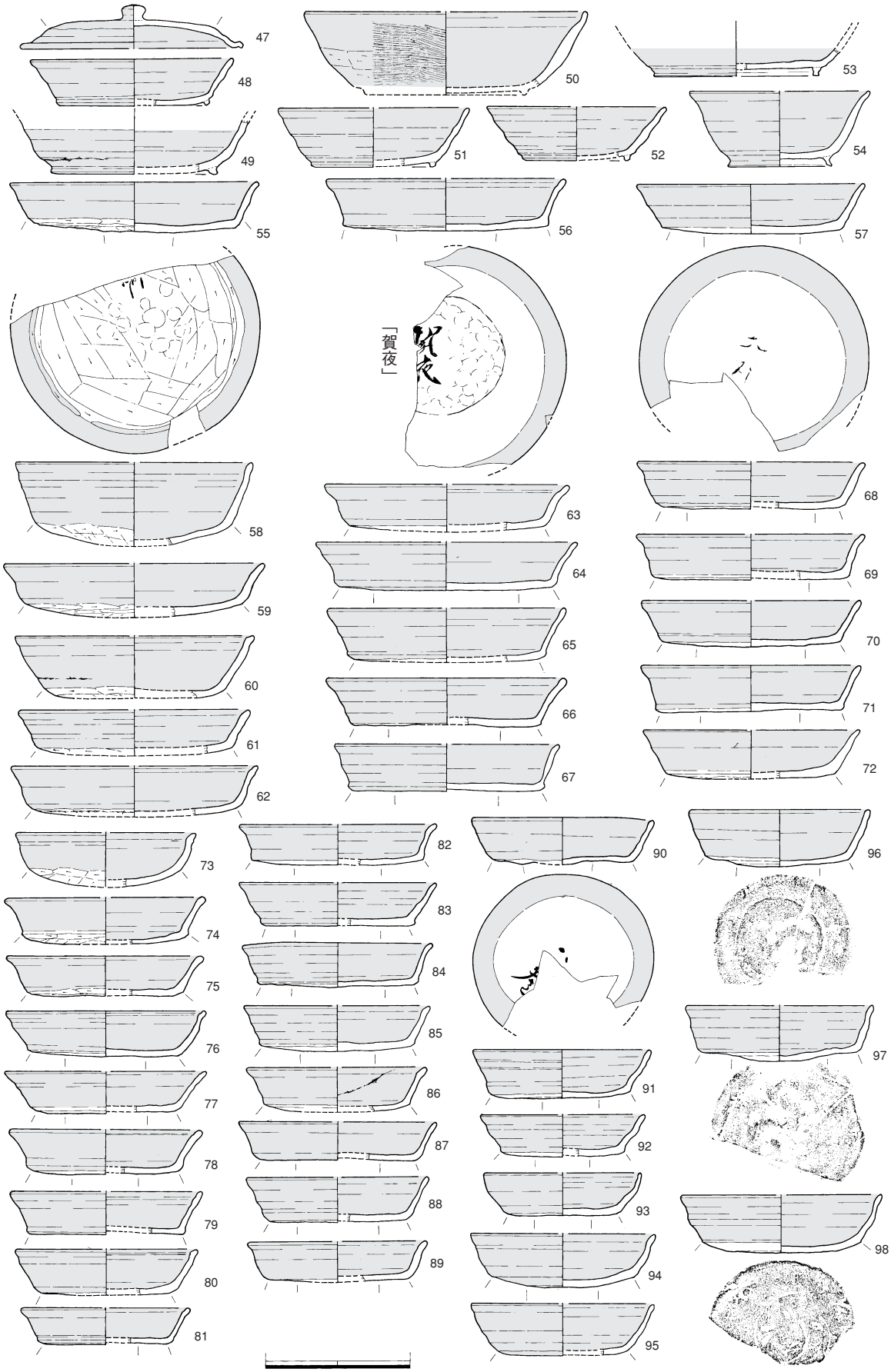
煮炊具では，図示した甕の他に２個体分の移動式竈や甑の破片が存在するが，供膳具に比べてその個体数は非常に少ないのがこの土器群の特徴である。

須恵器貯蔵具も個体数は非常に少なく，甕３個体と壺３個体のみである。図示した壺（125）の体部には湿台（シッタ）の痕跡とみられる粘土が付着している。

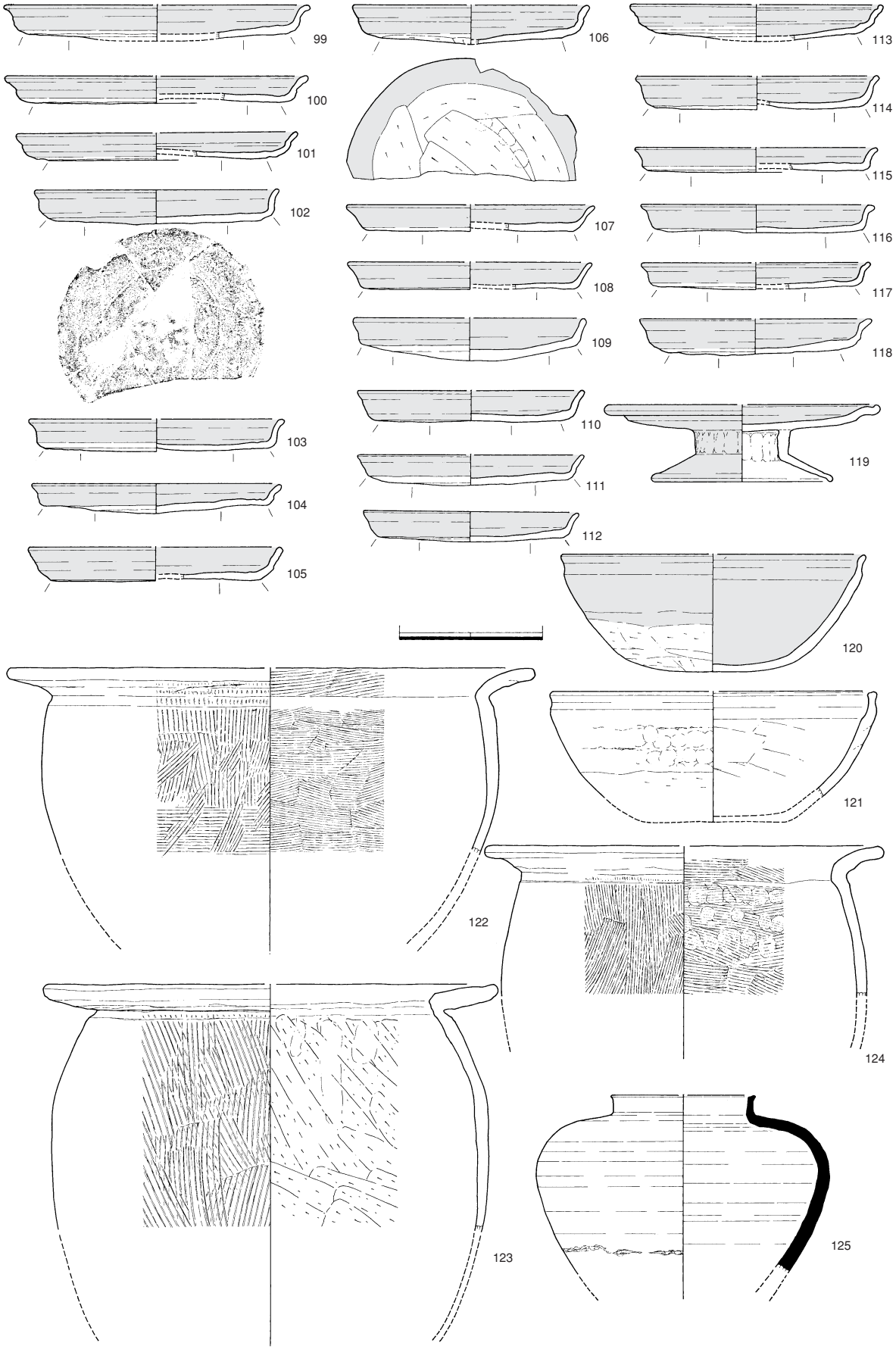
以上の土器群の時期的な位置付けとして，先ず８世紀末葉と考えられる岡山市高塚遺跡の河道－９の資料と比較すると，個体数が多く法量と形態が明確に比較できる須恵器の坏Aでみると，口径に対する底径の比率がまだ大きく，体部が丸く立ち上がり器高が低いものが主体を占める点でより古相の



第115図　出土遺物（１）（Ｓ＝1/4）



第116図　出土遺物（２）（Ｓ＝1/4）



第117図　出土遺物（３）（Ｓ＝1/4）

ものが多い。皿Aも口縁部が外反して屈曲するものが大半で，「く」字状に屈曲するものがまだ少ない点をやはり古相と見なすことができる。

また，土師器坏Aも「底部押圧技法」で成形されるものが主体を占めるが，底部のヘラ削りがまだ一部に残り，口径と底径の比率の点や口縁端部の形状でやはり古相を示す。

以上の点から土器群全体をみると，個々の土器の示す過渡的な新旧の要素からある程度の時期幅を考慮する必要があると考えられ，その場合，現時点の知見からみて8世紀第4四半期の長岡京期直前にその存続時期幅の中心を置くことが妥当と思われる。

最後にこの土器群の性格について考察を加えてまとめに代えたい。先ず，土器の種類の組成でみると供膳具では量的に土師器と須恵器の比率が2：1であることは前述したが，元来，須恵器生産が低調な備中では8世紀後半にこの傾向がより顕著になり，9世紀初頭には須恵器生産がほぼ終息する。

同時に「底部押圧技法」で成形された土師器の坏・皿が供膳具の主体を占める訳であるが，本遺跡中の須恵器・土師器坏Aに共通してこの技法が認められ，同技法で成形された土師器の坏・皿に前段階の調整技法のヘラ削りが未だ残る点は，この土器群が同技法の初現資料であることを示している。

この「底部押圧技法」で成形された供膳具の出現契機と背景は，律令体制の変質に伴う官的な体制下の須恵器生産の減退と，それに対応する土師器供膳具の増加という古代後期の西日本の大半の地域に共通する現象の中で理解されるが，特に備中と備前西部に於いては早い段階から顕著である。

次に器形の組成から土器群の性格を検討する。8世紀末葉の当地域の土器資料で，出土した遺跡の性格を遺構から官衙等に限定できるものはなく比較検討することは難しいが，官衙遺跡特有の器の法量分化の点では，8世紀後半から次第に不明瞭になる傾向があるものの，本遺跡の資料には須恵器・土師器の何れにも未だ認められる。また，皿類がやはり須恵器・土師器共に多い他，土師器の坏B，高杯，鉢が一定量存在する点や，円面硯と10個体以上の転用硯や墨書土器の存在も認められる。

さらに備中では，官衙遺跡に限定してみられる備前産の上質な須恵器の存在も加味するならば，何れの段階かは不明ながら，官衙特有の土器様相の要素は十分に認められると思われる。

次に「賀夜」と墨書された土器が，隣接する窪屋郡域の本遺跡から出土した意義について考えてみたい。墨書された土師器坏はそれ自体が特別上等な製品ではなく，その特徴からは賀夜郡産のものかは判断できないが，郡名を墨書した土器の他の出土例を検討すると，その土器が郡衙の調理場である「厨屋」の備品の場合が多く，本例は賀夜郡衙の備品が窪屋郡の官衙に搬入された可能性が高い。

同様に近接する郡名の墨書土器が出土した例を挙げると，御子ケ谷遺跡（駿河国志太郡衙）から「益厨」（駿河国益頭郡衙），郡遺跡（駿河国益頭郡衙）から「安厨」（駿河国安部郡衙），吉野ケ里遺跡（肥前国神崎郡衙）から「養父」（肥前国養父郡）があり，いずれも郡衙から出土している。このように他の郡衙から食器が搬入された背景には，他の郡からの臨時の援助を必要とする大規模な給食があったことが想定され，その場合，律令体制下の身分秩序に於いて郡司層よりも上級の国司や往来伝使に対する饗宴であった可能性も考慮すべきと思われる。

以上の想定される事象と，この土器群が出土した大溝が微高地を開削した人為的な溝である点，さらに東に約500m離れた三須河原遺跡で「郡殿」墨書土器が出土し8世紀前半の窪屋郡衙が想定されていることも併せて考えるならば，大溝の南側に当該期の窪屋郡衙が存在する可能性が非常に高い。従って予想される道路開通後の周辺の開発に対して，十分な注意が必要な地域であると考える。（武田）

参考文献　山中敏史『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房　1993

鬼ノ城　角楼から西門周辺の発掘調査

所 在 地　奥坂1762－14ほか３筆

調査期間　平成15年４月14日～８月６日，平成16年２月～３月

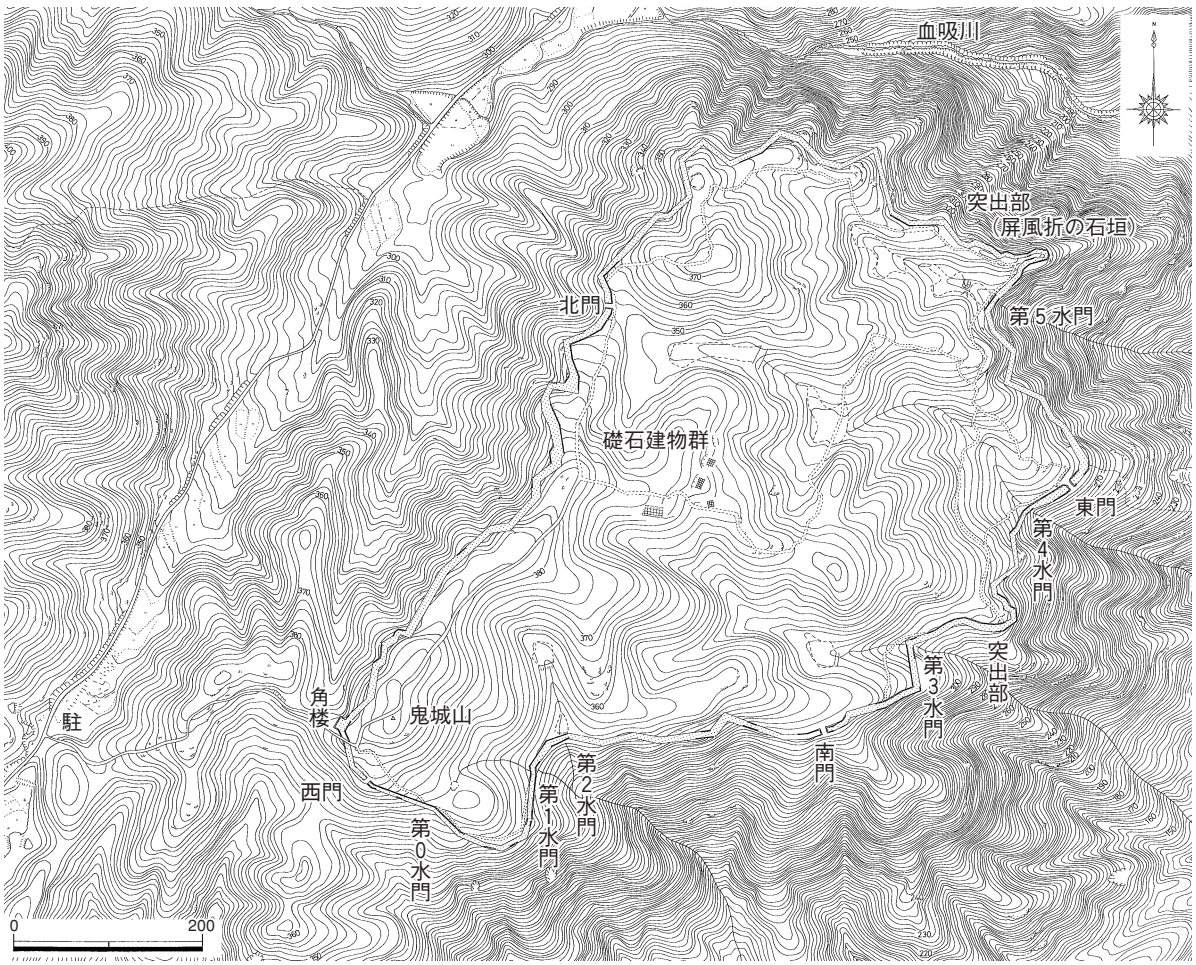
調査面積　約800㎡

１．はじめに

鬼ノ城の史跡整備事業は平成13年度から平成16年度の４ヶ年を第１期整備事業と位置付け，整備の対象となる角楼から第０水門周辺までを復元整備地区に設定している。整備事業に先行して平成14年度には高石垣から第０水門までの城壁上面に堆積している流土を全て撤去し，版築盛土からなる遺構面などを検出した。調査記録の作成後に整備事業へと移行し，石垣の一部解体と積み直しの後，第０水門周辺の城壁に版築土塁が復元されることになった。

しかし，復元整備地区の全体を俯瞰すると城壁上には流土がかなり残されており，整備工事へと移行するには速やかに流土を撤去する必要が生じた。こうした事態を踏まえ平成14年11月８日に開催された第17回鬼城山整備委員会では，作業仮設道を除く角楼から高石垣までに堆積している流土を除去し，未解明部分の遺構を検出することなどが決定した。

また，復元整備地区の北端の取り付きが決定していないので，角楼の北東側を中心に調査を追加し，

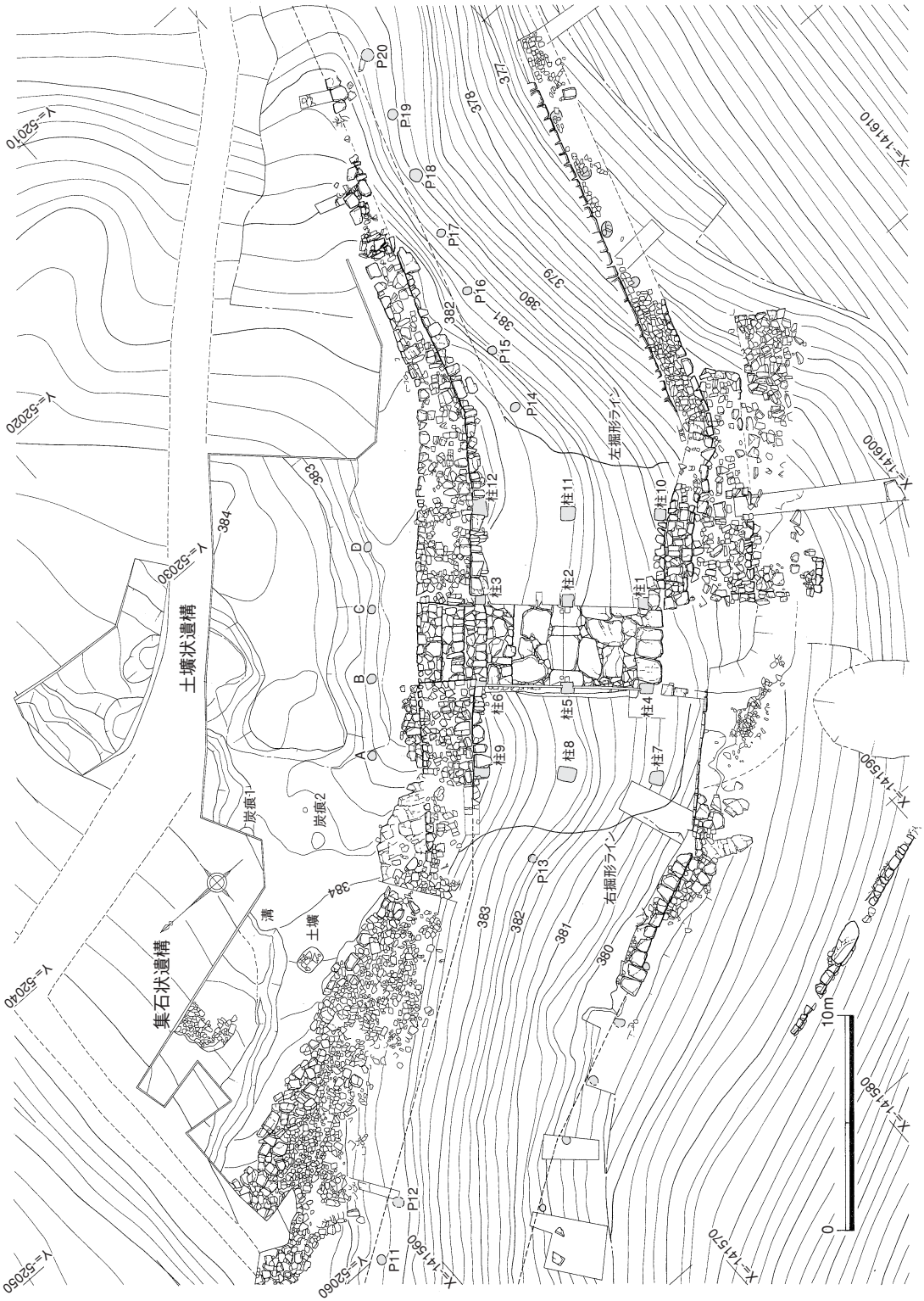


第118図　鬼ノ城平面図（Ｓ＝1/8,000）

第119図　角楼平面図（S＝1/200）

整備工事に備えることにした。

こうした整備に伴う事前の発掘調査は，御多忙のなか岡山県古代吉備文化財センターの調査員派遣を仰ぎつつ実施し，調査を平成15年４月14日から開始し８月６日に終了した。一方，角楼の表示整備を実施するため，劣化やズレの著しい石垣は一部解体と積み直しを行い，立会調査を平成16年２月から３月にかけて実施している。



第120図　西門平面図（S＝1/300）

2．角楼跡の発掘調査

角楼跡の発掘調査は角楼から北東部分の城壁部分，おおむね凸字形の突出部分より東側の約100㎡を対象に実施した。調査地は傾斜勾配が約26°を測る急峻な斜面であり，城壁推定線上の斜面上位には岩盤が露頭し，城外側にも多数の転石が認められるなど，城壁そのものは既に崩壊流出していると予想された。

発掘調査の結果，残存良好とは言えないが城壁関連の遺構を検出した。調査はまず城壁前面の岩盤上に石列を，ついで傾斜変換線付近には内側柱穴を２本（Ｐ１・Ｐ２）検出した。また内側柱穴より城内側には角楼の石段から連続する捨石の延長を確認すると同時に，内側敷石の残石が石段へと取り付く状況も認められた。

３．角楼石垣の一部解体に伴う立会調査

平成15年度は西門の建築工事と共に角楼の表示整備を実施した。角楼突出部の石垣は築石にアプライトを使用し，経年変化による石材の劣化から割れやズレが生じていた。そのため石垣を復元する際，積み直しの不必要な箇所は現状のままとし，問題のある築石については新たに築く石垣の崩壊を誘因しないよう一度取り外し，必要な保護処置を施した後に再び原位置へ復した。

４．西門跡ほかの発掘調査

発掘調査は角楼から西門周辺までの城壁線を主体として，約470㎡を対象に実施した。西門は平成８・10 年度と二次にわたる発掘調査を実施し，その全容が明らかになったが，調査後は遺構の保護処置を施した後に仮設の門柱を建て，門道の両壁には板塀を設置するなど門の規模が視覚的にわかりやすいように仮整備を実施していた。しかし今回の復元整備では，流土や覆土の撤去は必至であることから，これらを除去すると共に，西門の仮設柱なども解体することになった。

検出した版築遺構面では，西門の築造を示す大規模な掘形と，新たに柱８の北側で内側柱穴（P13）を１本検出した事が成果として挙げられる。また，平成15年度の西門復元建築工事に伴い計12本の門柱へ柱立てをする必要があるため各柱痕を完掘した。これらの作業に伴いコンテナ箱１箱に満たない遺物が出土している。

なお，平成15年度の発掘調査の詳細については，平成13・14・15年度を含む３ヶ年の調査報告を現在作成中である。

（松尾）

第121図版　角楼Ｐ１･Ｐ２と捨石（南西から）

第122図版　角楼Ｐ１・Ｐ２（北西から）

第123図版　西門右掘形ライン（南西から）

第124図版　西門左掘形ライン（南西から）

駅南区画整理事業に伴う発掘調査

遺 跡 名　真壁遺跡群

所 在 地　総社市三輪・真壁地内

調査期間　2003年４月30日～2004年４月24日

調査面積　約5,000㎡

調査概要

（調査経緯）

総社駅南部地域を対象とする区画整理事業に伴う2003年度の発掘調査は，例年と同じく，工事工程に合わせながらの調査となったため，地点を変えながら，複雑な調査工程となった。

はじめに荒神ケ市遺跡Ⅱ区，次いで御野代遺跡，区画道６号進入路Ⅲ区，石原遺跡Ⅴ区，下川田遺跡Ⅰ・Ⅱ区，惣善寺遺跡，最後に荒神ケ市遺跡Ⅲ区の順で調査を行った。

（調査概要）

荒神ケ市遺跡Ⅱ区（１）

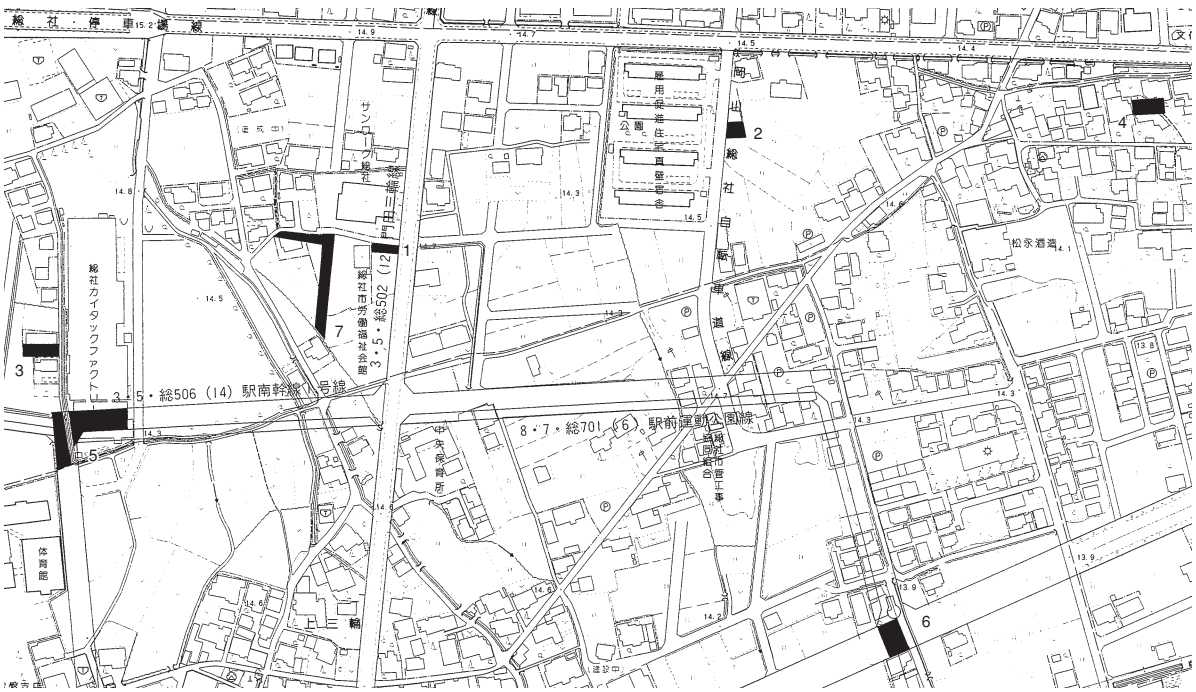
微高地の端部付近に位置していると推定され，調査地の東半は微高地が高く，西半は下がっており包含層が堆積していた。中世の柱穴が検出された。

御野代遺跡（２）

昨年度区画道32号線として調査した地点の西側の家屋の移転跡地を調査した。微高地上に立地しており，古代と推定される建物１のほか溝状の遺構や柱穴等が検出された。中でも須恵器蓋付椀が一組完形で素掘りの穴から出土しており，何らかの埋納遺構と推定されるが，骨片や炭化物等は人れられていなかった。

区画道６号進入路Ⅲ区（３）

2001・2002年度の調査区の東側に位置している。Ⅰ・Ⅱ区と同様に柱穴・溝等が多数切りあって検



第125図　調査地位置図（Ｓ＝1/10,000）

出されたが，次第に遺構の密度は低くなってきている。井戸と推定される直径約２m，深さ約1.1mの土壙も検出された。

石原遺跡Ｖ区（４）

溝状の遺構３，近・現代と推定される井戸１のほか近世の墓が検出され，備前焼甕・寛永通宝等が出土した。溝状の遺構も形成された時期は中世以降と推定される。

下川田遺跡（５）

上下２つの遺構面が認められた。検出された遺構は，柱穴約300，溝１，溝状遺構１，土壙12であった。10世紀頃と推定される鉢と壺が並んで出土しており，掘り方は検出されなかったが，墓の可能性もある。

惣善寺遺跡（６）

本調査地西側の隣接地は1994・1995年度に調査されており，主として包含層から縄文時代晩期前半の土器とサヌカイト製の石器・剥片等が出土している。今回の調査でも同様の状況が認められ，柱穴約350，土壙28，溝状遺構27等が検出され，縄文時代晩期の土器が多く出土した。また縄文土器の分布の中央付近に80×65×12cmを測る台石状の花崗岩があり，集落内で共同利用されていた可能性が考えられる。（高橋）

荒神ケ市Ⅲ区（７）

調査区は，区画道路第46号線と第17号線にまたがり，Ｌ字形を呈する。調査区のほとんどは微高地上にあたり，南端付近では微高地の下がりが確認された。この微高地は，西側に流れる用水路から西に地形が下がっていることから，これまでの調査成果と併せ，北西から南東に延びる幅約300m前後の細長い自然堤防状のものと思われる。

検出された遺構は，古墳時代後半のものがほとんどで，住居址，土壙，ピット，溝などが確認された。住居址は東西方向の調査区で４軒，南北方向の調査区で２軒検出されたが，そのほとんどが床面に炉をもち，鉄滓や鉄器片が出土している。荒神ケ市遺跡１区でも同様の状況が認められ，土壙から大刀等も出土していることから，この微高地上には，鉄器製作工人の集団が組織され居住していたものと想定される。総社市の東部に位置する窪木薬師遺跡と同様のあり方を示し，吉備において鉄器製作が盛んに行なわれていたことがここでもうかがわれる。

なお，調査区内に住居へ侵入する仮設道を設けていたため，この部分を最後に調査したが，ここから弥生時代後期末の土器焼成土壙と考えられる遺構が出土した。調査のほとんどが2004年度に行なわれたことから，詳細は次年度の年報によって報告する。（平井）

第126図版　荒神ヶ市遺跡Ⅲ区

第127図版　荒神ヶ市遺跡Ⅲ区

し尿処理場（浄化園）増築に伴う発掘調査（１）

遺 跡 名　窪木薬師遺跡

所 在 地　総社市窪木薬師

調査期間　平成15（2003）年６月18日～10月７日

調査面積　1180㎡

調査概要

窪木薬師遺跡は，平成元年度に実施された前川下流域の土地改良総合整備事業に伴い実施された県教委による確認調査でその存在が明らかになり，引き続き平成２・３年度に行われた前川改修工事に伴う発掘調査で弥生～中世の濃密な遺構の存在が明らかになった。

特に５世紀前半から７世紀にかけての鉄器製作に関係した遺構・遺物が多数確認され，吉備中枢の拠点的な鉄器生産集落と評価されている。[註]

総社圏域環境衛生事業組合により運営される浄化園は，総社市と真備町・山手村・清音村から排出される全てのし尿を処理する施設であるが，昭和40年代に建設された施設のため老朽化が著しく，早急な建て替えが懸案として検討されてきた。

この建て替え計画では，施設は移転させずに隣接地を買収して増築する予定になっていたが，既存の施設が立地する地点は，県教委の調査で明らかになった窪木薬師遺跡に近接し同じ微高地上である

第128図　平成15年度調査区位置図（Ｓ＝1/2,000）

第129図　窪木薬師遺跡遺構配置図（S＝1/200）

ため，埋蔵文化財の存在が確実視されており，建設工事にあたっては事前の発掘調査が必要である点も認識されてきた。しかしながら施設の性格上，地元との調整等が難航し平成14年度の中頃になりようやく建設計画が具体化し，平成15年度より埋蔵文化財の調査に着手することが決定した。

このため平成15年３月に急遽，既存施設の東側の水田で確認調査を行うこととなり，文化財係長が重機で２本のトレンチを掘り下げて遺構の確認を行ったが，明確な遺構は存在しないとの結果を報告した。この結果を受けて市教委では担当事業課と協議を行ったが，確認調査では遺構は確認されていないが，県教委の調査成果や地形を考慮するならば遺構が存在する可能性は高く，事前の発掘調査は必要との見解を示し，総社圏域環境衛生事業組合の経費負担による調査を実施することとなった。

建設計画では，施設の建物建設は隣接する水田と既存の建物を撤去した約2300㎡に予定されており平成16年度に工事に着手する予定であるが，稼働中の建物の撤去や排土置き場等の都合から発掘調査は調査区を東西に分けて二ヵ年で行うこととなった。

平成15年度の発掘調査は，施設の東側水田の約1200㎡を対象として６月より開始し，重機で水田耕作土を除去した後に人力で遺構の検出を行なった。

遺構が検出される面は南東に下降気味で北西に若干上昇しており，その地形を反映して調査区の南半分は基盤層が砂質気味で南東隅では礫層が露頭している。

確認された遺構は，中世では調査区の北半分に13世紀後半代を中心とする多数の柱穴と土壙が存在し，建物配置の復元は未検討であるが，整地された灰塵処理用の土壙や柱穴の密度からみて拠点的な集落が継続して営まれたものと思われる。

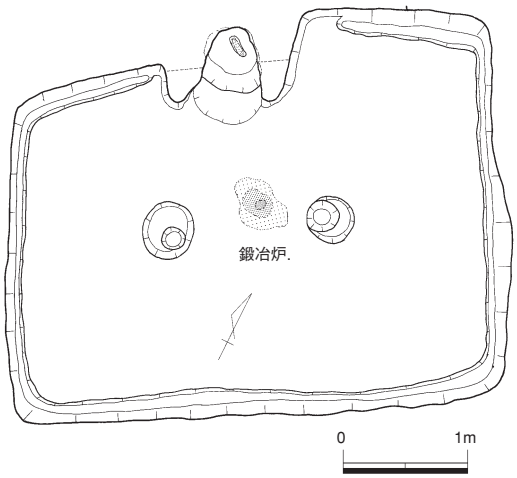
古代の遺構は藤原京期の畿内産土師器（第134図）が出土した土壙１基とと９世紀代の１棟のみで，包含層からの遺物の出土はみられるが総じて希薄である。

古墳時代の遺構は５世紀末葉から７世紀初頭の住居址６軒，鍛冶炉４基，土壙状炭窯３基，溝３条を調査した。住居址は全てにカマドが付設されており，５世紀末葉のSH04（第130図）は床面上に鍛冶炉が存在する。鍛冶炉は調査区中央の住居が掘られていない部分に４基が集中している他，土壙状炭窯に破壊されたものや，中世段階に削平され被熱痕跡だけが遺存した箇所もあり，本来は10基以上が存在したと考えられる。この事を裏付けるように住居址の床面上や鍛冶炉周辺だけでなく，調査区のほぼ全面から鉄滓が出土しており，同時期の遺構から採集した土を洗浄した結果，全ての遺構から鍛造剥片が出土した。

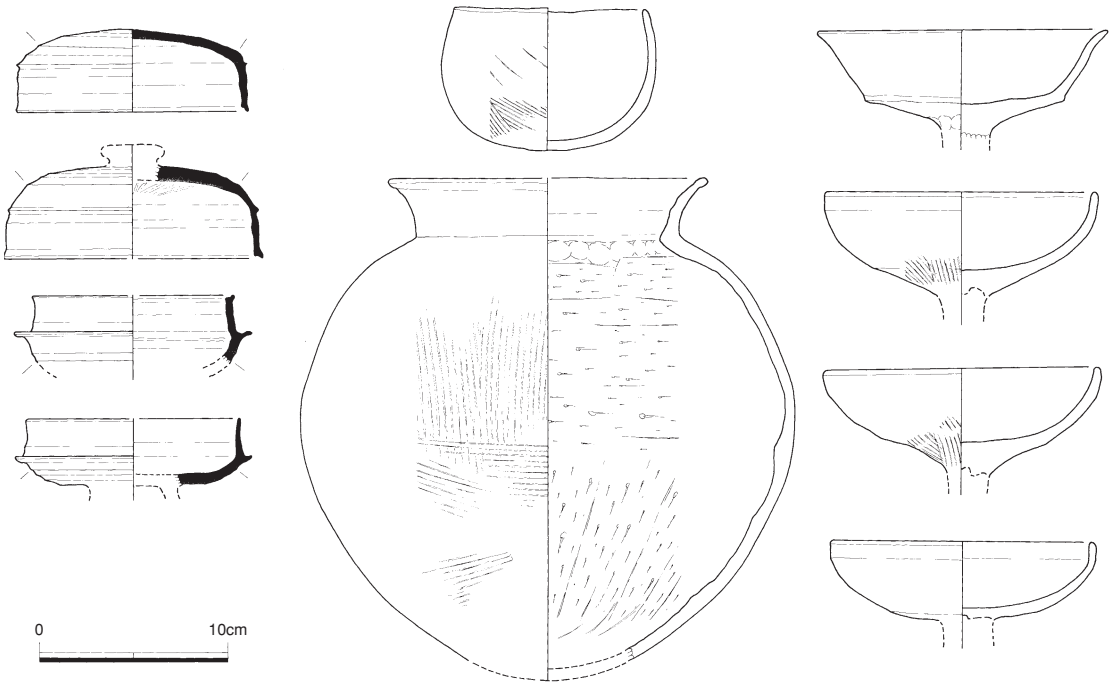
このような古墳時代の集落の在り方は，県教委の調査結果や，平成16年度に調査を実施し，より密度の濃い集落遺構が確認された西側の調査区とも符合しており，古墳時代の拠点的な鉄器製作集落という窪木薬師遺跡の性格と広がりをより明らかにすることができた。

発掘調査は７月に冷夏による悪天候により，しばしば調査区が水没したため予定より遅延したが，採集した土嚢袋約600の洗浄も含めて９月中に終了し，10月18日に現地説明会を開催した。　（武田）

註　島崎東他「窪木薬師遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』86　岡山県教育委員会　1993



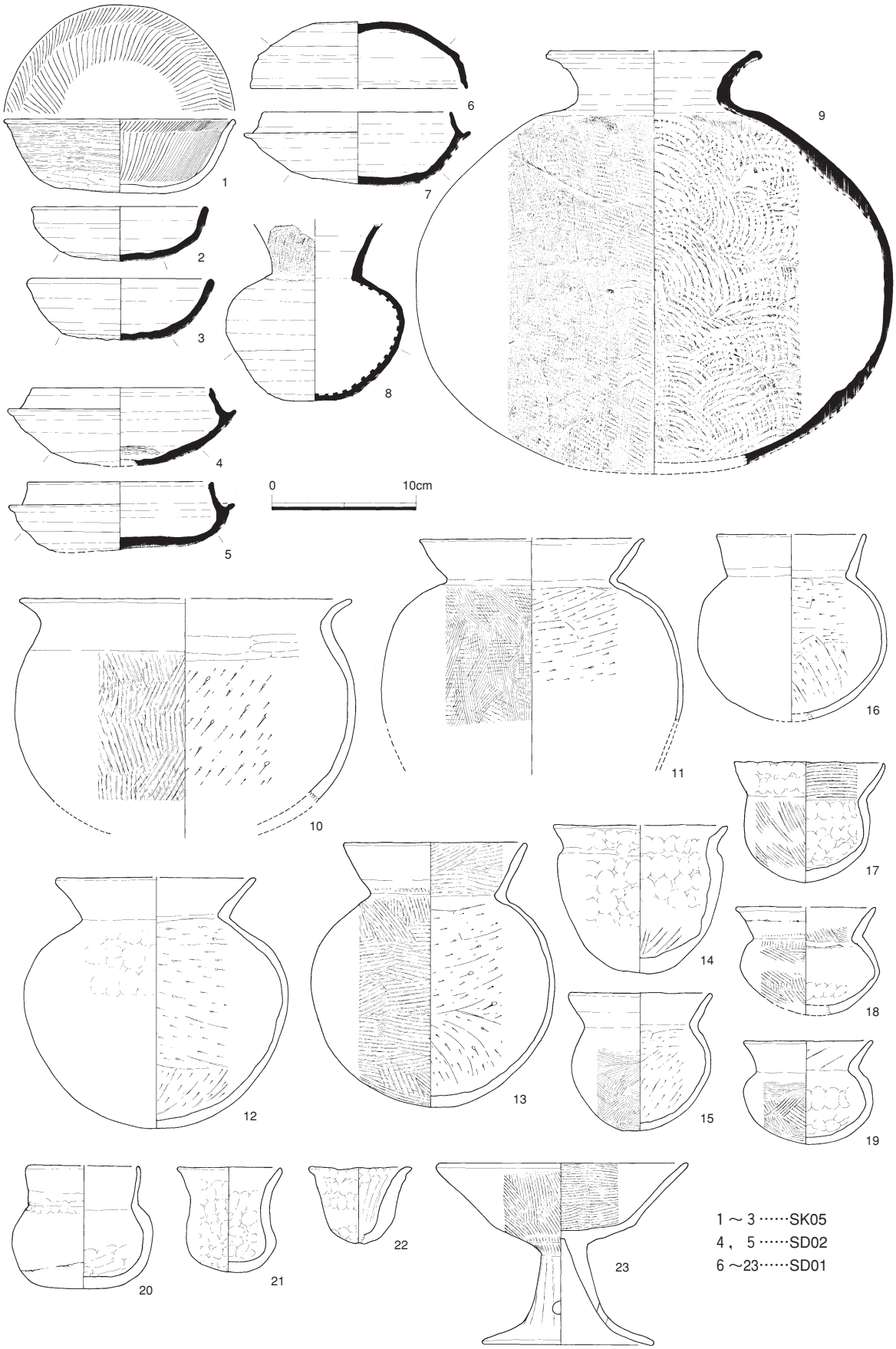
第130図　SH04平面図（S＝1/60）



第131図　SH04出土遺物（S＝1/4）

第132図版　調査区全景（東から）

第133図版　調査区遠景（東から）



第134図　出土遺物（S＝1/4）

マンション建設に伴う発掘調査概要

遺 跡 名　真壁遺跡

所 在 地　中央五丁目９－107

調査期間　平成15（2003）年８月19日～９月３日

調査面積　約500㎡

調査にいたる経緯

マンション建設予定地は，総社駅から東南約1.5kmの地点にあり，中央区画整理事業によって発見された真壁遺跡[註]の包蔵地内に立地する。当該地から南約500m付近に位置する三輪山には，弥生時代後期に築かれた多数の墳墓群と，100基を超える古墳が発見されており，このうち宮山墳丘墓は古墳の発生に密接に関連することから全国的にも著名である。これらの墳墓を築いた集団の母集落は，真壁遺跡を中心とした遺跡群と想定され，墳墓との有機的な関係を考える上で重要な遺跡と考えられる。

マンションの建設工事は，10階建てとなるため改良杭による補強が必要となり，径１mの杭を311本打つ予定となっていた。中央区画整理事業に伴う発掘調査によると，建設予定地付近では遺構密度は低くなってくるものの遺構が存在する可能性は極めて高く，杭打ちにより破壊されることが危惧された。そのため試掘調査を行い，遺構が確認された場合は発掘調査を実施することとした。

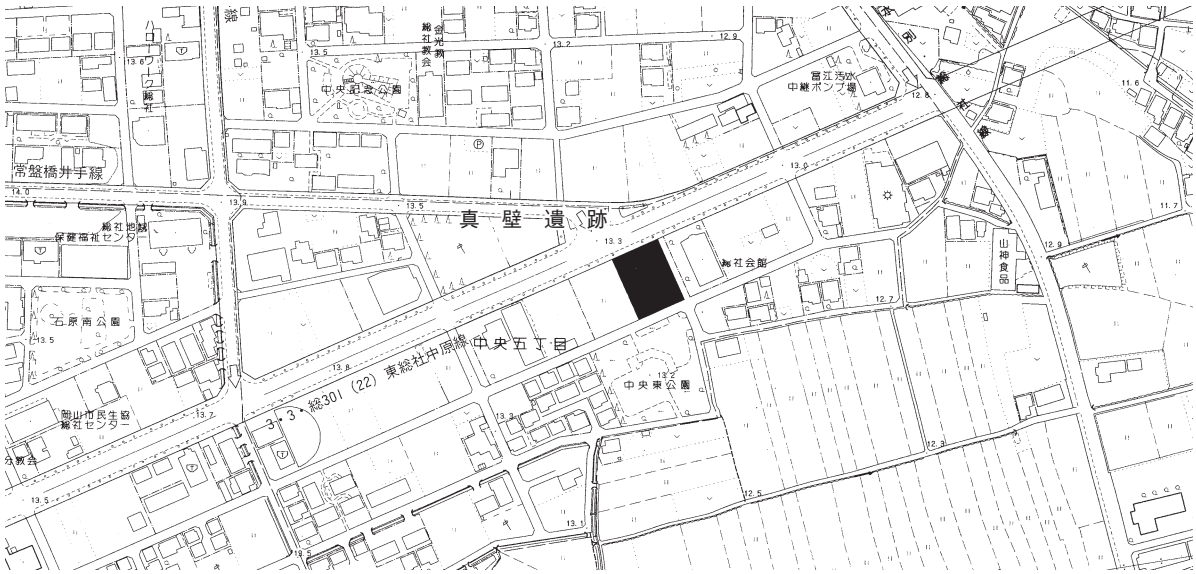
８月19日，重機を用いて試掘調査を行い，その結果遺構の存在が明らかになったため，引き続き客土を除去し，翌日から発掘調査に入った。

調査概要

調査の結果遺構密度は高くないが，客土直下に厚く堆積した灰茶褐色土上面で，弥生～古墳時代の遺構が検出された。検出された遺構は竪穴住居址１軒と，土壙，柱穴，溝等である。

竪穴住居は一辺５m×4.2mの方形を呈するもので，４本柱によって構成されている。遺存状況は極めて良好で，検出面から床面まで深さ70cmを測る。住居址覆土中からは古墳時代初頭の土器が出土している。

土壙は，弥生時代中期・後期，古墳時代初頭のものが認められるが，総じて遺物は少ない。



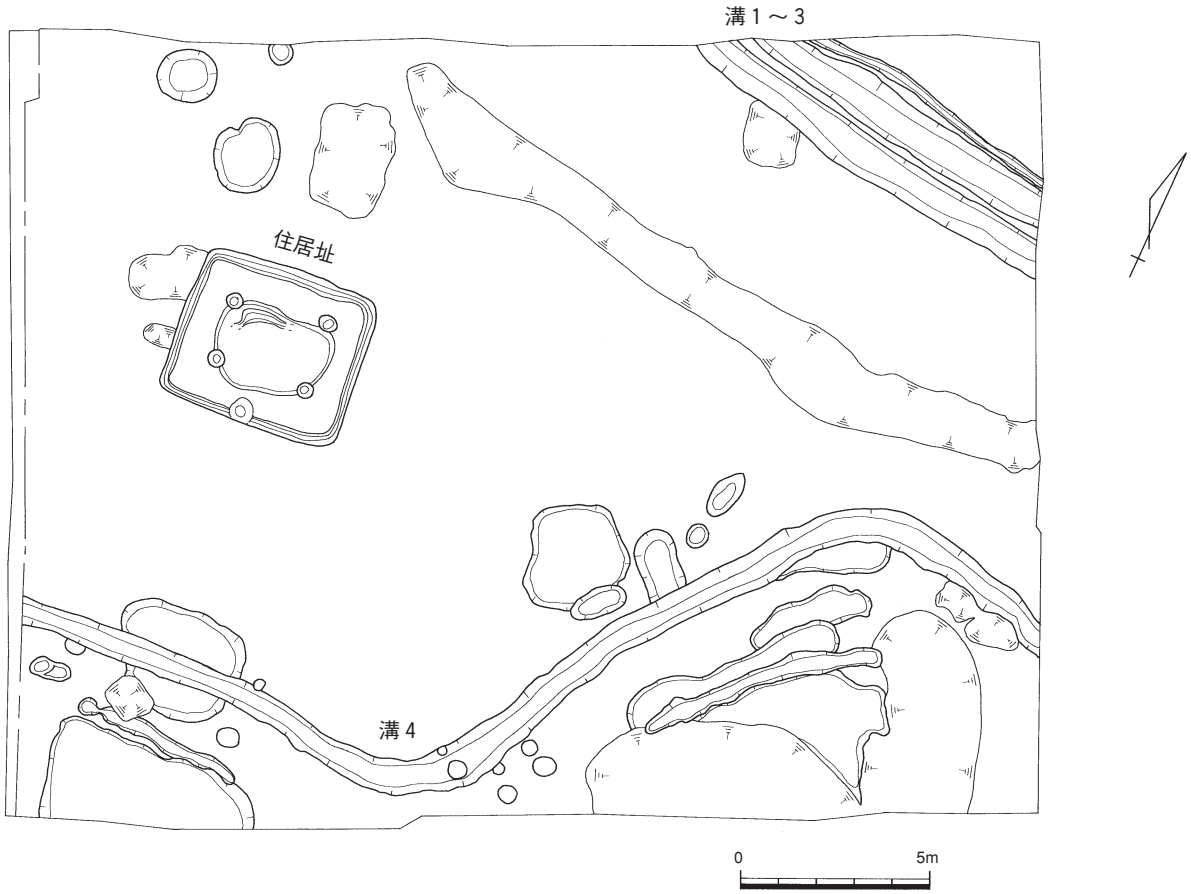
第135図　調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

溝はすべて弥生時代末～古墳時代初頭のもので，そのうち溝１～３は北西―南東方向に重複して検出された。埋土上層には，弥生時代末～古墳時代初頭の土器が廃棄されていた。

以上，今回の発掘調査により，弥生時代末～古墳時代初頭というある程度限定された時期の遺構が中心となることが判明した。遺構密度は低いことから集落の中心部分ではないが，以前の調査成果と併せ，集落内の空間利用や遺構の有機的な関わりを考える上で貴重な資料になりうるものと思われる。

（平井）

註　村上幸雄・谷山雅彦・高田明人「真壁遺跡　真壁字切子田ほか」『総社市史　考古資料編』1987



第136図　遺構配置図（Ｓ＝1/200）

第137図版　遺構完掘状況（南西から）

第138図版　住居址完掘状況（南西から）

山田地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査（10）

遺 跡 名　八紘２・３号墳

所 在 地　総社市山田

調査期間　平成15（2003）年10月21～12月31日

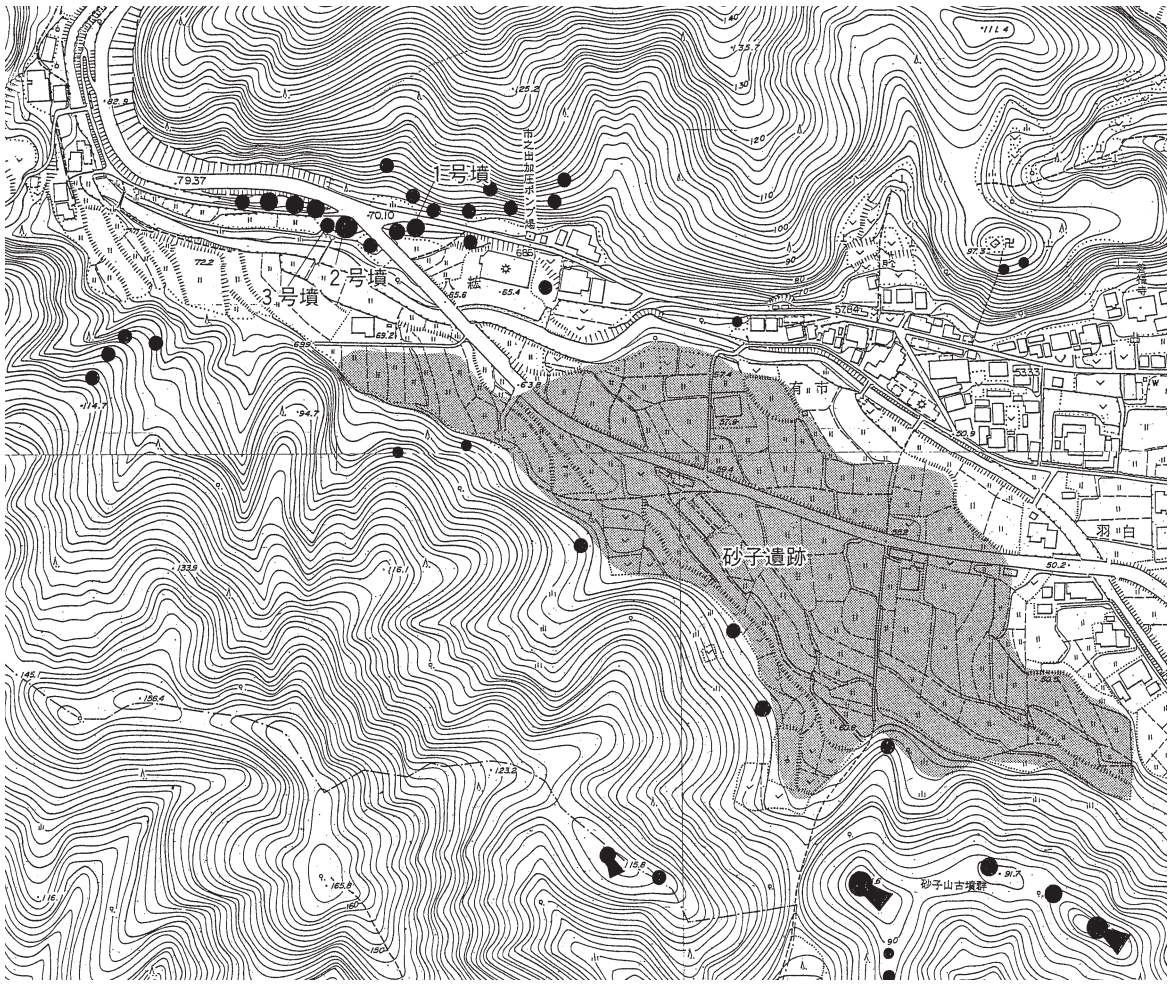
調査面積　290㎡

調査概要

今回の発掘調査の対象となった八紘古墳群は総社市山田に所在し，山田川を挟んで対岸に平成12年度に調査を実施した砂子遺跡を望む急峻な南向き斜面に，周溝を接するように密集して古墳が築かれている。現在の古墳群周辺は，県道・市道・宅地・田畑により改変されているため往時の景観は容易に想像し難いが，消滅したものも含めると優に30基を越える古墳が存在したと推定される。

八紘古墳群では平成14年度に，ほ場整備対象地区全体に配水するパイプラインの貯水池建設に伴い１号墳の発掘調査を実施したが，平成15年８月に県振興局より山田川から配水池への用水路建設にあたっての埋蔵文化財の有無について照会があった。

この用水路建設用地については，県道を挟んで隣接する１号墳の調査時に踏査を行い古墳とみられる高まりが存在し，石室の石材らしいものも散乱していることを確認しているため，複数の古墳が存



第139図　八紘古墳群位置図（Ｓ＝1/5,000）

第140図　八紘２・３号墳墳丘平面図（Ｓ＝1/100）

在する可能性が高い旨を県振興局に回答した。

この結果をうけて市教委では古墳の取り扱いについて県振興局・市耕地課と協議を行ったが，事業当局としては平成16年春に配水池を稼働させたいという地元の要望が強く，ほ場整備事業全体に影響する案件でもあるため直ちに工事に着手したい意向を示した。

市教委としては古墳の可能性が高いことから現状保存を要望したが，対象地は県道と市道でかなり改変されており，石材が抜き取られていることから遺存状態が良くないことが予想される点と，地元受益者への影響を考慮し，止むを得ず発掘調査を行い記録保存の処置をとることとなった。

発掘調査は樹木の伐採後に人力で表土の除去を開始したが，この段階で当初一つに見えた東西に細長い高まりは，二つの古墳の墳丘の間に大量の石材が埋められたものであることが明らかになった。

また，これらの石材は形が整ったものが多い点や地元住民の話から，昭和45年に行われた県道の工事の際に，未調査のまま破壊された複数の古墳の石室の残骸と考えられたため事業当局に経緯を説明し，撤去を要請して重機を用いて移動した。

この結果，２基の古墳の墳丘が周溝を共有するように，当初の予想に反する在り方で遺存する情況が明らかになり，東側の大型の古墳を２号墳，西側の小型の古墳を３号墳とした。（第140図）

（１）２号墳

２号墳は１号墳から県道を挟んだ西側に位置している。古墳の墳丘の東半分は昭和45年の県道建設時に未調査のまま削平され，石室も大半の天井石が大正年間に池の築堤用に抜き取られたため，遺存状態は総じてあまり良くない。

２号墳の横穴式石室（第141図）は目前に山田川を臨んで南に開口する全長８mの片袖式の石室で，玄室は長さ4.9m，幅２～2.2m，高さ２mで断面形がほぼ正方形を呈し，羨道部は長さ3.9m，幅1.8mを測り，玄室・羨道共に開口部に向けてやや広がる平面形態を呈している。

横穴式石室の側壁は両壁共に基底石に大型の石材を用いた２段の石積みで築造されており，奥壁は一枚石であるが幅が不足する部分については２段の石積みを用いている。いずれの壁面も石室内面が隙間なく平滑になるような石材の用い方を特に意識していると考えられる。

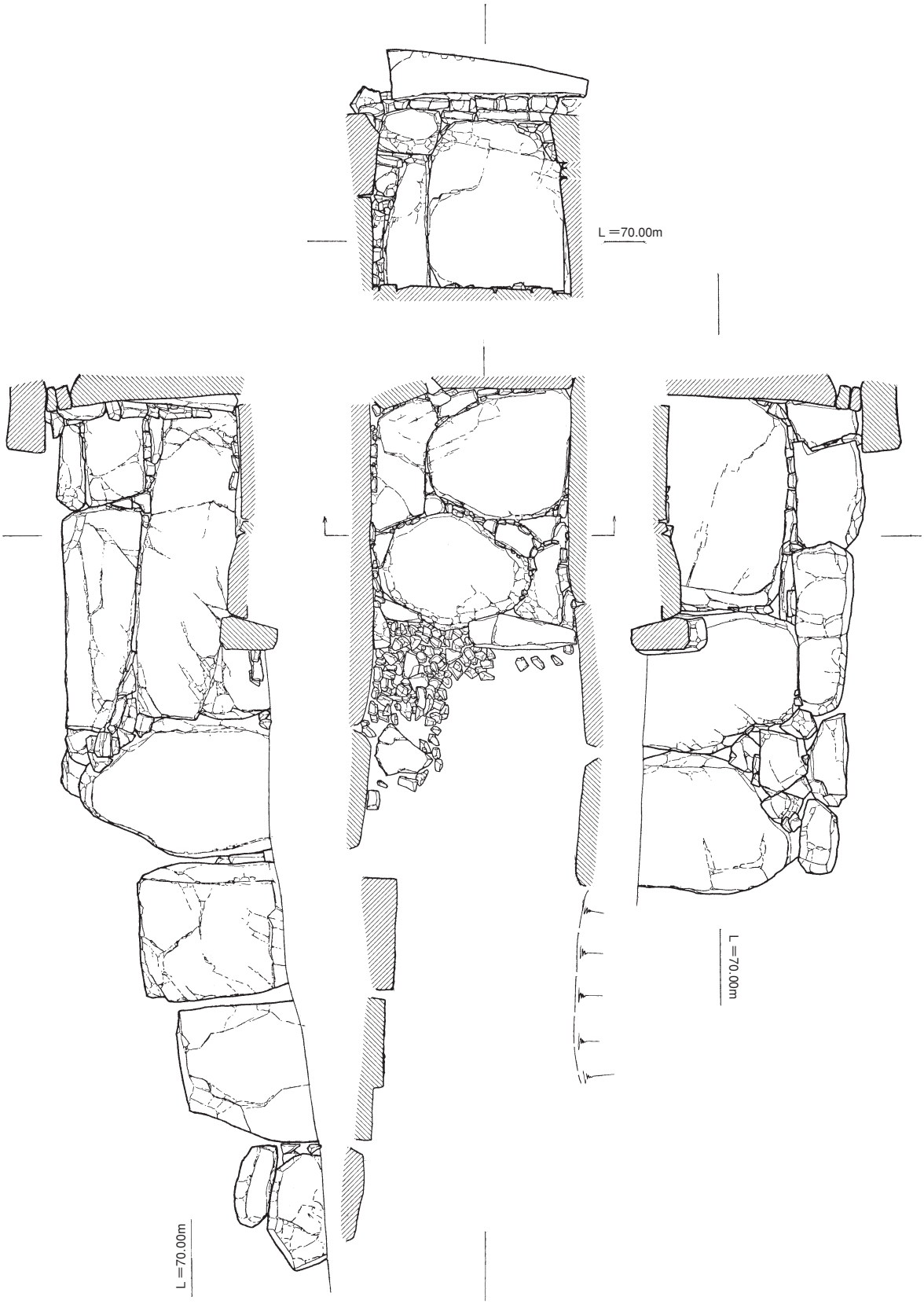
玄室の床面奥半分には，大型の板石が隙間なく敷かれているが，側壁との密着度合いや大きさを考慮するならば，これらの板石は石室構築時に敷かれたもので追葬時に追加されたものではない。

しかしながら，この敷石上は中世段階に激しく攪乱されており，焚き火のために板石が変色している箇所もあり，同様に羨道部に積まれた閉塞石も一見，原位置に近い印象を受けたが土床上から中世土器が出土したことからみて同じ段階に全て移動されたことが判明した。

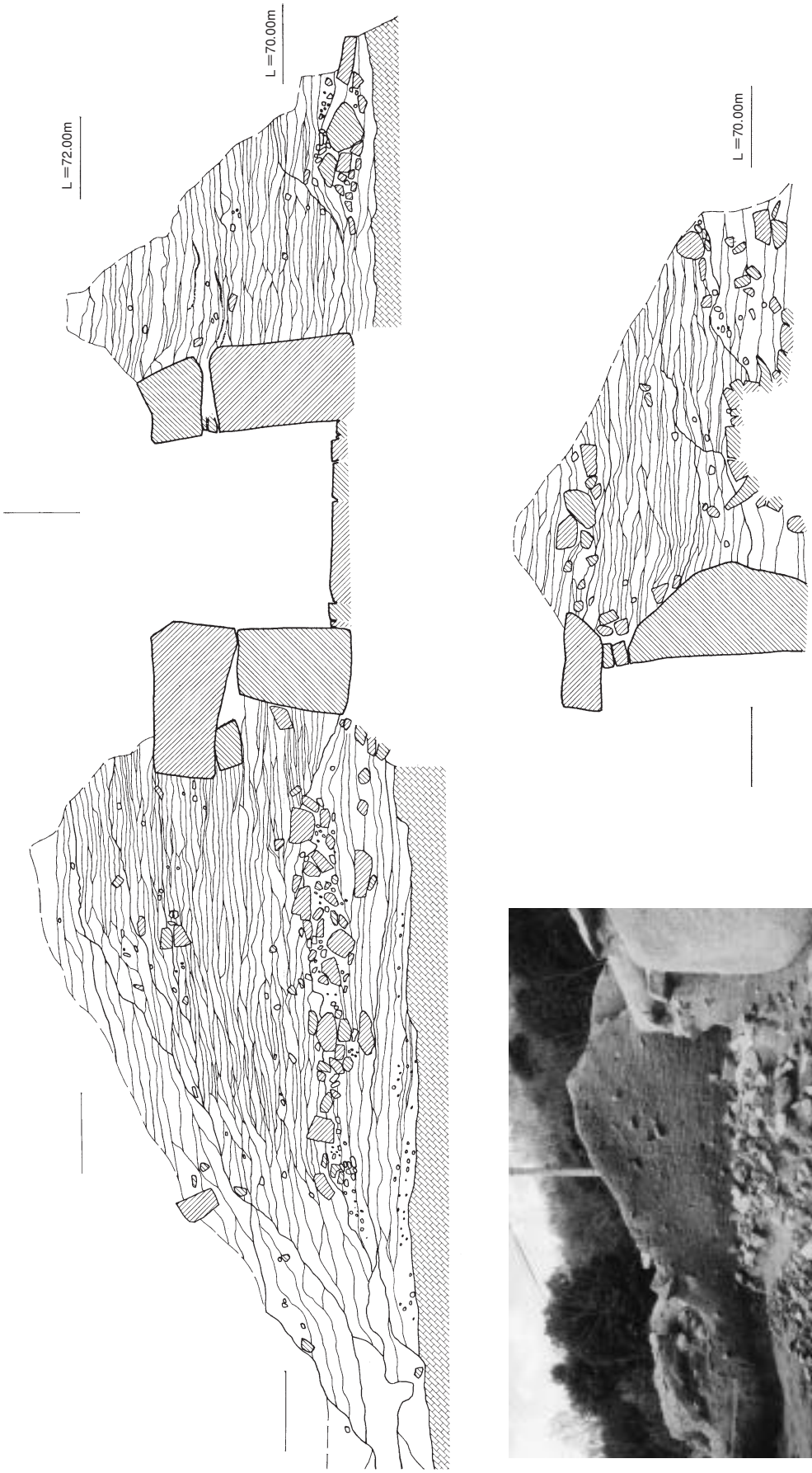
墳丘（第140図）は半分以上が遺失しているため正確な形状・規模は不明であるが，遺存する石室西側から推定すると直径20m前後の円墳と考えられるが，墳丘上に巡らされた二段の列石や西側の周溝が直線的な点を考慮すると五角形に近いやや歪な円形の可能性もある。

墳丘盛土（第142図）は良好な部分では高さ3.6mが遺存しているが，石室は地山を掘り込んで構築されておらず，盛土の積み上げ以前に石室を中心にした馬蹄形に大量の割り石を堤防状に積み上げて基盤層とし，石室の石材を据えつけている点が特徴である。墳丘盛土は柔らかい砂質土とよく締まった真砂土が互層状に細かく積み上げられており，石室に近い部分の側壁の高さまでは特に固く締められている。

本墳に伴う出土遺物（第144図）は，石室内では主に玄室と羨道部の境周辺から固まって須恵器・

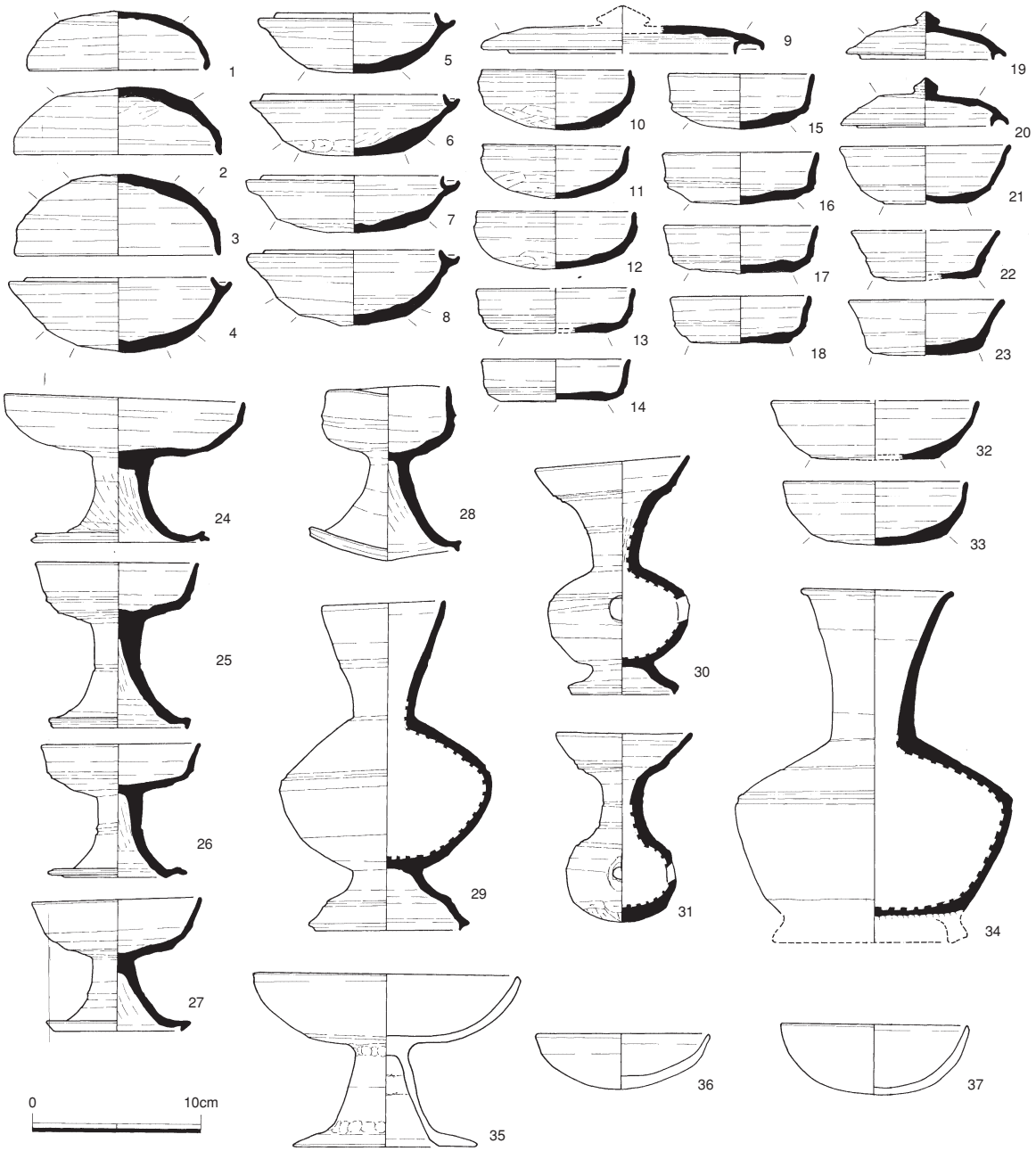


第141図　八紘２号墳石室平・断面図（Ｓ＝1/60）



第143図版　2号墳墳丘盛土断面（南から）

第142図　八紘2号墳墳丘・石室断面図（S＝1/60）



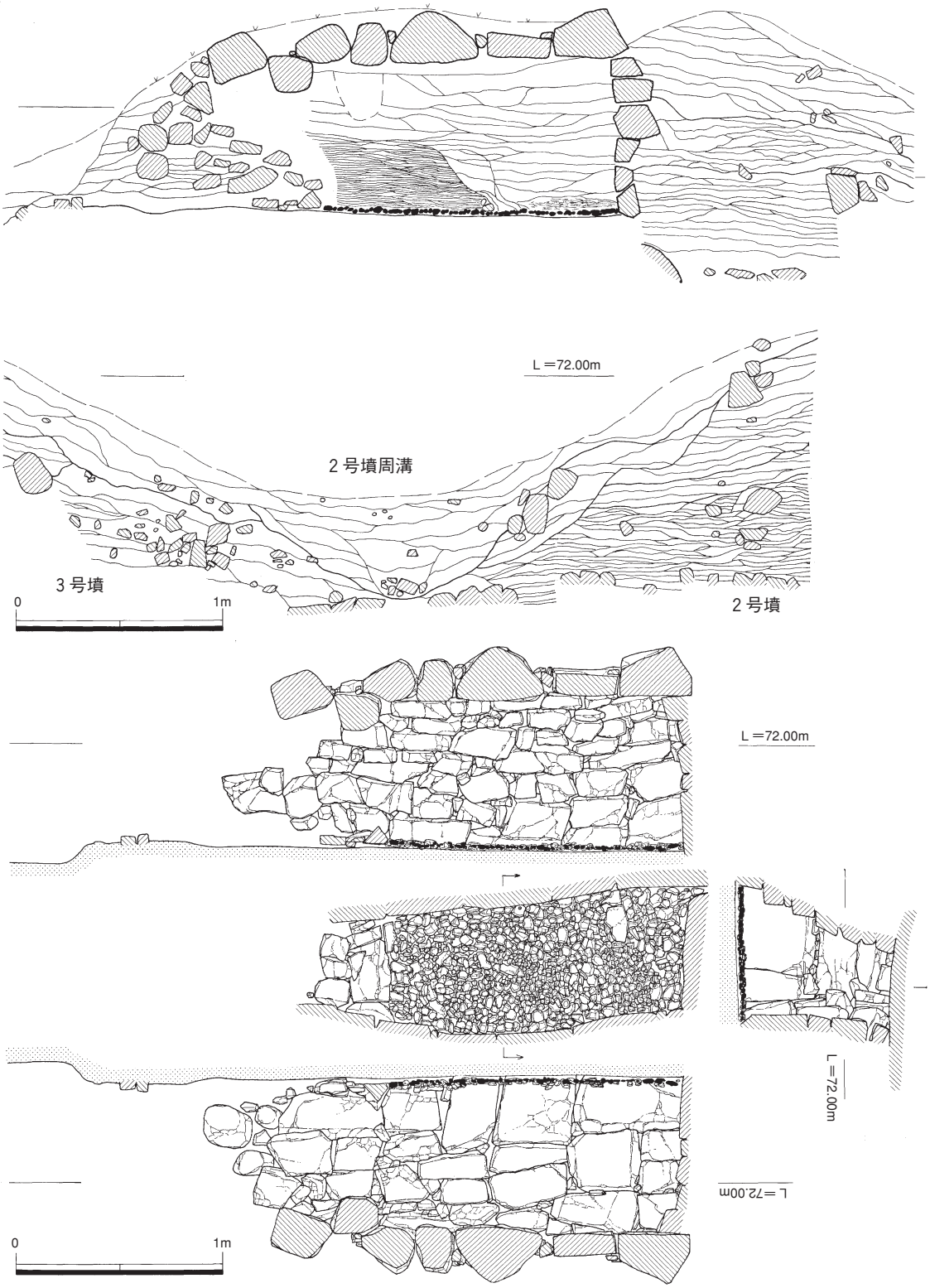
第144図　八紘２号墳出土遺物（Ｓ＝1/4）

土師器が出土したが，追葬に際しての片付けを想起させるように重ねられた状態で出土したことから，中世段階の攪乱は受けていないとみられる。

床面上からら出土した須恵器から本墳の築造時期を考えると，坏Hと口径の大きい坏G（21）は飛鳥Ⅰ期の段階とみられ，土師器を模倣した坏（10～12），高杯の坏部のような稜線を有する坏（13～18）や高杯。壺も同時期とみて差し支えないと思われる。

ただ，羨道や玄室内の攪乱土中から出土した坏B蓋（９）や口径の縮小した坏G（22・23）は，飛鳥Ⅲ期の所産と考えられ，８世紀前半の椀形坏（32・33），壺K（34）と共に追葬時の遺物である。

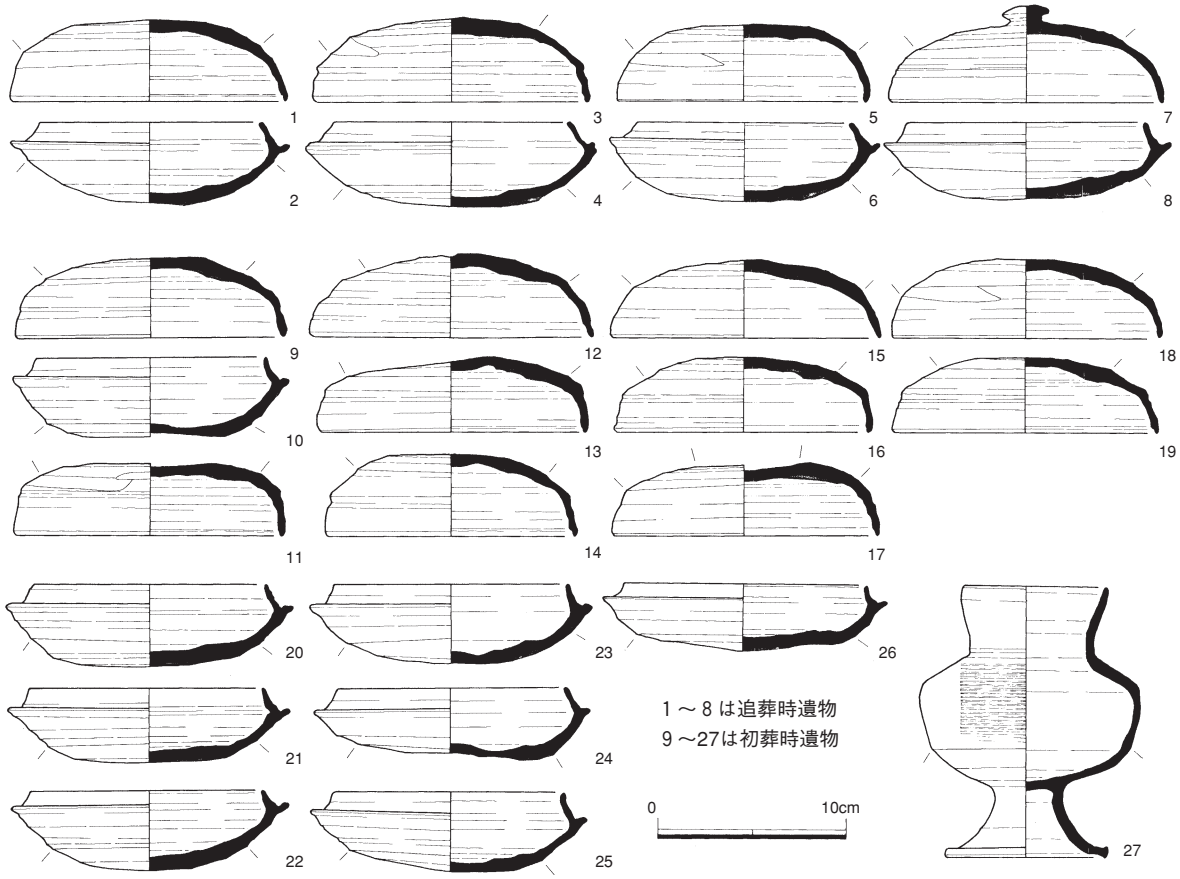
以上の見解から八紘古墳群の中で最大規模である本墳の築造時期は，前年度に調査を実施した近接する１号墳の追葬と同時期の７世紀前半中頃と考えられ，その後，７世紀後半と８世紀前半に追葬があったと考えられる。



第145図　八紘3号墳墳丘・石室断面図（S＝1/60）

（2）3号墳

3号墳（第140図）は2号墳の西側に墳端を接して隣接している。古墳は市道と用水路の建設時に墳丘を大きく削られているため石室の残存状態も良くないことが予想された。しかし石室の天井石を検出した段階で盗掘穴が見られず，西に開口する入り口の閉塞石と封土も二次的な移動が認められないことから，本墳は未開封の横穴式石室と判断した。



第146図　八鉱３号墳出土遺物（Ｓ＝1/4）

横穴式石室（第145図）は羨道部と玄室の区別が明確ではない全長４mの無袖式であるが，やや広くなる細かい敷石の部分を玄室とすると，その規模は長さ2.9m，幅１～1.2m，高さ1.4mを測る。

石室の天井は大きさの不揃いな７枚の石材で覆われており，奥壁と側壁もやはり大きさの不揃いな小振りの石材を４～６段積み上げているが，谷側の側壁に比較的大型の石材が用いられており，不安定な急斜面に立地する事情を考慮したものかもしれない。石室はこの地形を反映して谷側に激しく歪んで危険なため，天井石と崩壊寸前の山側の側壁の大半を除去して石室内の調査を行った。

石室の閉塞石は入り口の天井まで積み上げられており，その閉塞石を固定するように封土が固く締められている。石室内にはほぼ天井まで流入土が堆積しており，谷側側壁に接して幅50cm，長さ1.2mの木棺痕跡が検出された。奥壁際には蓋をした坏３個体（第146図）が並べられ，床面上からは風化した人骨が出土した他，山側の側壁際からは追葬時に片付けられた初葬時の須恵器（第146図）と頭骨が出土した。また，玄室に相当する部分の床面には，初葬時に色調を黒に統一したかのような小円礫が隙間なく敷かれており，それらを除去する過程で採取した土を洗浄したが玉等は出土しなかった。

墳丘の平面形態と正確な規模は不明であるが，残存する東側の墳端から推定して直径12～14mの円墳と考えられる。墳丘盛土は奥壁東側で高さ約2.5mが遺存しており灰混じりの黒色土と砂質土を主体として互層状に積み上げているが，１・２号墳のように細かく固いものではない。しかし，石室を地山に掘り込んでいない点や，地形の傾斜を考慮して基底部付近には大型の石材が用いられている。

本墳の築造時期は出土した須恵器が初葬・追葬共にMT85～TK43型式の法量と特徴を示すことから，６世紀末葉～７世紀初頭の短い期間に連続して埋葬されたと考えられる。（武田）

第147図版　八紘古墳群遠景（西から）

第148図版　八紘２号墳全景

第149図版　八紘２・３号墳近景（西から）

駐輪場建設に伴う発掘調査

遺 跡 名　図ノ木遺跡

所 在 地　溝口370－54の一部

調査期間　2004年２月14日～２月18日

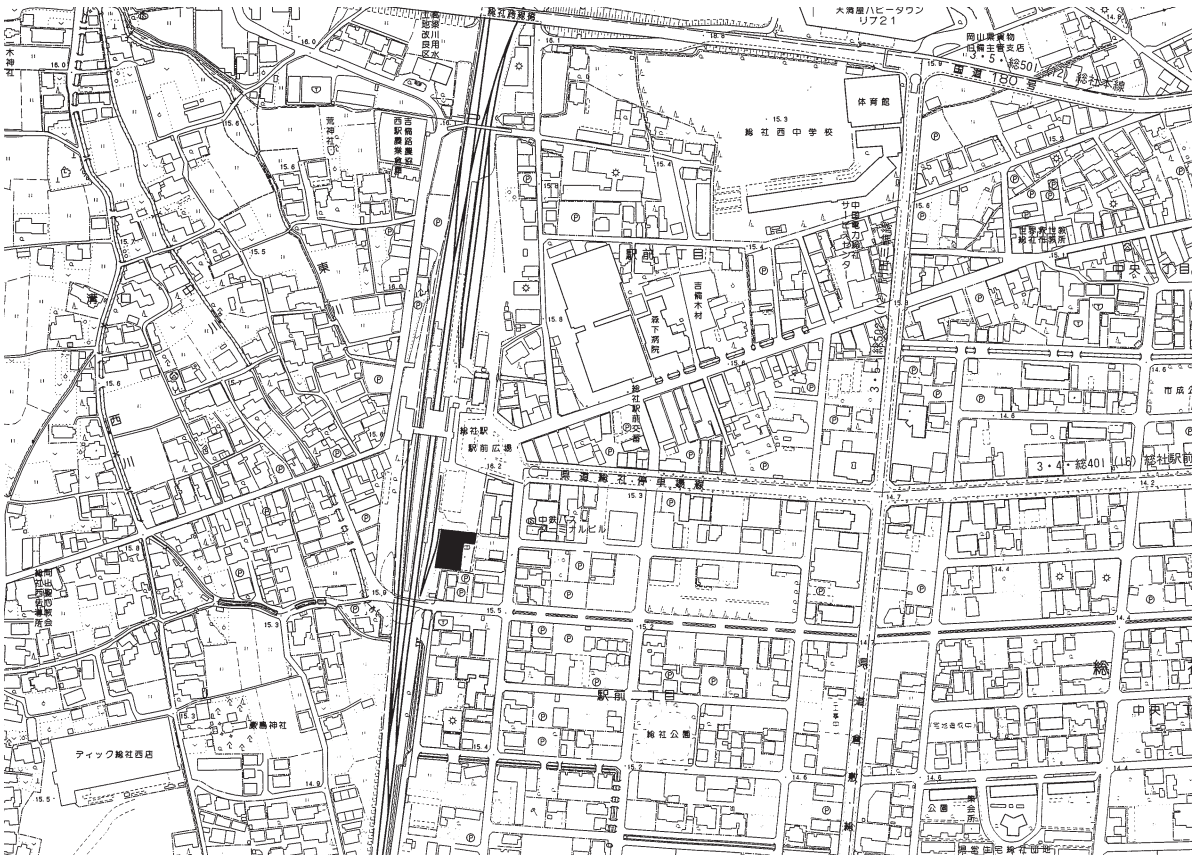
調査概要

JR総社駅前再開発の一貫として，駅舎の南80ｍ付近に，自転車駐車場を主たる用途とした地上３階，地下１階のビル建設が計画された。

JR総社駅舎改築時に，立会調査が実施されたが，調査者によると，砂層で遺構・遺物はなく，遺跡が存在する可能性は低いとのことであった。駅から150ｍ東の病院増築工事に伴う立会調査においても，砂質土が堆積し，遺構・遺物は検出されなかった。また，建設予定地南においても，立会調査によって砂礫層が確認され，遺跡は存在しないとのことであった。それらの調査結果から，当該地においても遺跡は存在しない可能性が高かったため，工事着工も迫っていたことから掘削時に立会調査を実施することとした。

事前の連絡を要請していたが，２月13日掘削を開始している旨の連絡を受け，文化課職員が現場に向かった。既に掘削されていた断面からは遺構が検出され，急遽工事業者，施主，文化課で協議した結果，工期内で竣工することも困難な状況ではあったが，施主のご理解とご協力により，１週間ではあるが調査期間を確保することができた。当日床堀りを実施し，翌14日より発掘調査に入った。

調査の結果，平安時代～中世にわたる遺跡の存在が確認された。土層の堆積状況は，約70cm程度の



第150図　調査地位置図（Ｓ＝1/6,000）

造成土直下に耕作土と床土が，その下層には５cm前後の旧水田層が２層認められた。さらに下層は15cm前後の厚さを測る褐灰色砂質土の包含層から基盤層と考えられる灰茶色砂質土へと続く。遺構はこの灰茶色砂質土上面で検出され，200を超える柱穴と，土壙４基，溝２条等が確認された。

今回の調査成果とこれまでの調査結果から，本調査区は南北に細長い微高地上に立地し，奈良時代以前の遺物が確認されなかったことから，微高地の形成時期は新しいものと考えられる。

（平井・高橋）

第151図　遺構配置図（Ｓ＝1/200）

第152図版　完掘状況（南東から）

第153図版　調査区完掘状況（北から）

４．史跡整備事業の概要

鬼城山環境整備事業

1　事業経過

鬼城山環境整備事業は，平成５年に設置した「鬼城山整備委員会」の指導・助言を受けて，国・県の補助事業として総社市が実施している。平成13年３月に策定した「鬼城山環境整備基本計画」に基づき，平成12年から平成16年を第１期整備期間とし，復元地区を中心に整備を実施中である。

平成13年度からは「史跡等活用特別事業」として，また平成15年度からは「史跡等総合整備活用推進事業」として整備事業を進めている。

平成14年度では西門復元と復元地区の高石垣から第０水門にかけての45m区間を修復，復元を行う予定としていたが，保安林解除等の手続の遅れから，西門復元以外の工期を平成15年に変更し予算を次年度に繰り越すこととなり，計画変更承認申請手続きを行った。

2　平成14年度整備事業（繰越）概要

高石垣の解体修理は，はらみ，ずれ等が認められた部分を解体修復し，その上に石垣前面に転落した石材を回収し積み足しを実施した。積み足し範囲は，発掘調査で明らかになった約22mの区間を対象とした。高石垣の修復形状は石垣両端が大きく崩れていたため，全体を高石垣とするのではなく，石垣背面の石垣構築に伴う掘り方や裏込め状の石が認められる範囲に沿う形で修復することとした。

土塁修復復元は高石垣から第０水門までの区間で，版築層上部の流土を除去し修復範囲等を決めた。西門から第０水門までは傾斜があり，城壁内側を雨水が流れ第０水門裏の集水地に集まるようになっていたと考えられる。この雨水の流れが，城内側から土塁上に変わり第０水門に接する東部分を大きく穿ち谷状としていた。このため，復元後も版築上を流れる雨水や，修復版築の荷重が第０水門部分に負担として掛かることが想定されたため，復元範囲を当初の範囲から東側に広げ安定性を高めることとした。版築復元範囲は31.5mである。

懸案の許認可が認められた後，平成15年５月から10月までの期間で工事を施行した。版築の工法は，古代山城では初の修復復元であるため，古代工法（現地の土を丹念に叩き締める）を用いた。しかし，古代版築の残存部分に新たに版築を継ぎ足すこととなるため，現代工法の土木ネットを併用し積み上げた。

3　平成15年度整備事業概要

（１）西門復元

西門は平成14年度に設計，部材調達を行い，平成15年度に建築を実施した。部材の加工は京都の宮大工の工場で加工し，平成15年７月に現地へ搬入した。搬入前に平成10年に仮整備していた柱板等を除去し，柱穴内に基礎を設置した。

８月４日までに柱立てと一階通路板壁を設置し，版築層が２階（城壁上面）まで上がるまでの期間は大工仕事を中断し，９月30日に再び部材搬入を行い，２階板壁等の続きから開始した。平成15年10月22日に上棟式を行い，３月17日に建具の取り付けを行い，同19日に岡山県建築検査を受けた。その他に西門東の板塀と避雷針，雨落ち溝の取り付けを行った。

（２）角楼表示

角楼は，古代山城では初めて検出した遺構であり，上部構造の復元は現時点では困難と考えられることから，土塁高さまでの復元で角楼表示を行うこととした。

平成15年度では柱立てを行い，この柱で囲まれた張り出し部の下部を石積み，上部を板壁とした。内部は西門と同様に板壁に掛かる土圧を軽減するためEPS工法とした。土塁上面の床及び転落防止柵は平成16年度で施行する予定である。

（３）高石垣・土塁修復復元

平成14年度繰越事業で実施した復元土塁の天端処理を平成15年度事業で施行した。また，高石垣修復を石垣西側部分で引き続き実施した。平成16年度で高石垣修復を完成する予定としている。

（４）ガイダンス施設敷地造成

平成16年度で建築を予定しているガイダンス施設の敷地造成を平成15年度で実施した。場所は史跡指定地に隣接する鬼城山駐車場である。ガイダンス施設としては，展示室・事務所・倉庫等を設けるよう計画している。

平成15（2003）年度事業経過

平成15年３月20日	西門復元工事契約
４月24日	第18回鬼城山整備委員会
５月19日	西門復元工事監理業務委託契約
６月16日	（版築土層剥ぎ取り工事契約）
７月16日	15年度実施設計並びに監理監督業務
９月16日	敷地造成工事契約（ガイダンス施設）
９月27日	第19回鬼城山整備委員会
10月22日	西門上棟式
10月31日	（平成14年度環境整備工事竣工）
11月15・16日	西門見学会
平成16年１月15日	（敷地造成工事竣工）
１月29日	環境整備工事契約（角楼・高石垣・土塁天端）
２月23日	西門復元付帯工事契約（避雷針・雨落ち溝）
２月25日	消防防火訓練（鬼城山西門）
２月26日	第20回鬼城山整備委員会
３月22日	西門復元工事竣工
３月30日	環境整備工事竣工
３月31日	西門付帯工事竣工（検査31日）
（５月17日	復元版築土塁崩落を確認）

（谷山雅彦）

第154図　鬼城山環境整備復元地区図（S＝1/1,000）

第155図版　西門復元と高石垣・土塁遠景（学習広場から）

第156図版　角楼表示遠景（学習広場から）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	そうじゃしまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書　　名	総社市埋蔵文化財調査年報
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	総社市埋蔵文化財調査年報
シリーズ番号	14
編 著 者 名	谷山雅彦，平井典子，武田恭彰，前角和夫，高橋進一，松尾洋平
編 集 機 関	総社市教育委員会
所　在　地	〒719-1192　岡山県総社市中央一丁目１番１号 TEL0866-92-8363
発 行 年 月 日	2005年（平成17年）２月

総社市埋蔵文化財調査年報　14

平成17年（2005）年2月10日印刷・発行

編集発行　総社市教育委員会
総社市中央一丁目1番1号

印　　刷　サンコー印刷株式会社
総社市真壁871－2